埼玉県の蚕糸業

１９３７年4月

埼玉縣の蠶絲業

L630

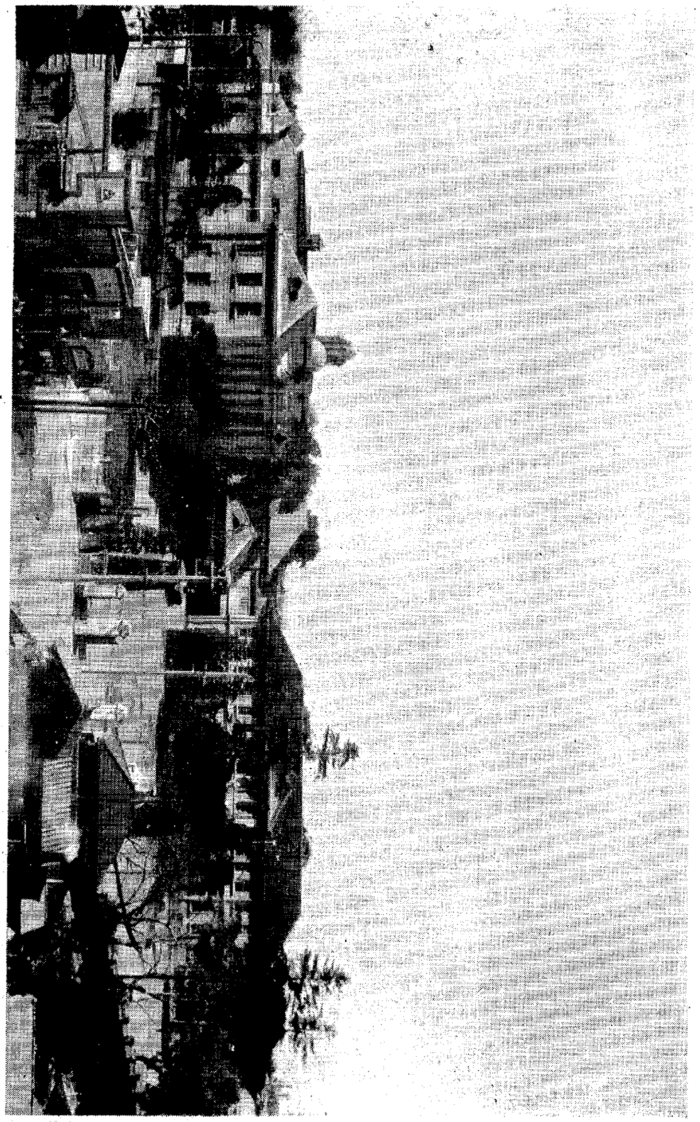
埼玉縣の蠶絲業

目次

一、縣勢概況……一
二、本縣蠶絲業の沿革及現況……三
(一)栽桑……六
(二)蠶種……二一
(三)養蠶……二六
(四)繭處理……五七
(五)製絲……六一
三、本邦蠶絲業上に於ける本縣の地位……七一
四、蠶絲業の施設……七二
(一)蠶絲課……七二
(二)蠶業取締所……七三
(三)蠶業試驗場……七六
(四)繭檢定所……七九

(五) 蠶絲業教育……八〇
(六) 獎勵施設……八一
五、蠶絲業團體……八九
(一) 埼玉縣養蠶業組合……八九
(二) 埼玉縣蠶種業組合……九一
(三) 埼玉縣製絲業組合……九二
(四) 埼玉縣產業組合製絲組合……九二
(五) 埼玉縣繭絲同業組合……九三
(六) 埼玉縣桑苗同業組合……九三
(七) 埼玉縣養蠶技術協會……九四
(八) 埼玉縣蠶種販賣同業組合……九五
(九) 埼玉縣乾繭組合協會……九六
(十) 大日本蠶絲會埼玉支會……九七
六、本縣名所舊蹟……九七

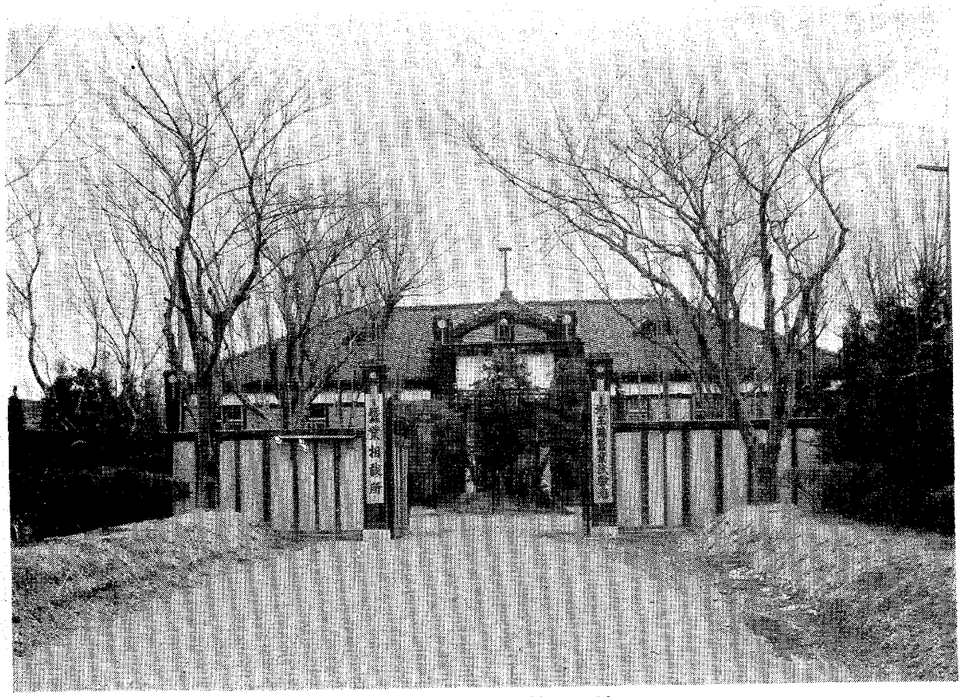
県立浦和図書館 9108584 蔵書



埼玉縣廳

埼玉縣蠶業試驗場川越支場

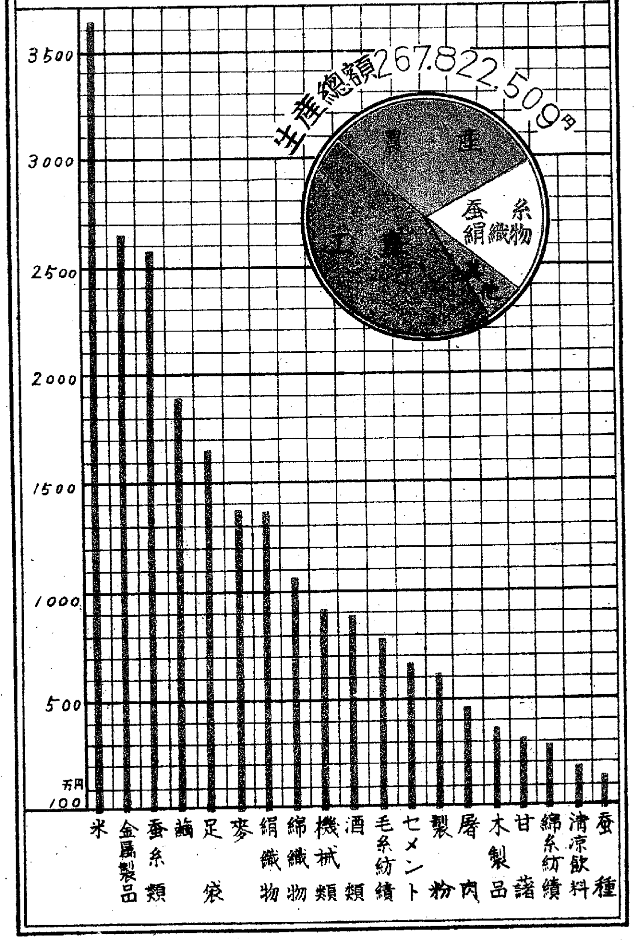
埼玉縣蠶業試驗場秩父支場

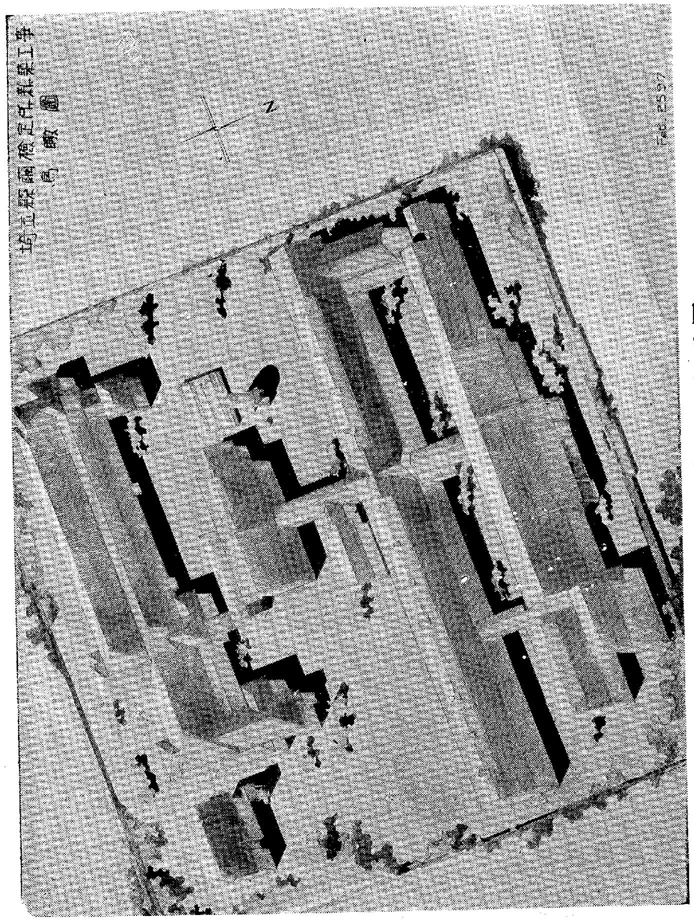


埼玉縣蠶業試驗場

昭和十年

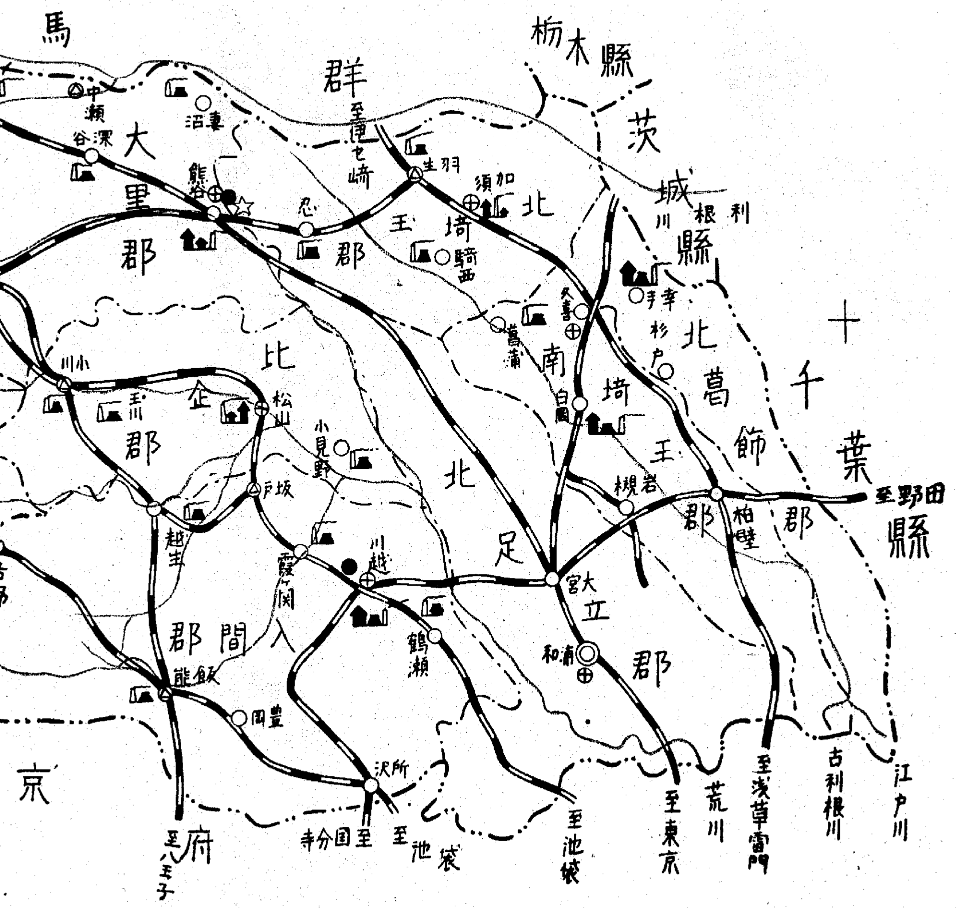
埼王縣重要物産



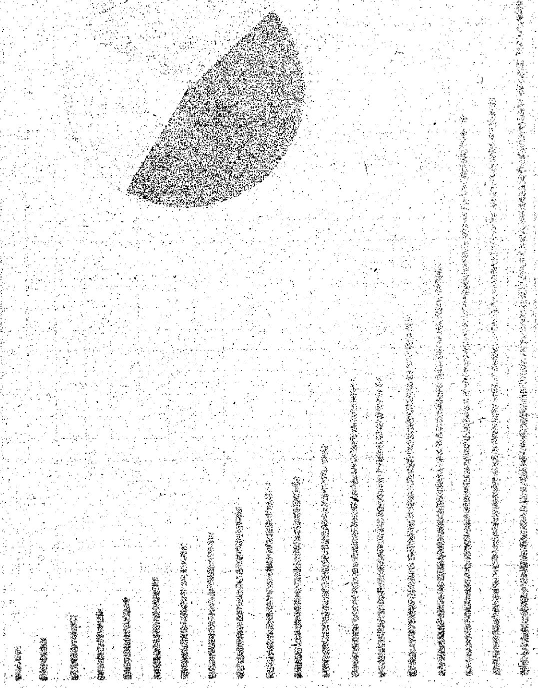


埼王縣繭檢定所鳥瞰圖

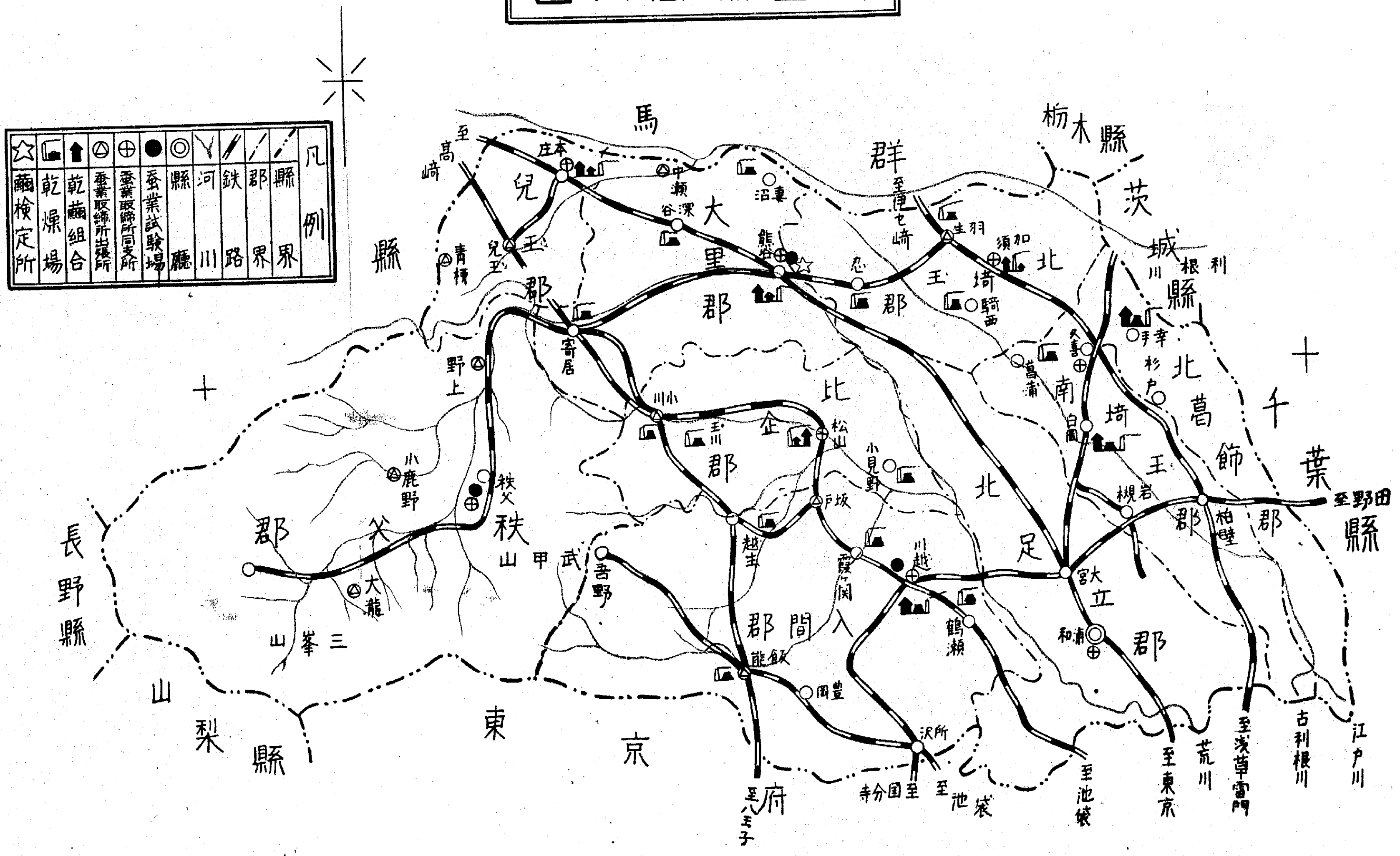
埼玉縣管内



群馬
栃木縣
茨城縣
千葉縣
東京
大里郡
北埼玉郡
南埼玉郡
北葛飾郡
比企郡
入間郡
北足立郡
熊谷
深谷
忍
羽生
加須
騎西
久喜
菖蒲
幸手
杉戸
岩槻
粕壁
大宮
浦和
川越
松山
小川
坂戸
越生
飯能
所沢
鶴瀬
豊岡
利根川
江戸川
古利根川
荒川
至東京
至池袋
至浅草雷門
至野田
至八王子
至国分寺



埼玉縣管内圖



凡例
縣界
郡界
鉄路
河川
縣廳
蚕業試験場
蚕業取締所同支所
蚕業取締所出張所
乾繭組合
乾燥場
繭検定所
群馬縣
栃木縣
茨城縣
千葉縣
東京
山梨縣
長野縣
兒玉郡
大里郡
北埼玉郡
南埼玉郡
北葛飾郡
北足立郡
比企郡
秩父郡
入間郡
至高崎
本庄
中瀬
深谷
妻沼
熊谷
忍
至伊勢崎
羽生
加須
騎西
久喜
菖蒲
幸手
杉戸
白岡
岩槻
粕壁
至野田
大宮
浦和
兒玉
青柳
寄居
野上
小川
松山
小見野
秩父
小鹿野
大瀧
三峯山
武甲山
吾野
越生
坂戸
霞ヶ関
川越
鶴瀬
飯能
豊岡
所沢
至八王子
至国分寺
至池袋
至東京
至浅草雷門
利根川
荒川
古利根川
江戸川

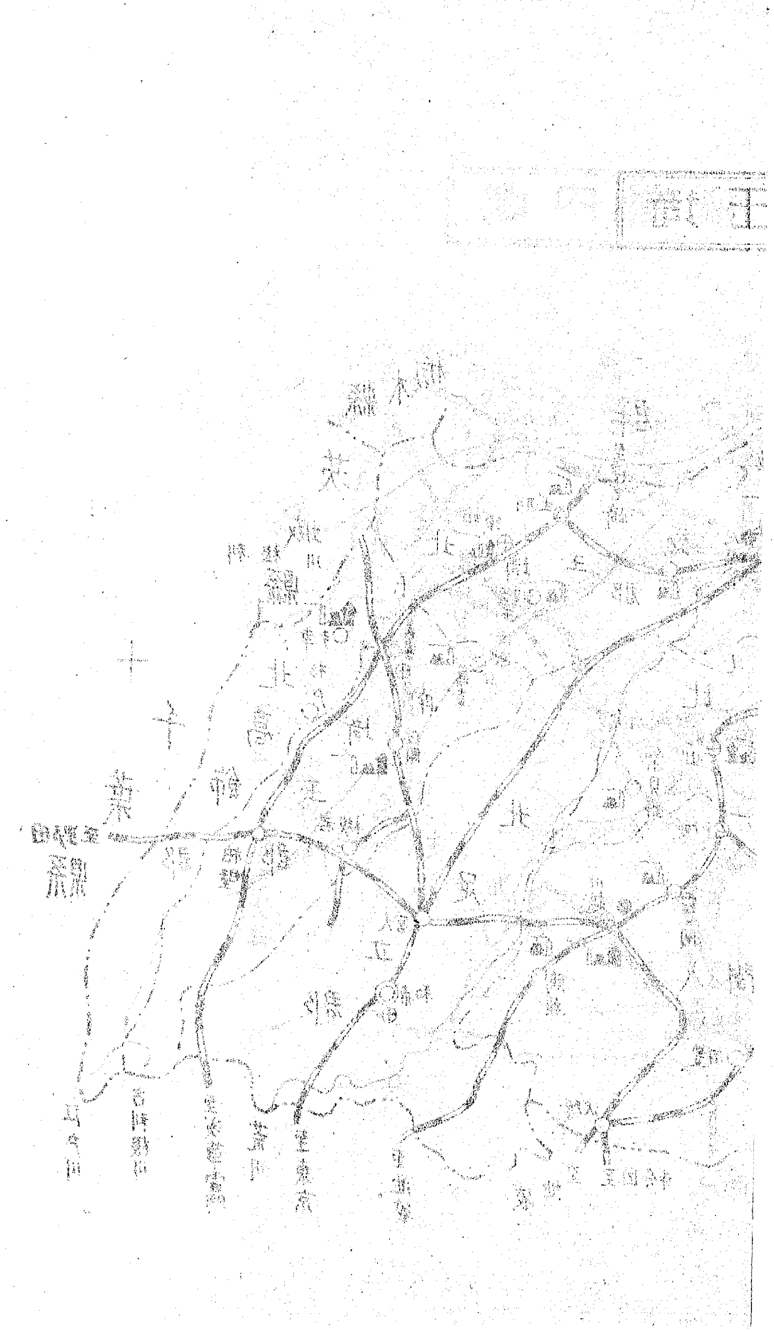
埼玉縣の蠶絲業

一、縣勢概況

【位置並地勢】本縣は關東平野の西部に位し武藏國の北部を占め東經百三十八度四十三分（秩父郡大瀧村）乃至百三十九度五十四分（北葛飾郡早稻田村）北緯三十五度二十九分（北足立郡片山村乃至三十六度十七分（兒玉郡賀美村）の間に在り廣袤東西九十四粁、南北五十一粁、面積三千八百二方粁七にして全國中三十九位に當る。而して南方は東京府及東京市の一部と地相交錯し、西は關東山脈に依り長野、山梨の兩縣と境し、北及東は渡良瀨川、神流川、中川、利根川及江戸川を隔てゝ群馬、栃木、茨城及千葉の諸縣に對す。地勢西部は山岳重疊せるも東部大半は所謂往昔の武藏野にして南西縣境に源を發せる荒川支流を集めて之を貫流し土地平坦耕農良く行はる。

【土地】昭和九年末に於ける總地積は三十三萬九千餘町にして國有地五萬餘町、民有地二十八萬九千餘町等なり。これを地目別に見れば山林の十一萬五千餘町最も多く、畑の九萬四千餘町、田の六萬八千餘町之に亞ぎ、其の他は宅地の一萬六千餘町、河川敷の一萬餘町等なり。

尙全管を浦和、川口、川越、熊谷の四市、北足立、入間、比企、秩父、兒玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾の九郡に分ち四八町三百十一ヶ村を包有す。



【氣象】 氣候概ね溫和にして熊谷市に於ける平年氣溫は十三度四分なり、七月上旬より八月下旬に最も高く、一月より二月下旬に最も低し。平年に於ける最高氣溫は三十八度四分にして最低氣溫は零下十一度六分を示し、大體に於て著しき差なしと雖も西部は山岳連亘するを以て平坦地に比し低きを常とす。而して平年に於ける降水量は千三百五十粍一分にして晩夏の候より初秋の期に最も多く寒中に少きを例とす。

【人口】 昭和十一年十月一日の國勢調査に依る本縣人口は百五十二萬八千八百五十四人にして之を昭和五年の調査に比すれば六萬九千餘人(四分八厘)を增加せり。其の世帶數は二十七萬七千五百七十二にして、人口密度は一方粁當四百二人にして全國平均百八十一人より遙に高く、郡部に於ける最高は北足立郡の六百十人にして、秩父郡の百二十人を最少とす。男女の割合は女百に付き男九十七人二六にして女子の超過を示す。

【產業】 本縣は土地豐穰にして且つ地味肥沃なるを以て古來農耕に適し、農業を營むもの最も多く最近に於ける農作業主數は十六萬九千八百餘(その被用者數三十八萬七千八百餘)にして縣下總世帶數の六割餘を占め、昭和十年末現在に於ける耕地面積は十六萬二千九百餘町を算し農家一戶當九段六畝なり。而して縣內總生產額は二億六千七百八十二萬餘圓にして內工產額は一億六千八百四十九萬餘圓、之に亞ぐは農產の八千六百四十三萬餘圓にして其の他は畜產、林產、鑛產、水產の順序なり。

【交通】 西部一帶には山岳連亘すと雖も其の他は概して平坦にして鐵道には省線に東北本線、高崎線及八高線あり、又私設には東武、總武、西武、秩父、武藏野及武州の諸鐵道ありて此の延長四百九十三粁に達せり。道路は國府縣道延長二千三百七十二粁餘、內國道百二十粁餘、府縣道二千二百五十二粁餘にして概ね各市町村に通じ、三萬五千百三十三粁餘の市町村道之を補へり。

【財政】 昭和十二年度に於ける本縣歲出豫算額は九百五十二萬一千五百五十八圓にして內縣債費百九十萬二千八百四十七圓首位を占め、之に亞ぐは敎育費の百七十九萬一千五百九十九圓、警察費の百十五萬八千三百四十四圓等なり。而して之が歲入は稅收入の五百八十萬八千百一圓にして總額の六割一分弱に當り、其の他は縣債、雜收入、國庫補助金、寄附金等なり。

二、本縣蠶絲業の沿革及現況

本縣蠶絲業の起原並に往古に於ける狀況は之が溫故の資料極めて乏しく、今之を詳かにすること難しと雖口碑又は諸種の考證に據り按ずるに紀元五百七十年代崇神天皇の御宇既に多少養蠶行はれ同七百七十年代景行天皇の御代には普通農事と並び稱せらるゝ迄に發達したるものゝ如し。其の後歷代の皇室斯業に大御心を寄せられ、或は歸化人をして養蠶、機織の業を敎へしめ、或は諸國に詔して桑樹を栽植せしめ、或は絹、絁を貢せしむる等種々の手段を以て之が改發に努められたる爲、本縣の蠶絲業亦漸次發達するに至れり。紀元一千三百七十五年元正天皇の御宇駿河外六箇國に居住せる高麗人千七百九十九人を本縣に移住せしめたるが、之等歸化人は養蠶、機織の業に精通し專ら之に從事したるを以て玆に本縣の蠶業は格段の進步をなし、遂に今日の素因をなすに至りしなり。

口碑の傳ふる所に依れば、其の後前記高麗人中舊陣屋を毀ち桑園を設けたるものありしと言ふ。是れ蓋し本縣に於ける桑園設置の嚆矢ならんか、爾後數百年間は史の徴すべきものなく蠶業の事蹟漠然として知るに由なしと雖、惟ふに年と共に機織の業發達しつゝありしを見れば、斯業亦世運の進歩と共に次第に發展の機運に向ひつゝありしを知るべし。然るに紀元一千六百年代朱雀天皇の御宇平將門亂を構へて以來世は漸く擾亂し、政權武門に歸し農民は殆んど兵役に疲れて生業を顧るの暇なきに至り、從つて蠶業も時に或は多少振興したる時代無きにしも非ざりしが概ね不振の狀態にありしもの〻如し。

德川氏天下を平定し世は泰平を謳ふに從ひ本縣の蠶業亦再び勃興するに至りしが其の後幕府の禁絹の制により一時その發達を阻止せられたるも時勢の變遷支へ難く元祿時代には相當に行はれたるもの〻如く、同五年武藏外六箇國の蠶種商八王子町に相會し諸種の盟約を爲したる事實あり、其の後養蠶秘錄(享和三年發行)養蠶絹篩大成(文化十年發行)等によれば之等時代には本縣は既に全國中養蠶主要國なりしことが證せらる。降つて嘉永年間秩父郡小鹿野町の人森伊左衞門なる者各地を漫遊して製絲の術を究め、歸來後其の方法を同地方に弘め、且製絲器械の改良を圖りし以來本縣の製絲業は漸く發達するに至れり。安政二年には今の大里郡血洗島の人澁澤宗助養蠶手引抄なる養蠶書を版刻し養蠶の道を公にせり。

安政六年橫濱港を開き外國貿易の開始せらる〻や、從來我が國內の需要を充すに過ぎざりし生絲は輸出品中の大宗として盛んに海外に輸出せられ頓に我が蠶絲業の勃興を促し國內到る處に行はる

〻に至れり。本縣の蠶絲業亦此の好機運に促され次第に進歩發達し維新當時に至りては繭及生絲等少からざる産額を見るに至れり。

而して開港以來明治十年頃に至る間は實に一大過渡期にして、百般の制度未だ備らず海外の情勢に通曉せるもの甚だ稀にして蠶絲業の改良奬勵に關する政策亦統制を缺くの憾なきに非ざりき。明治十年頃に至り專ら當局の奬勵に依り器械製絲業興りたりと雖も資金乏しく且經營技術其の宜しきを得ざりし爲遂に成功するに至らず、二十年頃に於ける斯業の趨勢は只管養蠶の改良發展のみに傾注し、幾多の傳習所と專業的大養蠶家踵を接して起り製絲業は寧ろ寂寞の感なきに非ざりしが、三十年以降は養蠶、製絲兩々相俟つて發達し、而も此の時代は國家諸般の制度も整備し、當業者の知識、技術亦昔日の比に非らず、其の經營漸く面目を改め斯業の基礎愈々確立し爾來政府の奬勵施設擴充と蠶絲業敎育の普及とに依り斯業の進歩發達は年々目覺しく以て今日をなすに至れり。

然して現在に於ける本縣蠶絲業の大勢を示せば次の如し。

項目		昭和十年	同十一年
桑園反別		三三三、〇六二段	三二九、〇四〇段
養蠶戸數		九七、六一八戸	九六、〇二八戸
掃立卵量		一一、〇三七、六一四瓦	一一、〇七七、五四三瓦
産繭	産額	四、八五二、四四六貫	五、四九九、〇五二貫
	價額	一九、〇四六、九九六圓	二四、一八〇、三六三圓

蠶種製造者數	二六五名	二四二名
蠶種製造額（原蠶種）	一、一〇〇、三九〇蛾	九四一、七六五蛾
蠶種製造額（普通蠶種）	一三、〇〇〇、二九六瓦	一〇、一三九、四六五瓦
製絲場數	三、六四八	
繰絲釜數	一六、〇六二釜	
生絲（產額）	五七六、一九三貫	
生絲（價額）	二五、七〇〇、四五八圓	

（一）栽桑

【沿　革】

明治二年川越藩主松平大和守は領民に對し大に蠶業の奬勵を爲し、桑苗十五萬本を群馬縣より求め領內各町村に植付けしめ、且つ教師を派して栽桑の實地指導を爲さしめたり。其の後縣に於ては屢々告諭を發し或は吏を派して桑園の增殖及改良を奬勵したりしが、明治六年四月荒川堤外へ桑樹栽殖の目的を以て開墾許可を申請せしに直に許可せられ、爾來堤外に桑園を設くるもの年々增加するに至れり。其の後桑園漸く增加するに伴ひ害蟲の發生多くなりたるを以て、十一年十一月桑園害蟲驅除の必要を認め之を勵行すべき旨布達せり。爾後掃立數量の增加と桑園の荒廢とに依り年々桑葉の不足を告げ養蠶家の不利尠なからざりしを以て、明治四十年より四十二年に至る三ケ年間補助金を交付して桑園の改良增殖を奬勵したり。明治四十三年八月中旬に於ける大洪水は數千町步の桑園を殆んど荒蕪廢滅に期せしめたるを以て、明治四十四年度に於て補助金を交付し之が復舊、改植を圖れり。大正八年以來專ら晩生桑の驅逐を爲し、早、中生桑に改めしむるを主眼とし養蠶組合又は其の他の團體に補助金を交付し之を奬勵せり。而して昭和二年よりは從來の補助政策を改めて縣は蠶業試驗場及秩父支場外尙七ケ所に指導圃を經營し、近時發達せる栽桑の技術と其の効果を實際的に知らしむる方法を採り、所謂不經濟桑園の撲滅を期せり。爾來逐次業界の不況となるに及び繭生產費低下を圖るの必要を認め、之が引いては桑園能率增進となりて昭和七年度より荒廢桑園の整理改植に對し國は之が助成を爲すに至れり。之の施設に伴ひて昭和七年度以降桑園の整理を斷行し、一時四萬餘町步に亘れる桑園も昭和十一年に於ては三萬二千九百餘町步に減少するに至れり。

【現　況】

昭和十一年に於ける本縣桑園反別は三萬二千九百餘町步にして長野、群馬に次ぎ全國第三位を占む。繭產額は年約五百五十万貫にして之れ亦長野、群馬に次ぎ全國第三位を占む。桑園一反步當り收繭額を見るに昭和五年には反當十三貫八十八匁なりしが、昭和十一年に於ては十六貫七百十二匁にして桑園整理改植の結果著しく反當能率の增加せることを知る。之を全國昭和十一年反當平均十四貫六百四十六匁に比較するときは二貫六十六匁多きも、縣の指導目標たる反當縣平均二十五貫には未だ相當の隔りあるを遺憾とする所なり。今之等の隔年の消息を示せば次の如し。

年次	桑園反別	桑園反當平均收繭額	同上指數	產繭額 春蠶繭	同上指數	夏秋蠶繭	同上指數
自四十一年至四十二年平均	町 二七、六九一・四	貫 八・七	一〇〇	貫 一、八二四、〇六一	一〇〇	貫 五四八、七六六	一〇〇
大正三年	二五、七五二・七	一〇・二	一一七	一、七七三、一八〇	九七	八四三、八八〇	一四四
同七年	二五、七八二・二	一六・一	一八五	二、四四〇、七五〇	一三三	一、七五五、〇二〇	三〇〇
同十一年	二七、一四八・九	一四・三	一六四	二、一八一、五四五	一二〇	一、六八七、五九三	二八九
昭和元年	二九、四一四・九	一五・四	一七七	二、六〇〇、九九二	一四〇	一、九二五、二二四	三二九
同五年	四〇、五四三・八	一三・一	一五一	二、九七九、六四五	一六三	二、三二六、五九二	三九八
同九年	三五、四三五・四	一五・四	一七七	三、一一八、九二七	一七一	二、三三八、六七四	四〇〇
同十一年	三二、九〇四・〇	一六・七	一九二	二、八九六、二二三	一五九	二、六〇二、八三〇	四四五

（イ）桑園反別

本縣桑園反別は昭和五年迄は年々多少宛の增加を見たりしが、昭和七年以降蠶絲業の不況に伴ふ匡救事業たる桑園整理の結果漸次減少し、昭和十年に於ては耕地反別の二割强、畑反別の三割五分に該當するに至れり。今最近十七ケ年の桑園反別及昭和十一年郡市別桑園反別を示せば次の如し。

（一） 桑園反別の變遷

年次	桑園 春蠶用	夏秋蠶用	計	畑反別	對畑反別桑園反別割合
大正九年	町 二三、九九〇・〇	町 三、六六〇・三	町 二六、六五〇・三	町 九四、二二三・八	% 二八・三
同十年	二四、〇七四・〇	二、七五七・〇	二六、八三一・〇	九三、五二五・九	二八・七
同十一年	二四、四六七・九	二、六八一・〇	二七、一四八・九	九四、九〇九・九	二八・六
同十二年	二五、〇五九・一	二、四九四・六	二七、五四九・七	九五、四八七・六	二九・九
同十三年	二五、三五四・二	二、九七二・五	二八、三二六・七	九五、五四一・四	二九・六
同十四年	二五、八五〇・五	三、一〇六・四	二八、九五六・九	九六、三八八・六	三〇・〇
同十五年 昭和元年	二五、九六二・九	三、四五二・〇	二九、四一四・九	九七、一四〇・五	三〇・二
同二年	二六、九三八・四	三、六七九・三	三〇、六一七・七	九七、四〇五・〇	三一・四
同三年	二八、五六九・四	三、七一二・三	三二、二八一・七	九七、三〇八・〇	三三・五
同四年	二九、四七一・九	三、六九七・六	三三、一六九・五	九五、八三一・九	三四・四
同五年	三六、〇二八・七	四、五一五・一	四〇、五四三・八	九五、八五六・三	四二・三
同六年	三四、三四二・二	四、一三八・九	三八、四八一・一	九四、四八八・五	四〇・七
同七年	三三、四六一・九	三、九六三・五	三七、四二五・四	九四、三三九・七	三九・七
同八年	三二、八三八・四	三、五七七・六	三六、四一六・〇	九四、二五七・六	三八・六
同九年	三二、〇〇八・八	三、四二六・六	三五、四三五・四	九四、三四八・二	三七・六
同十年	三〇、二〇四・一	三、一〇二・一	三三、三〇六・二	九四、二七五・五	三五・三
同十一年	二九、九一八・四	二、九八五・八	三二、九〇四・〇		

（二）桑園反別の現況

郡市別	總數	本畑		其の他畑		其の他	
		春蠶用	夏秋蠶用	春蠶用	夏秋蠶用	春蠶用	夏秋蠶用
北足立・浦和	町 二、一五〇・二	町 二、〇四八・三	町 八三・二	町 一三・一	町 二・八	町 一・一	町 一・七
入間・川越	六、七〇九・九	四、六六九・六	一、五六六・七	一八九・〇	二六・三	七七・七	八〇・六
比企	三、七六六・九	三、三三八・六	二一四・八	一四〇・二	四一・二	三三・四	八・七
秩父	三、九〇四・五	三、一八六・九	三三二・二	一七六・二	一七・三	一七三・一	一八・八
兒玉	三、三九四・五	二、九五四・一	一〇六・八	二〇四・二	五・六	一三一・七	一・一
大里・熊谷	六、五一二・〇	五、四五九・九	二六八・五	五二四・六	一一・〇	二四四・一	三・九
北埼玉	三、七九五・六	三、七二三・三	五五・四	一四・四	—	二・四	一・一
南埼玉	一、五九七・一	一、五二六・五	三二・九	四三・九	〇・六	二・五	〇・七
北葛飾	一、〇七三・三	一、〇五〇・九	一三・九	六・八	—	一・七	—
計	三二、九〇四・〇	二七、九三八・一	二、六六四・四	一、三一二・四	二〇四・八	六六七・七	一一六・六

（ロ）桑の品種

從來より栽培せられたる所の品種を見るに十文字等の收穫量少き晩生桑最も多く、養蠶經營上不利尠からず、之を急速に改めしむる要あるを認め、大正八年以降極力早、中生桑の栽培を奬勵したる結果逐年品種改良の實蹟擧り最近は多胡、市平、改良鼠返等の品種の増加を見漸次十文字等の減少を見るに至れり。今本縣奬勵の品種を示せば次の如し。

春蠶主用　市平
春秋蠶兼用　改良鼠返
夏秋蠶主用　改良鼠返
夏秋稚蠶用　改良鼠返

尚主なる栽培品種につき其の増減を見るに次の如し。

桑品種名	大正十年	大正十五年	昭和四年	昭和七年	昭和十年
十文字	町 七二一・五	町 六、二六九・〇	町 五、二九〇・二	町 四、〇八一・三	町 二、七八七・二
多胡	四、七五六・三	六、八〇五・三	八、六三三・〇	九、七六〇・二	八、五三〇・五
市平	三、一五四・七	三、三三〇・九	三、一二一・八	四、〇三五・一	二、八五九・八
改良早生十文字	二、三一六・六	二、五四九・九	二、〇六三・六	二、七八五・〇	一、八一八・五
杢桑	一、七三五・二	一、二二三・三	一、二七四・六	一、四二〇・七	一、一七二・五
魯桑	八八四・八	一、三六三・二	一、〇七二・四	七二一・八	七八五・九
黑木	九三五・六	六五一・〇	三五五・九	一三六・五	一五二・八
青木	七五三・八	五二四・三	四〇七・五	七三・三	八一・八
甘樂桑	八一六・二	一、〇八三・三	一、一七八・九	六三四・三	四一四・二
赤木	一八二・四	—	—	—	三一・九
淸十郎	六四五・一	一、六〇六・八	一、四五〇・四	一、一四六・二	八三五・八
改良鼠返	—	八五三・六	二、九九五・九	六、五四四・八	八、四三六・〇

（蠶業取締所調査）

春日	—	一五三・七	二八七・七	五七五・一	四六四・三
魯國野桑	—	一二五・七	二八・五	一三五・四	一二三・〇
栗本桑	—	—	—	一二三・二	二一七・五
九紋龍	二四二・〇	三二・一	—	五・九	—
枝垂	—	五八・〇	—	九八・三	—
御所	一六一・四	一五五・〇	一・〇	八六・五	一〇一・五
紫早生	二〇六・一	一二三・九	三七・二	二一・五	六七・九
福島大葉	—	—	—	一〇五・〇	一二六、七
影森丸葉	三一四・四	三八六・〇	—	一六二・五	一九二・七
群馬赤木	一九一・六	二四〇・三	七九七・一	六四六・九	—
鶴田	一二九・一	八七・〇	五一・七	二八・四	—
富榮桑	六三・〇	四二九・三	六三六・一	六〇一・五	一、一六五・九
大和錦	三六・五	二四六・八	三二四・五	五四二・八	一、一七一・三
鼠返	—	—	—	九八・〇	—
太洋	三〇・五	五一・四	—	—	—
兒玉桑	—	三五・〇	一〇・三	—	—
北堀桑	—	—	—	三一・八	—
荊桑	—	三〇・〇	—	—	—
丸葉	—	—	二二二・一	—	—

奥洲	三一四・四	—	一二七・三	八四・四	—
大葉	—	—	二八八・六	—	—
大島桑	—	—	—	—	八二二・五
金龍	三五・八	一七・〇	—	—	—
一ノ瀬	—	—	—	二三・五	三一・八
間物	—	—	—	四五・五	—
長沼桑	八七・四	一八・〇	四八・二	—	—
改良魯桑	—	—	一四・〇	—	—
銀葉	六五・〇	—	七・二	一二・八	—
島錦	三五・〇	一五・〇	二三・三	—	—
其ノ他	二、一七五・三	七五一・二	二、四四四・六	一、六八〇・九	九二四・二

備考　昭和十年に於ては三十町歩未滿は其の他欄に一括す

（八）栽培

桑樹の仕立法は地方に依り夫々異れ共山間部地方は主として中刈、高刈、平坦部地方は專ら根刈其の中間部地方は根刈又は中刈のもの多し。

今昭和十一年度に於ける仕立法別桑園反別を示せば次の如し。

郡市別	根刈仕立	中刈仕立	高刈仕立	立通	計
北足立・浦和	二、一一一・六町	三三・一町	五・二町	〇・三町	二、一五〇・二町
入間・川越	二、一一九・一	四、三八三・二	二〇五・五	二・一	六、七〇九・九
比企	二、六六五・二	一、〇一七・三	八三・三	一・一	三、七六六・九
秩父	一三七・七	三、五七九・二	一八四・五	三・一	三、九〇四・五
兒玉	二、一七九・五	一、一四七・一	六六・六	一・三	三、三九四・五
大里・熊谷	三、九五五・五	一、八七〇・〇	六八五・七	〇・八	六、五一二・〇
北埼玉	三、七八三・三	一一・五	〇・八	—	三、七九五・六
南埼玉	一、五九一・七	二・七	二・五	〇・二	一、五九七・一
北葛飾	一、〇七三・一	—	〇・二	—	一、〇七三・三
計	一九、六一六・七	一二、〇四四・一	一、一三四・三	八・九	三二、九〇四・〇

(二)整理、改植竝混作事業

養蠶不況の結果之が匡救對策事業として、桑園の整理改植をなし桑園能率を高むると共に食料の自給を圖り、一面には桑園に彈力性を保たしめ、蠶絲業の好況、不況時に對應し得る施設として混作を奬勵せり。今之等の最近五ヶ年の助成事業の狀況を示せば左の如し。

桑園整理改植竝混作事業助成調

年度	種別	北足立・浦和	入間・川越	比企	秩父	兒玉	大里・熊谷	北埼玉	南埼玉	北葛飾	計
昭和七年	整理	五四九・七〇〇反	一、〇八五・四〇三反	一、三〇七・八〇五反	一、五三〇・八一七反	一、三九一・三〇〇反	二、七六八・五〇〇反	八六八・六〇〇反	二四七・〇〇〇反	一〇一・三〇〇反	九、八二三・四二五反
	改植	五〇〇・二〇〇	七四〇・三八	一、〇八三・八三五	一、二六八・一一〇	九七七・四三〇	二、二六一・〇〇〇	七一七・六〇〇	二一五・三〇〇	九六・一〇〇	七、八六〇・〇三三
	計	一、〇四九・九〇〇	一、七九八・八〇一	二、三九一・七〇〇	二、七九八・九二七	二、三六八・七三〇	五、〇二九・五〇〇	一、五八六・二〇〇	四六二・三〇〇	一九七・四〇〇	一七、六八三・五一八
同八年	整理	六七三・二〇〇	一、二〇四・〇〇〇	一、一七〇・六〇〇	一、五八二・九〇〇	六四九・四〇〇	一、七三五・六〇〇	七〇七・五三〇	三一三・八〇〇	一四五・四〇〇	八、一八一・四三〇
	改植	二七七・〇〇〇	四三四・七〇〇	七〇三・四〇〇	七九一・四〇〇	五六五・三〇〇	一、六〇二・三〇〇	三六六・二三七	二八二・二〇〇	一三六・一〇〇	五、三五八・六二七
	計	九五〇・二〇〇	一、七三八・七〇〇	一、八七四・〇〇〇	二、三七四・三〇〇	一、二一四・七〇〇	三、三三七・九〇〇	一、〇七三・八一七	五九五・〇〇〇	二八一・五〇〇	一三、四四〇・一一七
同九年	整理	三、二六五・九〇〇	二、三七三・六〇〇	四、一四九・八〇〇	六、一五九・二〇〇	三、七二〇・〇〇〇	八、六九〇・九〇〇	四、九〇三・六〇〇	八〇九・〇〇〇	六一六・四〇〇	三四、六七八・四〇〇
	混作	一、三三一・〇〇〇	四、〇四一・八〇〇	一、五六六・一〇〇	一、一七八・七〇〇	八四五・四〇〇	二、〇一七・八〇〇	一、四一三・四〇〇	六八六・五〇〇	三三四・〇〇〇	一三、四一四・七〇〇
	計	四、五九六・九〇〇	六、四一五・四〇〇	五、七一五・九〇〇	七、三三七・九〇〇	四、五五五・四〇〇	一〇、七〇八・七〇〇	六、三一七・〇〇〇	一、四九五・五〇〇	九五〇・四〇〇	四八、〇九三・一〇〇
同十年	整理	一、七八四・三〇〇	三、一二三・六〇〇	一、九五四・四〇〇	二、一五七・九〇〇	二、四二一・三〇〇	四、四二三・九〇〇	一、八八二・四〇〇	七一六・五〇〇	三六五・八〇〇	一八、八二九・一〇〇
	改植	三七八・〇〇〇	五一六・〇〇〇	八四二・三〇〇	五一三・二〇〇	八六〇・九〇〇	一、五五一・〇〇〇	八三一・五〇〇	三二四・一〇〇	一二三・一〇〇	六、二三〇・一〇〇
	混作	三四四・〇〇〇	五九一・九〇〇	三九八・三〇〇	四六四・〇〇〇	三六七・五〇〇	八三八・〇〇〇	四二〇・〇〇〇	一一五・一〇〇	七七・四〇〇	三、六一六・二〇〇
	計	二、五〇六・三〇〇	四、二三〇・五〇〇	三、一九五・〇〇〇	三、五三五・一〇〇	三、六四九・七〇〇	六、八一二・九〇〇	三、一三三・九〇〇	一、〇五五・七〇〇	五六六・三〇〇	二八、六七五・四〇〇
同十一年	數理	三九〇、〇〇〇	一、一一四・〇〇〇	六六九・〇〇〇	七二六・〇〇〇	六一三、〇〇〇	一、〇五八・〇〇〇	六一三・〇〇〇	二三三・〇〇〇	一六七・〇〇〇	五、五七二・〇〇〇
	改植	八四・〇〇〇	二四〇・〇〇〇	一四五・〇〇〇	一五八・〇〇〇	一三三・〇〇〇	二二八・〇〇〇	一三三・〇〇〇	四八・〇〇〇	三六・〇〇〇	一、二〇四・〇〇〇
	混作	一四七・〇〇〇	四二一・〇〇〇	二五三・〇〇〇	二七五・〇〇〇	二三二・〇〇〇	三九九・〇〇〇	二三五・〇〇〇	八四・〇〇〇	六三・〇〇〇	二、一〇九・〇〇〇
	計	六二一・〇〇〇	一、七七五・〇〇〇	一、〇六七・〇〇〇	一、一五九・〇〇〇	九七八・〇〇〇	一、六八五・〇〇〇	九八〇・〇〇〇	三五四・〇〇〇	二六六・〇〇〇	八、八八五・〇〇〇

（ホ）桑　苗

自家用桑苗の生產は古くより多少之を見たりしが桑園の改良奬勵と共に需要激增し業者生產によるもの著しく增加せり。而して主なる產地は兒玉郡、北足立郡、大里郡等にして最近の趨勢を示せば次の如し。

（一）桑苗生產數量の變遷　（農林統計）

	實生	接木	代出	取木	其の他	計
大正七年	本 九、四五九、三五〇	本 五、一九五、五七〇	本 五、〇八八、三四〇	本 四、七六六、六二〇	本 六八八、五四〇	本 二五、一九八、三二〇
同十一年	二、六三二、八〇〇	二、二四〇、八四七	四、五五〇、六二九	一、九〇六、九七六	三〇四、六〇〇	一一、五三四、八五三
同十五年 昭和元年	八、六七四、〇三〇	六、九九五、三八〇	三、八〇五、一二一	一、七九四、六八七	四三、九四〇	二一、三一三、一五八
同五年	三四五、〇〇〇	七、二〇八、九六八	七、三二四、五九〇	二、三九九、八六一	三三二、〇五〇	一七、五〇〇、四六九
同十年	五一三、三五〇	三、九六一、三八〇	四、五一〇、三四三	一、五四四、七四一	四三、四三五	一〇、五七三、一四八

（二）桑苗業者生產數量　昭和十一年（蠶業取締所調査）

郡市別	生產業者數	實生	接木	代出	取木	其の他	計
北足立・浦和	一九七	本 二九四、〇〇〇	本 五八七、六二三	本 二、〇七五、三一〇	本 二六、〇〇〇	本 —	本 二、九八二、九三三
入間・川越	七〇	九、〇〇〇	一七五、五〇〇	四九一、二一〇	一五五、九六〇	—	七九一、六七〇
比企	四七	—	三、六二〇	六一〇、二四五	七八、二九〇	二四、八〇〇	七一六、九五五
秩父	四五	四四、六〇〇	一三九、一八〇	一三九、六八〇	九、九五〇	—	三三三、四一〇
兒玉	二一八	三四八、〇〇〇	一、四八七、〇五〇	一、一二九、〇五〇	一三、〇〇〇	—	二、八七七、一〇〇
大里・熊谷	一三九	一八二、五〇〇	四二四、九一〇	七四三、六九〇	二八、四〇〇	—	一、三七九、五〇〇
北埼玉	六七	—	一一七、三五〇	六九八、六四〇	八、五〇〇	—	八二四、四九〇
南埼玉	一八	—	五〇、七五〇	一三二、〇〇〇	—	—	一八二、七五〇
北葛飾	三八	—	二、七〇〇	三〇七、四〇〇	四七、七七〇	—	三五七、八七〇
計	八四九	八七八、一〇〇	二、九八八、六八三	六、二二七、二二五	三二七、八七〇	二四、八〇〇	一〇、四四六、六七八

（ヘ）桑苗檢査

桑園改良の基調をなす優良桑苗生產の目的を以て、從來桑苗同業組合に於て桑苗の格付檢査を施行し來りたるが之が檢査を一層嚴正ならしむる目的を以て、昭和七年度以降縣に於て之が檢査を施行するに至れり。今之等の檢査成績を示せば左の如し。

種別	年次	大 甲	大 乙	中 甲	中 乙	小 甲	小 乙	計	不合格
本苗	昭和七年	束 一七、七〇三	束 五、五六三	束 一三一、五八〇	束 四一、八九九	束 四〇、七三一	束 一五、三五一	束 二四三、八二七	束 八五
	同八年	五九、五三三	四、八二三	一〇二、三三三	一一、〇六九	三六、九五四	九、八五六	二二四、五五七	三
	同九年	三九、一〇七	八三六	九七、六一八	三、八二五	二九、六七二	三、四六三	一七四、五二二	—
	同十年	五七、一六六	一、五四〇	一三二、九一六	三、八八四	四一、〇三四	三、八三八	二四〇、三七八	二四

實生 昭和七年	二〇九	—	九八六	一二一	一,三三二	五七六	二,二二四	—
同 八年	一,九〇四	九〇	一,六九一	三八〇	二八二	一六五	四,五一二	一三
同 九年	九〇	一〇	二三三	—	八〇	四〇九	八三	—
同 十年	五六九	九五	四〇五	—	三四二	—	一,四一一	—
原苗 昭和七年	(甲)	一,九六六	(乙)	四一七	(計)	二,三八三	(不合格)	—
同 八年	(同)	七五〇	(同)	六三	(同)	八一三	(同)	—
同 九年	(同)	七八二	(同)	一,一六一	(同)	一,九四三	(同)	—
同 十年	(同)	一,〇二一	(同)	二二一	(同)	一,二四二	(同)	—

備考　一束の本數は本苗に在りては五十本實生及原苗に在りては百本なり

(ト)稚蠶共同桑園

春蠶期に於ける凍害の豫防並夏秋蠶期に於ける全芽育成奬勵のため、縣は昭和六年稚蠶共同桑園設置補助規程を設け之が設置を奬勵し、蠶作の安定及桑葉の經濟を圖り併せて養蠶實行組合の共同經營の實績を擧げしめ、現在相當の効果を擧げつゝありしが昭和十一年七月繭生產費低減施設補助規則を公布し從來の事業を繼續し右規程は之を廢せり。今昭和六年以降の設置反別並助成金額を示せば次の如し。

年度	反別	金額
昭和六年	三四七・〇〇アール	五一九・〇〇円
昭和七年	二九九・二二	五三九・九八
同八年	五一八・三八	八七七・九五
同九年	五〇六・八〇	七五八・五三
同十年	四三九・〇〇	七五九・七二
同十一年	三九六・〇〇	七五九・一五

(チ)桑園實態調査成績（埼玉縣蠶業試驗場調査）

本調査は本縣桑園改良指導圃に於て養成せる栽桑講習生をして各自の桑園及經營費收繭額等につき一定の樣式により調査せしめたるものを集計せるものなり。

調査者は各年各々異なれるものなり。

總括表（其一）

年次	調査戸數 A	調査戸數 B	反當經營費
昭和二年	四六三	四六三	五〇円九〇
昭和三年	三一三	三三五	五六、一六
昭和四年	三二〇	三一一	六一、七〇
昭和五年	一七七	一七六	四九、四三
昭和六年	一五九	一六〇	三六、五八
昭和七年	二九七	二九九	三五、一九
昭和八年	四一八	四一九	三八、二六
昭和九年	三二五	三四一	三六、四四
昭和十年	三三〇	三三〇	三八、五五

反當收葉量 春秋兼用 春	—	四〇二貫〇	三五〇.〇	三八七.〇	三八四.〇	三八五.〇	四〇五.八	四一三.三	四二三.三
反當收葉量 春秋兼用 秋	—	一四〇.〇	一四四.〇	一二四.〇	一四二.〇	一五五.〇	一八五.二	一六二.三	一六七.六
反當收葉量 夏秋專用	—	三〇三.〇	二八七.〇	三一二.〇	二五五.〇	二八三.〇	三二七.六	二七六.四	三三一.〇
反當收繭額 A	二〇貫四	二〇.四	二三.三	二三.五	二三.六	二三.三	二六.八	二四.六	二三.八
反當收繭額 B	—	—	—	二三.一	二三.五	二三.九	二七.二	二五.五	二三.九

備考

一、調査戸數Bは反當經營費、調査戸數Aは其他を調査せる戸數。
二、反當收葉量は春は條桑、秋は正葉とす。
三、反當收繭額Aは收葉量と收繭量とにより算出したるもの、Bは總收繭額を總反別にて除したるもの。

總括表（其二）

年次		昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
桑葉一貫匁ノ生産費	春秋兼用	—	一六錢六	一九.五	一四.三	一〇.五	一〇.〇	九.二	九.四	一〇.三
	夏秋專用	—	一五.九	二二.〇	一二.七	一一.六	九.二	九.八	一一.〇	一〇.七
繭一貫匁生産用桑量	春（條桑）	—	三二貫〇	三二.九	三三.七	三〇.〇	三二.四	三二.四	三一.五	三一.五
	秋（正葉）	—	一六.六	一六.〇	一五.八	一五.〇	一六.三	一五.六	一五.九	一八.六
繭一貫匁生産用桑價格	春	—	二円六九	三.〇九	二.四五	一.五九	一.六二	一.五五	一.五〇	一.六三
	秋	—	二.五六	三.〇一	二.三〇	一.五九	一.六一	一.八四	一.五一	一.九三

（二）蠶種

【沿革】

元祿五年武藏外六箇國の蠶種商人武州八王子町に相會し諸種の盟約をなし、且つ蠶種臺紙の寸法を定めたる事あり、之に據つて之を見れば當時は勿論其の以前より既に多少蠶種製造の業行はれたるべしと雖も尙未だ縣下の需要を充たすに足るべき産額なく多くは福島縣伊達信夫地方より購入したるものゝ如し。降つて慶應年間より明治初年頃蠶種の輸出旺盛を極めたる結果、本縣の蠶種業も著しく勃興するの氣運に際會したれ共之全く一時の現象に留まり、明治十三年頃に至りては輸出殆んど杜絕するに至れり。而して其の後は專ら國內の需要を充すに過ぎざりしが養蠶業の進展に伴ひ漸次隆盛となり、昭和五年に於ては蠶種製造者四百五十八名となり、その製造額に於ても原蠶種百十四萬九千四百十四蛾、普通蠶種四千二百二十七萬二千四百四十五蛾の多きに達したるも其の後斯業の不況並に製絲業者の蠶種製造業への進出は勢ひ專業蠶種製造者の經營不振を來し其の數も漸次減少するに至れり。尙其の變遷の狀況を示せば左の如し。

年次	製造者數	蠶種製造額 原蠶種	蠶種製造額 普通蠶種	蠶種製造額 計	明治二十七年ヲ一〇〇トセル指數
明治二十七年	一,四二五人	框製 一〇,八〇〇枚	一六七,三六八枚	一七,〇三九,二〇〇蛾	一〇〇
同 三十七年	六三二	框製 二,〇七二,七〇三蛾	普通製 二七九,八五三	三〇,〇五八,〇〇三	一七六
大正三年	五六三	特別蠶種 二二,三八九,八七二	二〇七,五八三	四二,一四八,一七二	二四七

同　八年	三六一	一、五〇七、五五四	四六、九七七、〇八八蛾	四八、四八四、六四二	二八五
同　十三年	三四八	八九二、〇八〇	三八、六二四、七〇九	三九、五一六、七八九	二三二
昭和四年	三四六	八一一、六一四	三八、二一七、四〇三	三九、〇二九、〇一七	二三九
同　五年	四五八	一、一四九、四一四	四二、二七二、四四五	四三、四二一、八五九	二五五
同　六年	四四〇	一、一三〇、三二四	三七、六七七、五二四	三八、八九七、八四八	二三八
同　七年	四〇八	一、三〇九、三〇八	二九、一〇二、三〇三	三〇、四一一、六一一	一七八
同　八年	三七二	一、三四一、四五二	四一、四五九、七〇三	四二、八〇一、一五五	二五一
同　九年	三二六	一、四三一、四〇二	四二、二九五、一九二	四三、七二六、五九四	二五七
同　十年	二六五	一、一〇〇、三〇九	三九、九四一、六九六	四一、〇四二、〇〇五	二四一
同　十一年	二四二	九四一、七六五	三一、一三二、四六七	三二、〇七四、二三二	一八八

【現　況】

現下蠶絲業の不況と一面生絲製造者の蠶種製造業への進出は、從來の如き個々獨立の蠶種製造經營に甚しき打撃を齎し、こゝに專業蠶種製造者企業合同の氣運濃厚となり、旁々縣の指導と相俟つて各郡共に數名乃至十數名の法人組織に依る會社の創立を見、其の結果昭和九年には縣下を通じ四十六會社の數を數ふるに至り今日に及ぶ。又縣には之等會社の統制機關たる蠶種業組合を基幹とせる蠶種統制團を設立し、眞に縣下一心同體たる統制機構を形作るに至れり。

(イ)蠶　品　種

蠶の品種は明治初年頃に至る迄多く青白種と稱する黃繭種なりしも、爾後次第に白繭種多くなり明治十四、五年頃に至りては大部分白繭種に變ぜり。而して明治十四年兒玉郡青柳村木村九藏の改良せる品種に白玉と命名せり。以來俄かに種々の品種各地に產出せられ其の數次第に多きを加へたるが、大正の初年頃より外國系品種漸く多くなり、加ふるに各種の交雜種製造せられ化性的に見るも春蠶期の一化性交雜種に對し夏秋蠶種は一時二化二化交雜種を以て萬能を極めたりしが、最近は亦一、二化並に二化二化何れをも飼育せらるゝに至れり。而して蠶種の數は年々數十種の多きに達したるも輓近人造絹絲の急速なる發達の結果繭生產費の低下の必要にせまられ、優良繭廉價生產主義を以て絲量絲質本位にて漸次優良なる國蠶系品種に整理統一せられつゝあり。

今昭和十一年度に於ける本縣奬勵品種を示せば次の如し。

春　蠶　{國蠶歐十九號 同　支十七號}　{國蠶日八號 同　支十七號}　{國蠶歐十八號 同支一〇六號}　{國蠶支十六號 同　歐十六號}

夏秋蠶　{國蠶日一一一號 同　支一〇七號}

(ロ)蠶種製造者數及製造額

蠶種製造額は連年自給自足の範圍にして昭和十一年度の製造狀況を示せば左の如し。

(一)　蠶種製造額（越年、不越年別）昭和十一年

郡市別	蠶種製造者	原蠶種 越年	原蠶種 不越年	原蠶種 計	普通蠶種 越年	普通蠶種 不越年	普通蠶種 計	總計
	人	蛾	蛾	蛾	蛾	蛾	蛾	蛾
北足立・浦和	九	三三、八二〇	一九、五〇一	五三、三二一	五九六、〇三六	一、二五一、九四〇	一、八四七、九七六	一、九〇一、二九七
入間・川越	六八	一三三、六四四	五九、一〇八	一九二、七五二	三、五六九、七八一	三、六四三、六四五	七、二一三、四二六	七、四〇六、一七八
比企	二九	七七、五八八	一〇、〇八〇	八七、六六八	一、四一六、七一七	一、五三二、九三〇	二、九四九、六四七	三、〇三七、三一五
秩父	二八	一一七、四八八	三七、二二六	一五四、七一四	一、九八三、一三五	一、六八六、三一一	三、六六九、四四六	三、八二四、一六〇
兒玉	四六	一二四、一二四	四一、五八〇	一六五、七〇四	二、九二九、五六四	二、六七七、〇六四	五、六〇六、六二八	五、七七二、三三二
大里・熊谷	二四	一一四、二六八	五八、六六〇	一七二、九二八	三、〇一七、八五〇	二、九六〇、七七五	五、九七八、六二五	六、一五一、五五三
北埼玉	二五	四八、〇四八	一九、〇四〇	六七、〇八八	八二〇、七四五	一、二六四、八三四	二、〇八五、五七九	二、一五二、六六七
南埼玉	四	二一、〇七八	一〇、七三四	三一、七五三	三三六、五五〇	六〇三、七〇〇	九四〇、二五〇	九七二、〇〇三
北葛飾	九	一一、七〇四	四、一四四	一五、八四八	三四〇、九三五	四九九、九五五	八四〇、八九〇	八五六、七三八
計	三四三	六八一、七〇二	二六〇、〇六三	九四一、七六五	一五、〇一一、三一三	一六、一二一、一五四	三一、一三二、四六七	三二、〇七四、二三二

(二) 蠶種製造額及合格額 昭和十一年

郡市別	原蠶種 總額	原蠶種 無毒	原蠶種 有毒	原蠶種 缺蛾	原蠶種 有毒歩合	普通蠶種 總額	普通蠶種 合格額	普通蠶種 合格歩合
	蛾	蛾	蛾	蛾	‰	蛾	蛾	‰
北足立・浦和	五三、三二一	五一、六四二	一六三	一、五〇六	三・一	一、八四七、九七六	一、七三〇、四八五	九三六
入間・川越	一九二、七五二	一八二、四八四	一、三一一	八、九五七	七・一	七、二一三、四二六	六、八四一、〇七七	九四八
比企	八七、六六八	八五、一一七	八七	二、四六四	一・〇	二、九四九、六四七	二、八八三、一二二	九七七
秩父	一五四、七一四	一四九、四一八	二八〇	五、〇一六	一・八	三、六六九、四四六	三、六三三、九六六	九九〇
兒玉	一六五、七〇四	一五五、三六八	五〇七	九、八二九	三・三	五、六〇六、六二八	五、三〇七、四九二	九四七
大里・熊谷	一七二、九二八	一六五、五九一	二一七	七、一二〇	一・三	五、九七八、六二五	五、八四四、七三〇	九七八
北埼玉	六七、〇八八	六六、一九七	六六	八二五	〇・九	二、〇八五、五七九	二、〇五一、九六四	九八四
南埼玉	三一、七五三	三〇、九〇三	四	八四六	〇・一	九四〇、二五〇	九三五、八四〇	九九五
北葛飾	一五、八四八	一四、七八五	八	一、〇五五	〇・五	八四〇、八九〇	八四〇、六五〇	一〇〇〇
計	九四一、七六五	九〇一、五〇四	二、六四三	三七、六一八	二・九	三一、一三二、四六七	三〇、〇五一、八二六	九六五

(三) 化性別及春、夏秋別蠶種合格額 昭和十一年

郡市別	原蠶種 一化性	原蠶種 二化性	原蠶種 計	普通蠶種 春蠶用	普通蠶種 夏秋蠶用	普通蠶種 計
	蛾	蛾	蛾	蛾	蛾	蛾
北足立・浦和	一六、〇九九	三五、五四三	五一、六四二	一、三七三、七七〇	三五六、七一五	一、七三〇、四八五
入間・川越	六四、三〇二	一一八、一八二	一八二、四八四	五、三二三、一一七	一、五一八、九六〇	六、八四一、〇七七
比企	二五、〇五七	六〇、〇六〇	八五、一一七	二、一八九、四七七	六九三、六四五	二、八八三、一二二
秩父	五四、七九〇	九四、六二八	一四九、四一八	二、四九九、二九〇	一、一三四、六七六	三、六三三、九六六
兒玉	五九、六四一	九五、七二七	一五五、三六八	四、一八四、九三四	一、一二二、五五八	五、三〇七、四九二
大里・熊谷	五四、六七四	一一〇、九一七	一六五、五九一	四、三三七、五七〇	一、五〇七、一六〇	五、八四四、七三〇
北埼玉	二五、〇七九	四一、一一八	六六、一九七	一、二二七、二六五	八二四、六九九	二、〇五一、九六四
南埼玉	八、一八七	二二、七一五	三〇、九〇二	三三六、五五〇	五九九、二九〇	九三五、八四〇

北葛飾	三、七七八	一一、〇七七	一四、七八五	三四〇、六九五	四九九、九五五	八四〇、六五〇
計	三一二、六〇七	五八八、八九七	九〇一、五〇四	二三、三八七、六九八	七、六六四、一二八	三〇、〇五一、八二六

(四) 平付散卵別蠶種製造額 昭和十一年

郡市別	普通蠶種製造額	平付蠶種 春蠶用	平付蠶種 夏秋蠶用	平付蠶種 計	散卵蠶種 春蠶用	散卵蠶種 夏秋蠶用	散卵蠶種 計
北足立・浦和	一、八四七、九七六蛾	二一六、一六〇蛾	二九、五四五蛾	二四五、七〇五蛾	一、三三六、四九五蛾	二六五、七七六蛾	一、六〇二、二七一蛾
入間・川越	七、二一三、四二六	一、九二一、七〇一	一、三四二、七二五	三、二六四、四二六	三、六九二、四九〇	二五六、五一〇	三、九四九、〇〇〇
比企	二、九四九、六四七	六八一、七一〇	六三〇、二四〇	一、三一一、九五〇	一、五六四、七九七	七二、九〇〇	一、六三七、六九七
秩父	三、六六九、四四六	一、〇九五、四〇〇	一、〇四五、七三一	二、一四一、一三一	一、四一六、七七〇	一一一、五四五	一、五二八、三一五
兒玉	五、六〇六、六二八	二、〇八〇、三七九	一、二二一、九四四	三、三〇二、三二三	二、二八九、五六五	一四、七四〇	二、三〇四、三〇五
大里・熊谷	五、九七八、六二五	一、六八〇、二六〇	一、二一七、二一〇	二、八九七、四七〇	二、七〇七、〇四〇	三七四、一一五	三、〇八一、一五五
北埼玉	二、〇八五、五七九	三八四、四五〇	八三五、二九九	一、二一九、七四九	八六二、六七五	三、一五五	八六五、八四〇
南埼玉	九四〇、二五〇	二二〇、六一〇	三一六、三八〇	五三六、九九〇	三八〇、六二〇	二三、六四〇	四〇三、二六〇
北葛飾	八四〇、八九〇	一二四、〇七五	一一五、四七五	二三九、五五〇	五四四、八三〇	五六、五一〇	六〇一、三三〇
計	三一、一三二、四六七	八、三〇四、七四五	六、八五四、五四九	一五、一五九、二九四	一四、七九五、二八二	一、一七七、八九一	一五、九七三、一七三

(三) 養蠶

【沿革】

本縣養蠶業は其の初め縣の西北部即ち秩父、兒玉、比企、入間の山間部に於て發達し漸次東部平坦地方に及ぼしたるものゝ如く安政年間開港以來逐年生絲の需要增加し且其の價格次第に騰貴したる結果明治初年頃には縣の東南部に僅かの地域を除くの外悉く斯業の經營を見るに至れり。而して當時政府に於ては貿易發達の政策上專ら蠶絲業の保護奬勵に努めたるを以て本縣に於ても亦此趣旨に依り之が保護奬勵を策したり。明治六年六月二十九日には皇后、皇太后兩陛下富岡製絲所への行啓に際し、幡羅郡(今の大里郡)玉井村蠶種大總代鯨井勘衞の養蠶室に臺臨あらせられ、親しく養蠶の狀を鬱せられ斯業を御奬勵遊ばされ、縣に於ても告諭を發し斯業に勵み聖旨に酬ひ奉らんことを期せり。其の後屢々告諭布達を發し又は吏を派して巡回指導を爲さしむる等怠りなく斯業の奬勵に勉めたる結果益々普及發達の機運に向ひしが、時恰も明治十年兒玉郡青柳村木村九藏養蠶改進組を組織し養蠶傳習所を設け、且つ教授員を各地に派遣して斯業の開發に努めたるを以て、爾來地方篤志者之に倣ひ續々養蠶傳習所を起し生徒の訓育に盡せり。又縣は明治十四年四月養蠶組合概則を布達し、共同的施設の下に斯業の健全なる發達を圖らしめしが、明治三十七年四月時局に鑑み農民の執るべき方針及諸般の施設を要すべき事項を示して之が實行を促し、殊に養蠶に關しては蠶病消毒の施行、蠶種の改良、夏秋蠶用桑園の特設等を指示奬勵する所ありたり。更に斯業の改良發達は共同事業の遂行に俟つの極めて大なるものあるを以て、縣は大正四年より補助金を交付して養蠶組合の設置及活動を奬勵したりしが、大正六年に至り組合數增加するに伴ひて郡に蠶業に關する技術員の設置を促すと共に奬勵の方針を示し、郡若くは郡農會をして奬勵せしめ縣は其の經費に對して

補助金を交付したり。

昭和三年には養蠶組合、産業組合又は市町村農會に於て養蠶技術員を設置したる場合其の經費に對し奬勵金を交付することゝし、養蠶の指導其の他の事業は總て組合を中心として奬勵を爲すに至り專ら組合の發達、助長を促し成績優良にして他の模範とするに足る養蠶組合は之を表彰し、組合個々の活動を促進すると共に之等の聯絡統一を圖れり。

昭和七年には蠶絲業組合法制定せられ從來の申合せ的養蠶組合は簡易法人たる養蠶實行組合たらしめ、又郡市には郡市養蠶業組合、縣には縣聯合會を設置せしめ、法的基礎の上に立つて統制ある團體たらしむるに至れり。而して昭和十一年十一月には右組合法改正せられ尚一層鞏固なる基礎の下に統制せられたるを以て將來斯業の改善發達期して俟つべきものあり。尚縣は養蠶實行組合の指導活動に必要なる一ケ年を通じての常設指導員の設置を昭和九年度より奬勵し、之が經費に對して補助することゝせり。今明治三十五年以降今日に至る間の養蠶業の趨勢を見るに次の如し。

年次	總數			春蠶		夏秋蠶	
	養蠶戸數	掃立數量	收繭額	掃立數量	收繭額	掃立數量	收繭額
明治卅五年	九八、四六九戸	三二七、七三〇枚	二、二四四、六七〇貫	二四三、八九一枚	一、六一六、四三〇貫	八三、八三九枚	四二八、二四〇貫
同四十年	九八、〇七八	三一八、七一二	二、五三四、七三〇	二一〇、八四三	一、九六三、八七〇	一〇七、八六九	五七〇、八六〇
大正元年	九〇、九七一	三三三、三九五	二、六三七、三七〇	二〇五、三五一	一、七九〇、五六〇	一二八、〇四四	八四六、八一〇
同五年	一〇三、五三一	四〇〇、六五一	三、二八五、八六〇	二一八、八七一	一、九五三、七五〇	一八一、七八〇	一、三三二、一一〇
同十年	九九、九九〇	一、一五四、五九四	三、二三四、九六四	七一九、四八九	一、九八〇、〇〇三	四三五、一〇五	一、二五四、九六一
昭和元年	一〇〇、九二〇	一、一七九、三八七	四、五三六、三一六	五六七、二二五	二、六〇〇、九九二	六一二、一六二	一、九三五、三二四
同五年	一〇〇、四九六	一、一九一、〇〇九	五、三〇六、二三七	五六四、六七三	二、九七九、六四五	六二六、三三六	二、三二六、五九二
同九年	九八、七一九	一一、五七七、八九六瓦	五、四五七、六〇一	五、八三三、〇一九瓦	三、一二八、九二七	五、七五五、八七七瓦	二、三三八、六七四
同十年	九七、六一八	一一、〇三七、六一四	四、八五二、四四六	五、四四三、三七〇	二、九三三、九〇九	五、五九五、二四四	一、九一九、五三七
同十一年	九六、〇三八	一一、〇七七、五四三	五、四九九、〇五二	五、三二二、五四五	二、八九六、二二二	五、七六四、九九八	二、六〇二、八三〇

備考　大正十年以前の數量單位石を累年比較便宜上一石を十貫とし換算せり。

【現　況】

本縣の養蠶業は縣下僅かに東南部地方を除くの外各郡等しく普及し現に全國中樞要の地位を占め年産繭額約五百五十萬貫に達し、養蠶戸數は九萬六千餘戸にして農家戸數の過半を占め、養蠶業は實に主要生産業として著しき隆昌發展の域に達したるも最近數年來蠶絲業不況と共に蠶絲業統制施設の必要を提唱せられ、養蠶家個々も亦單獨の經濟的活動は逐次不利なる狀態たるに至り總て團體的統制の下に各種の行動を必要とするに至り、十萬養蠶家は殆んど實行組合を結成し其の數三千百餘に達し各郡市毎に郡市養蠶業組合の系統下に屬するに至れり。而して郡市養蠶業組合は各所屬組合の養蠶の技術的指導は勿論産繭の共同的處理並に各種の物資の共同購入の斡旋配給等に至るまで全く統制ある系態の下に蠶絲業萬般の事業をなすに至れり。

（一）養蠶實行組合調

郡市名	昭和七年 組合數	昭和七年 組合員數	昭和八年 組合數	昭和八年 組合員數	昭和九年 組合數	昭和九年 組合員數	昭和十年 組合數	昭和十年 組合員數	昭和十一年 組合數	昭和十一年 組合員數
北足立・浦和	一六〇	三、三九五	二三九	四、五六〇	二五七	五、〇九五	二八三	五、六五四	二九二	六、二〇〇
入間・川越	二七一	六、六六二	四一五	九、一九五	四六二	一〇、三八〇	五一六	一一、六一六	五七八	一三、一〇三
比企	二六三	七、三一四	三〇二	九、〇五八	三三四	九、六〇六	三五九	一〇、〇六九	三七〇	一〇、一二九
秩父	二七三	五、四九五	三〇八	六、〇三〇	三〇七	六、一八一	三一五	六、五四六	三三三	六、六七四
兒玉	一三四	五、〇三七	一五四	五、一五〇	一四八	五、四〇七	一五一	五、四八九	一五三	六、一五六
大里・熊谷	四四一	一四、一一三	四七〇	一四、一〇七	四八三	一四、三三九	五一七	一四、七六〇	五四二	一四、七三〇
北埼玉	三六七	九、一〇四	四三三	一〇、一九五	四二五	一〇、三七一	四七三	一一、三三八	四九八	一一、二七一
南埼玉	一三七	三、八六三	二〇七	五、〇二四	二一一	五、一三九	二三〇	五、二二四	二二九	五、三三五
北葛飾	八二	二、一〇〇	一七六	四、〇九八	一八一	四、一七四	一九〇	四、二九二	一九五	四、三一四
計	二、一二八	五六、九九三	二、七〇三	六七、四〇七	二、七八八	七〇、六八二	三、〇三四	七四、八六八	三、一六九	七七、一〇三

（二）養蠶（總數）昭和十一年

郡市別	養蠶戸數	掃立數量	養蠶家一戸當掃立數量	收繭額 上繭	收繭額 玉繭	收繭額 屑繭	收繭額 計	養蠶家一戸當收繭額	卵量一瓦當收繭量
	戸	瓦	瓦	貫	貫	貫	貫	貫	匁
北足立・浦和	六、六三〇	六七七、三三二	一〇二	三三九、九五八	二六、六九〇	一八、〇〇二	三八四、六五〇	五八・〇	五六八
入間・川越	一八、一五〇	二、〇五五、八二〇	一一三	九五三、四四三	六七、七三五	六一、三五四	一、〇八二、五三二	五九・六	五三七
比企	一一、八一九	一、二七〇、〇八六	一〇七	五五三、四八九	四五、六八三	二九、二九四	六二八、四六六	五三・二	四九五
秩父	九、三〇六	一、〇一七、四〇一	一〇九	三六二、六四七	二六、七五六	三三、六九四	四二三、〇九七	四五・五	四一六
兒玉	七、七二三	一、二九二、五九九	一六七	四八六、五五一	三八、七七四	三〇、五二九	五五五、八五四	七二・〇	四三〇
大里・熊谷	一七、六四九	二、五二一、三八二	一四三	一、〇三八、三六六	八八、七〇七	五二、一七五	一、一七九、二四八	六六・八	四六八
北埼玉	一三、二二四	一、二九九、四五三	九八	六六三、七五七	四五、八一九	二七、五七三	七三六、一四九	五五・七	五六七
南埼玉	六、三四五	五六九、四一五	九〇	二六七、〇三一	一九、〇六三	一二、三三三	二九八、四一七	四七・〇	五二四
北葛飾	五、一八二	三七四、一七五	七二	一九一、二二九	一二、八二三	六、五九八	二一〇、六五九	四〇・六	五六三
計	九六、〇二八	一一、〇七七、五四三	一一七	四、八五五、四六一	三七二、〇四九	二七一、五四三	五、四九九、〇五二	五七・三	四九七

（三）養蠶（春蠶）昭和十一年

郡市別	養蠶戸數	掃立卵數量	養蠶家一戸當掃立數量	收繭額 上繭	收繭額 玉繭	收繭額 屑繭	收繭額 計	養蠶家一戸當收繭額	卵量一瓦當收繭量
	戸	瓦	瓦	貫	貫	貫	貫	貫	匁
北足立・浦和	六、四二三	三〇八、四四九	四八	一七六、五九四	一〇、三一三	六、七八三	一九三、六八九	三〇・二	六二八
入間・川越	一六、三〇三	八五三、七七二	五二	四五四、六四七	二四、七〇三	二三、九九六	五〇三、三四五	三〇・九	五九〇
比企	一一、四四六	五九四、三三三	五二	二九六、二八九	一七、六五三	一二、六四三	三二六、五八四	二八・五	五四九
秩父	九、一六一	六一三、四九〇	六七	二三五、一八七	一三、九七三	一九、七〇八	二六八、八六七	二九・三	四三八
兒玉	七、六四四	六二八、三三三	八二	二六五、八四六	一六、三〇二	一一、四五一	二九三、五九九	三八・四	四六七
大里・熊谷	一七、四二三	一、二三三、八九二	七〇	五八二、六六〇	三六、一五八	二一、五三三	六四〇、三五一	三六・八	五二三
北埼玉	一三、七九八	六一二、一三三	四八	三六二、五七五	一八、七三一	一〇、六一六	三九一、九二三	三〇・六	六四〇
南埼玉	六、二一六	二九〇、六〇九	四七	一五〇、六八五	八、八三七	五、二一四	一六四、七三六	二六・五	五六七

	養蠶戸數	掃立數量	養蠶家一戸當掃立數量	收繭額 上繭	收繭額 玉繭	收繭額 屑繭	收繭額 計	養蠶家一戸當收繭額	卵量一瓦當收繭額
北葛飾	四、九五九	一八八、五四六	三八	一〇四、五三八	五、八三三	二、七七九	一一三、一二九	二三・八	六〇〇
計	九二、三五一	五、三二二、五四五	五八	二、六二九、〇一一	一五三、四八九	一一四、七三三	二、八九六、三三三	三一・四	五四五

（四）養蠶（夏秋蠶）昭和十一年

郡市別	養蠶戸數（戸）	掃立數量（瓦）	養蠶家一戸當掃立數量（瓦）	收繭額 上繭（貫）	收繭額 玉繭（貫）	收繭額 屑繭（貫）	收繭額 計（貫）	養蠶家一戸當收繭額（貫）	卵量一瓦當收繭額（匁）
北足立・浦和	六、三六五	三六八、八七三	五八	一六三、三六四	一六、三七八	一一、二一九	一九〇、九六一	三〇・〇	五一八
入間・川越	一七、八三八	一、一〇三、〇三八	六二	四九八、七九六	四三、〇三三	三七、三五八	五七九、一八七	三三・五	四八二
比企	一一、六六九	六七五、七五三	五八	二五七、二〇〇	二八、〇三〇	一六、六五二	三〇一、八八二	二五・九	四四七
秩父	八、九七五	四〇三、九一一	四五	一三七、四六〇	一三、七八四	一三、九八六	一五四、二三〇	一七・二	三八二
兒玉	七、五九〇	六六四、二一七	八八	三三〇、七〇五	三三、四七三	一九、〇七八	三六二、二五五	三四・六	三九五
大里・熊谷	一七、四四〇	一、二九七、三九〇	七四	四五五、七〇六	五三、五四九	三〇、六四二	五三八、八九七	三〇・九	四一五
北埼玉	一三、八四一	六八七、三一一	五〇	三〇〇、一八三	二七、〇八八	一六、九五七	三四四、二二七	二六・八	五〇一
南埼玉	六、一四六	二七八、八〇六	四五	一一六、三四六	一〇、三三六	七、一〇九	一三三、六八一	二一・八	四七九
北葛飾	五、〇〇四	一八五、六二九	三七	八六、六九一	七、〇〇〇	一一、八一九	九七、五一〇	一九・五	五二五
計	九三、八六八	五、七六四、九九八	六一	二、三三六、四五〇	二三九、五六〇	一五六、八二〇	二、六〇三、八三〇	二七・七	四五一

（五）昭和十一年町村別養蠶成績（桑園反別收繭額は農林統計繭質は繭質改善共進會審査成績拔萃）

北足立郡

町村名＼項目	桑園反別（丁）	總收繭額（貫）	反當收繭額（貫）	對生繭百匁生絲量 春白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 春黃繭（匁）	對生繭百匁生絲量 初秋白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭（匁）	對一時間繰絲量 春白繭（匁）	對一時間繰絲量 春黃繭（匁）	對一時間繰絲量 初秋白繭（匁）	對一時間繰絲量 晩秋白繭（匁）
浦和市	一・七	一九六	一一・五	一二・九六	―	―	一三・一七	一二・四三	―	―	一八・七四
六辻村	二・九	三八二	一三・二	―	―	―	―	―	―	―	―
土合村	五〇・九	八、〇八二	一五・九	一三・四六	―	一三・一七	一四・一五	一六・四五	―	一五・二四	一八・七五
美谷本村	四〇・四	六、八五八	一七・〇	一三・一三	一四・七一	一三・六二	一三・七七	一七・九八	二七・七一	二二・二〇	一九・三三
笹目村	一二・〇	二、三三四	一九・四	―	一四・二七	―	一三・九〇	―	三三・九一	―	二二・五八
戸田村	二五・一	二、九三八	一一・七	―	一四・三六	一二・一六	一三・一三	―	三二・七三	一三・三六	一七・一〇
蕨町	〇・六	一三	二二・〇	―	―	―	―	―	―	―	―
芝村	〇・一	四六	四六・〇	―	―	―	―	―	―	―	―
志木町	一・二	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
大和田町	五・一	一、三一六	二五・八	一三・八三	―	一二・五三	一三・五八	一六・一三	―	一五・八九	二〇・二九
片山村	〇・三	五四	一八・〇	―	―	―	―	―	―	―	―
内間村	一・五	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黄繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭	對一時間繰絲量 春白繭	對一時間繰絲量 春黄繭	對一時間繰絲量 初秋白繭	對一時間繰絲量 晩秋白繭
日進村	三一・三	三、一六五	一〇・一	一二・二四	―	一二・四〇	一三・三三	一六・五八	―	一七・八九	一八・二〇
三橋村	二五・〇	三、二九五	一三・二	一二・六七	―	一一・一三	一三・一〇	一八・六七	―	一三・七六	一七・四〇
大砂土村	二六・四	一、七四五	六・六	一三・〇三	―	一二・七四	一二・七四	一六・七八	―	一七・七七	一七・四〇
宮原村	三二・七	六、五六九	二〇・一	一三・三六	―	一二・八七	一三・二七	一八・七八	―	一八・〇四	一八・一六
指扇村	六四・二	一〇、三三三	一六・一	一二・七一	―	一二・七五	一三・六四	一八・二一	―	一五・一八	二〇・〇八
片柳村	〇・六	八三	一三・八	―	―	―	―	―	―	―	―
與野町	一一・七	一、二六五	一〇・八	一三・三三	―	一二・八九	一三・五四	一五・九九	―	一七・五〇	一八・二〇
大久保村	四三・二	七、九九四	一八・五	一三・〇五	一四・二三	一三・一二	一三・五七	一六・七三	三一・九二	一八・二八	二〇・四七
馬宮村	八八・二	一八、九九一	二一・五	一三・五一	一二・九六	一二・六九	一三・六九	一七・五九	二四・六三	一六・三四	二〇・三九
植水村	三〇・五	三、三〇一	一六・一	一三・三三	―	一二・三三	一三・〇一	二三・〇〇	―	一七・〇九	一九・一四
春岡村	一三・五	一、一〇三	八・八	一二・四四	―	―	一四・二五	一三・七四	―	―	二〇・九四
平方町	七五・四	一三、六八三	一八・一	一二・九〇	―	一三・三〇	一二・八六	一七・四四	―	一八・四八	一八・五八
大谷村	七三・二	一六、四一七	二二・四	一二・九二	―	一三・一〇	一三・三九	一七・四五	―	一六・八五	一八・九三
大石村	一三一・〇	二九、四七四	二二・五	一三・一四	一四・二八	一三・一四	一三・二七	一五・二八	二七・四四	一六・七三	一八・一六
上尾町	二四・八	二、七一三	一〇・九	一二・九六	―	一二・二六	一三・四五	一七・二三	―	二三・一五	一七・五三
上平村	四五・八	八、五四九	一八・七	一三・四八	一二・五六	一三・〇九	一三・三四	一六・九五	三三・三〇	一八・六五	一八・三三
小室村	五八・七	八、五八一	一四・六	一二・六八	一三・七七	一二・七三	一三・一五	一六・五三	三一・五三	一八・四七	二一・〇四
小針村	四一・六	一〇、二四七	二四・六	一三・〇九	一三・一六	一二・三五	一三・六六	一五・四四	二八・二一	一七・八四	一七・三三
加納村	四一・七	一三、三一一	二九・五	一三・五七	一三・一〇	一二・五七	一二・九九	一六・九一	三〇・四七	一六・七六	一七・八九

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黄繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭	對一時間繰絲量 春白繭	對一時間繰絲量 春黄繭	對一時間繰絲量 初秋白繭	對一時間繰絲量 晩秋白繭
桶川町	三五・一	五、三四五	一五・二	一三・四三	一三・〇七	一二・七〇	一三・五九	一九・四七	三一・二六	一四・〇九	一八・八五
川田谷村	一五八・四	二五、八二三	一六・三	一三・六四	一三・九八	一二・一六	一三・一八	一五・一七	三一・七六	一三・四三	一七・一三
石戸村	一三四・三	二〇、一八六	一五・〇	一三・七六	一三・五五	一二・二八	一二・九七	一六・六〇	二六・六六	一三・三三	一五・八五
馬室村	一一七・七	二四、六七四	二一・〇	一三・五六	一三・八四	一二・三三	一三・六六	一六・七一	三二・四〇	一三・一五	一七・四四
中丸村	三一・二	二五、四三三	二一・〇	一三・〇四	一三・三三	一二・七九	一三・五八	一六・四八	二六・三七	一七・五五	一六・三七
常光村	八〇・一	一九、〇四一	一三・八	一三・三一	一三・四〇	一二・五九	一三・〇五	一六・四四	二七・九一	一六・〇〇	一五・六四
鴻巣町	七八・二	七、九八八	一〇・二	一二・八九	一三・三五	一三・三三	一二・七三	一四・七二	二八・一九	一五・二三	一六・〇一
田間宮村	一〇三・〇	一六、〇九三	一五・六	一三・二二	一三・六五	一五・九一	一三・六五	一九・六九	二九・〇三	一三・三三	一五・二二
箕田村	一二六・五	三三、八五一	一九・六	一三・一〇	一三・三三	一三・八四	一二・九九	一六・四二	二九・五五	一五・六三	一六・七〇
小谷村	一〇七・〇	二〇、四七九	一九・一	一三・二九	一三・六三	一三・五八	一三・八四	一五・八四	二八・八二	一四・八〇	一六・一六
吹上町	七六・七	一三、三二六	一六・一	―	一三・九四	一三・五五	一三・九四	―	二六・六一	一二・八六	一七・七〇
原市町	三一・八	二、一六〇	六・八	一三・〇五	―	一三・八一	一四・六〇	一二・一六	―	一一・三三	二一・二八
北足立郡浦和市合計又ハ平均	二、一五〇・二	三八四、六五〇	一七・九	一二・九九	一三・六〇	一三・六五	一三・二四	一六・七三	三〇・五三	一五・八九	一七・六六

入間郡

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黄繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭	對一時間繰絲量 春白繭	對一時間繰絲量 春黄繭	對一時間繰絲量 初秋白繭	對一時間繰絲量 晩秋白繭
川越市	七四・一丁	七、九〇一貫	一〇・七貫	一三・四四匁	一三・七五匁	一三・〇三匁	一二・九二匁	一四・八〇匁	二七・三〇匁	二〇・六〇匁	一六・七九匁

芳野村	九七・七	二六、三三六	二六〇・九	一三・三八	—	一〇・三一	一三・〇三	一八・一〇	—	一五・七三	一五・七〇
植木村	一〇六・六	一一、六七六	一一・〇	一三・二五	—	一二・五五	一二・八四	一九・二〇	—	一四・一七	一五・一一
吉谷村	九二・九	二一、八四八	三三・五	一四・二六	一四・二〇	一二・八一	一三・〇六	一七・九六	三〇・三八	一九・一三	一七・〇四
南古谷村	九九・八	三三、七七一	三三・八	一三・六一	一三・九一	一三・七〇	一三・二七	一六・九八	三三・三三	一七・一五	一六・八一
高階村	四五・二	八、三四一	一八・五	一三・八五	—	—	一二・二六	一六・一九	—	—	一九・〇四
柳瀬村	二四・八	六、三〇一	二五・四	一四・〇一	一三・一二	一三・三七	一三・三三	一九・六六	二九・八八	二〇・〇一	二〇・五九
松井村	七九・三	一六、七四九	二一・一	一三・六三	—	一三・三〇	一三・八八	一七・一三	—	一七・九七	一七・七四
富岡村	六九・四	八、五八三	二二・四	一三・六九	—	一一・六六	一三・七七	一九・五五	—	一五・六九	一七・一八
所澤町	一一・三	一、七一五	一五・二	一三・四九	—	一三・四二	—	一八・一四	—	二〇・〇七	—
吾妻村	八二・九	一〇、九四八	一三・二	一三・四五	—	一三・一一	一四・一八	一六・九六	—	一九・四三	一五・一一
山口村	五三・七	六、五九五	二二・五	一三・〇〇	—	一二・三二	一二・八二	一六・一九	—	一二・三一	一八・〇三
小手指村	一三八・七	一九、八〇九	一四・三	一三・二九	—	一二・九一	一二・五九	一八・四一	—	一七・三三	一四・七七
入間村	一〇三・六	二〇、二一三	一九・七	一三・四七	一三・一四	一三・〇〇	一三・〇〇	一七・五六	二三・一六	一九・七六	一六・四三
堀兼村	一四六・七	二七、五七一	一八・八	一二・八二	一三・二五	一二・七三	一三・二三	一六・五六	三四・八五	一八・三九	一六・七九
福原村	五九・七	一三、〇五四	二〇・二	一三・四〇	—	一四・〇六	一二・九九	二〇・三〇	—	一四・九八	一七・九〇
奧富村	一三一・七	一七、二七九	一四・二	一三・八七	一三・七一	一二・九三	一三・三一	一六・五八	二八・六五	一六・一二	一六・三五
入間川町	一八〇・五	二五、九八六	一三・三	一三・二九	一三・五九	一二・二五	一二・八二	一七・〇四	三〇・八八	一五・一三	一六・八四
日東村	一〇九・〇	二一、〇四一	一九・三	一二・七二	一三・五五	一二・四五	一三・五三	一六・〇六	三三・五六	一五・九四	一六・〇九
大田村	一四二・八	二四、七二四	一七・三	一三・六九	一三・五八	一二・七三	一二・七八	一六・七四	三〇・二六	一六・二〇	一五・五三

田面澤村	四一・六	一〇、六〇一	二五・五	一三・四三	一三・四四	一二・六五	—	一六・三八	二九・七三	一五・二九	—
山田村	八九・四	一〇、一一七	一一・四	一三・五七	一三・四五	一二・七三	一三・〇〇	一五・四二	二七・九一	一三・七一	一五・三六
名細村	一九五・〇	二四、七六〇	一二・七	一三・七五	一三・三六	一二・九二	一二・九一	一八・三三	二八・五四	一五・四〇	一四・七六
霞ヶ關村	二七九、一	四一、一六三	一四・七	一二・九四	一三・六五	一三・六五	一三・八七	一五・四六	三〇・二七	一七・九四	一七・〇五
柏原村	九三・三	一五、九三五	一七・一	一三・四四	一三・六九	—	一三・六一	一七・五一	三〇・九七	—	一四・六八
水富村	一五三・三	一一、八三三	七・七	一三・二一	一三・六三	一二・九四	一二・七三	一七・五五	三一・二七	一五・五七	一六・六一
福岡村	三一・九	五、三三〇	一六・七	一三・九五	—	一三・六三	一三・八三	一七・三八	—	二五・六一	一六・六〇
大井村	八・六	二、七七二	三三・二	一四・八二	—	—	一三・一三	二三・五三	—	—	一七・三三
鶴瀬村	二三・四	三三、八四〇	一六・四	一三・九五	—	一三・三〇	一三・〇三	一七・七六	—	一九・二一	一七・九一
南畑村	四二・五	九、二九九	二一・九	一三・九三	—	—	一二・九七	一八・五八	—	—	一六・八三
宗岡村	五・八	六六七	一二・五	一三・六七	—	一三・四五	—	一四・一八	—	一八・五三	—
水谷村	七・六	一、九三八	二五・五	一四・二五	—	一三・二四	一四・四三	一六・九〇	—	二〇・七八	二四・八三
三芳村	一一・五	九五六	八・三	—	—	—	—	—	—	—	—
三ヶ島村	一三〇・九	二〇、四七〇	一五・六	一三・三三	—	一三・七〇	一二・七五	一六・九六	—	一七・七二	一七・二八
元狹山村	一一七・八	三三、二四〇	一九・七	一三・八〇	—	一二・四三	一三・七七	一六・三八	—	一五・八四	一五・三三
宮寺村	九四・一	一六、〇〇三	一七・〇	一三・一〇	—	一三・一九	一二・七〇	一七・一七	—	一〇・六〇	一七・〇九
金子村	一六〇・八	二九、五二七	一八・四	一三・八二	—	一三・三八	一一・五八	一六・三七	—	一六・六四	一五・〇二
東金子村	五九・二	七、六五九	一三・九	一三・二〇	—	—	—	一四・四三	—	—	—
豐岡村	一一〇・五	一一、七八六	一〇・七	一三・一七	一三・四四	—	一二・七三	一八・二〇	二八・二〇	—	一六・〇二

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黄繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋繭	對一時間繰絲量 春白繭	對一時間繰絲量 春黄繭	對一時間繰絲量 初秋白繭	對一時間繰絲量 晩秋白繭
藤澤村	九五・六	一三、〇四六	一三・六	一二・六〇	一二・七九	一三・七〇	一二・一二	一五・九七	一九・五三	一三・二六	一七・三八
三芳野村	一七八・七	三一、一三六	一七・四	一三・五六	一三・五四	一二・七一	一二・六〇	一五・七〇	二九・九九	一五・〇八	一四・二四
勝呂村	一三九・五	三二、一五三	二三・〇	一三・八一	一三・四七	一二・八〇	一三・四五	一七・一八	二六・〇五	一五・七五	一八・〇八
坂戸町	一七四・九	一八、〇五〇	一〇・三	一三・七七	一三・五六	一二・二六	一二・二九	一七・八一	三〇・〇三	一四・三八	一五・七七
入西村	一四四・五	二四、五四一	一七・〇	一三・五三	一三・二六	一三・三三	一二・八九	一七・二四	六九・四二	一四・五〇	一六・四九
大家村	一五三・八	三五、七二九	二三・二	一三・六四	一四・一一	一三・〇二	一三・四八	一七・九三	三一・〇九	一六・八四	一七・二三
川角村	一五九・一	二七、三七〇	一七・二	一二・七一	一三・〇一	一二・一〇	一二・五六	一五・八二	三〇・四一	一五・二八	一五・三三
毛呂村	八〇・二	一六、四〇五	二〇・五	一三・〇三	一三・五四	一三・五四	一二・七四	一六・七二	三一・一〇	一九・一八	一二・五二
山根村	一二七・四	一九、一一七	一五・〇	一二・九〇	一三・四三	一三・〇〇	一二・九九	一六・九〇	二六・三九	一八・六八	一八・三五
越生村	一四九・四	一七、八五七	一二・〇	一三・一二	一三・二三	一三・〇五	一三・〇三	一六・九八	三一・一八	一七・八九	一四・二八
梅園村	八八・一	一一、三〇一	一二・七	一三・四八	一一・六八	—	一一・九六	一六・六一	二三・七〇	—	一七・〇五
鶴ケ島村	二六一・九	四〇、九五九	一五・六	一三・二八	一三・三五	一二・七七	一二・九八	一七・四三	二九・四七	一七・〇四	一七・六三
高萩村	一二五・〇	二九、九八〇	二四・〇	一二・九四	一二・九三	一三・四八	一三・四〇	一七・一〇	二八・三三	一四・八〇	一五・七八
高麗川村	二三一・七	二六、〇六八	一一・三	一三・四四	—	—	一二・〇三	一四・九四	—	—	一四・六七
高麗村	一四一・六	二九、七八五	二一・〇	一三・一六	—	一二・二八	一二・六三	一七・六〇	—	一五・七四	一七・三七
東吾野村	八三・九	一三、七二〇	一六・三	一三・六三	—	一二・五六	一二・八〇	一九・四四	—	一六・五八	一五・四四
元加治村	七一・五	一〇、〇二二	一四・〇	一三・二七	一二・八六	一一・八三	一三・四一	一三・二二	三一・四一	一二・八三	一六・〇三
加治村	一〇五・六	二四、四九三	二三・二	一三・三〇	一三・五六	一〇・九二	一三・六一	一七・九六	三〇・二二	七・四五	一五・七三
精明村	一三一・八	二四、三八五	一八・五	一三・四〇	—	一二・六八	一三・一一	一八・四六	—	一五・五一	一五・〇三

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黄繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋繭	對一時間繰絲量 春白繭	對一時間繰絲量 春黄繭	對一時間繰絲量 初秋白繭	對一時間繰絲量 晩秋白繭
飯能町	一二一・三	一八、〇八一	一四・九	一二・六六	—	—	一三・二七	一七・九三	—	—	一五・七五
原市場村	一二八・九	一五、五九一	一二・一	一三・一七	—	—	一三・三六	一八・九八	—	—	一六・八三
南高麗村	七四・五	一三、六二〇	一八・三	一三・五六	—	—	一三・六七	一八・三九	—	—	一五・五九
名栗村	七一・三	九、八五六	一三・八	一二・三九	—	—	一一・二七	一三・三五	—	—	一二・八八
吾野村	一七五・〇	一五、五三四	八・九	一二・七一	—	—	一二・七六	一三・七八	—	—	一六・三三
入間郡川越市合計又ハ平均	六、七〇九・九	一〇八、二五三	一六・一	一三・二三	一三・五四	一二・七八	一二・七九	一七・一一	二九・六四	一六・六〇	一六・二八

比企郡

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黄繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋繭	對一時間繰絲量 春白繭	對一時間繰絲量 春黄繭	對一時間繰絲量 初秋白繭	對一時間繰絲量 晩秋白繭
松山町	一九三・四	二五、三八六	一三・一	一三・二六	一三・五三	一二・五八	一三・六五	一九・二六	二九・九八	一七・二五	一六・五二
大岡村	一四四・六	二六、五九二	一八・四	一三・六九	一三・八四	一二・五七	一二・四〇	一八・六九	二七・〇三	一五・七八	一七・五二
福田村	一六六・〇	二〇、〇八五	一二・一	一三・四六	一三・三三	一三・四六	一二・五九	一七・四二	二八・八二	一八・〇九	一五・六三
宮前村	一四九・九	三一、二六四	一四・九	一三・二三	一三・五七	一三・二八	一三・四七	一八・一〇	二九・九三	一五・八三	一五・七〇
唐子村	一八九・六	二四、五九〇	一三・〇	一三・一九	一三・三三	一二・七三	一二・五八	一九・三六	三三・四九	一四・七六	一六・二四
菅谷村	一六八・八	二五、七一八	一五・二	一三・一七	一二・九一	一二・八八	一三・六三	一七・八〇	三一・三三	一八・一三	一六・七六
七郷村	一四八・二	二四、六八六	一六・七	一二・八六	一二・六三	一三・三三	一三・六九	一七・七九	二七・三二	一四・八六	一六・〇五

町村名	桑口別反	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭	對一時繰絲量 春白繭	對一時繰絲量 春黃繭	對一時繰絲量 初秋白繭	對一時繰絲量 晩秋白繭
八和田村	一三二・二	二二、一四七	一六・八	一二・八七	一二・九三	一三・七四	一二・九〇	一七・四七	二七・一六	一七・一五	一六・四六
小川町	七五・八	一六、三九六	二一・六	一三・一一	一三・二六	一一・六〇	一二・六四	一七・五九	二四・三九	一四・六五	一七・〇三
竹澤村	五六・九	八、八四三	一五・五	一二・九三	一四・五一	一二・八九	一二・九八	一九・二七	二四・九四	二〇・七七	一七・九八
大河村	一二七・二	二〇、六五〇	一六・二	一三・五四	一三・七〇	一三・一六	一二・四二	一七・五三	二三・五五	一五・〇七	一六・七二
平村	五一・八	六、三八九	一二・三	一三・五五	—	—	一三・六〇	一六・二一	—	—	一七・四四
明覺村	八六・五	一二、五五一	一四・五	一三・五八	一三・二〇	一三・三三	一三・三三	一六・九一	二五・六一	一五・七〇	一八・四七
玉川村	一二六・二	一四、四九七	一一・五	一二・九一	一三・一九	一三・四三	一三・一七	一九・一六	二七・六三	一四・五七	一七・四八
亀井村	八七・一	一五、〇七七	一七・三	一三・一六	一三・二七	一三・〇五	一三・六八	一七・八六	二九・四三	一六・八八	一六・〇五
今宿村	八三・四	一五、三三七	一八・四	一三・〇二	一三・三九	一三・一〇	一三・四八	一七・八二	三一・四二	一六・九一	一七・二六
高坂村	一八七・一	四〇、五六八	二一・七	一三・八三	一四・二七	一三・四九	一三・二〇	一七・四三	二八・〇〇	一八・四五	一七・七五
野本村	二五一・二	四五、六六八	一八・二	一三・四三	一三・五六	一三・四〇	一二・三九	一七・六七	二八・三三	一七・三四	一五・六六
中山村	一七五・〇	三〇、六〇八	一七・五	一三・二三	—	一三・二四	一三・二九	一七・五三	—	二一・六〇	一五・九二
伊草村	九六・一	一七、一六二	一七・九	一三・三一	一三・七四	一二・八九	一三・四七	一八・〇三	二六・六二	一四・七〇	一七・八七
三保谷村	七二・三	一七、九五九	二四・八	一三・二五	一三・四四	一三・一一	一三・五二	一八・三八	二八・七三	一六・一五	一八・四六
出丸村	一七六・四	二四、三八三	一三・八	一三・五七	—	一三・〇八	一三・四九	一七・八五	—	一七・六一	一八・〇五
八ツ保村	九二・五	一二、三三三	一三・三	一三・三四	一三・五一	一三・九一	一二・二七	一六・四四	三〇・〇〇	一四・八七	一六・二八
小見野村	一一三・五	二四、〇九一	二一・二	一三・三三	一三・七四	一三・八六	一三・二九	一七・六八	三五・〇六	一五・三七	一六・二七
東吉見村	一五〇・八	三七、九八〇	二五・二	一三・七〇	一四・〇七	一二・三七	一二・八七	一七・七一	三一・四七	一六・四七	一四・三四
南吉見村	一五一・六	一五、九六四	一〇・五	一三・〇〇	一三・七四	一二・八一	一二・六六	一八・二〇	二九・六〇	一三・四八	一七・二六

町村名	桑口別反	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭	對一時繰絲量 春白繭	對一時繰絲量 春黃繭	對一時繰絲量 初秋白繭	對一時繰絲量 晩秋白繭
西吉見村	一二七・六	三三、八六五	二八・八	一三・九七	一三・五一	一三・三九	一三・二七	一九・二五	二六・三五	一五・四六	一九・四九
北吉見村	一九五・二	二六、六七七	一三・七	一三・八六	一三・六四	一三・五〇	一三・二六	一八・七三	二八・一五	一六・二七	一七・四八
比企郡合計又ハ平均	三、七六六・九	六二八、四四六	一六・七	一三・一八	一三・六八	一三・六九	一三・八四	一七・三九	二八・三一	一六・二九	一六・八五

秩父郡

町村名	桑口別反	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭	對一時繰絲量 春白繭	對一時繰絲量 春黃繭	對一時繰絲量 初秋白繭	對一時繰絲量 晩秋白繭
	丁	貫	貫	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
秩父町	一七七・二	二〇、四七五	一一・六	一三・九九	一三・二一	一三・三五	一三・六八	一八・二六	三三・二六	一五・九六	一三・二〇
横瀬村	七三・七	一二、七九六	一七・四	一三・二四	一三・三六	一三・四九	一二・七三	一六・五九	一七・九五	一七・六五	一八・三三
藻ケ久保村	六二・〇	五、六三三	九・一	一二・三〇	—	一二・九九	一三・四三	一一・三五	—	一四・〇三	一三・六八
高篠村	六七・〇	一〇、〇六三	一五・〇	一三・八八	一三・三一	一三・七三	一三・五四	二〇・六二	三三・七八	二〇・四四	一九・五九
原谷村	一〇五・六	一四、五八九	一三・八	一二・九四	一三・八九	一三・〇五	一三・四九	一一・七四	一三・五三	一七・三八	一六・九〇
皆野町	八四・〇	一〇、三三五	一二・三	一二・八七	—	一三・一六	一三・七五	一三・八〇	—	一六・〇三	一八・六八
三澤村	一三〇・五	七、八四八	六・五	一二・〇七	一三・二一	一二・一五	一三・三四	一一・六七	三四・四九	一五・五三	一七・二七
白鳥村	九三・七	二四、三九二	二六・〇	一三・六九	一三・九〇	一三・二五	一二・九六	一七・三八	二七・九九	一七・六六	一九・七八
樋口村	一一一・三	一九、七五五	一七・七	一三・八三	一三・七三	一四・九〇	一三・三四	一九・五〇	二八・二六	一八・四三	一九・九八
野上村	一四五・七	一七、四九二	一二・〇	一三・九八	一三・六三	一三・八八	一三・八五	二一・四五	二四・〇三	一七・三八	一八・〇二
國神村	五七・六	九、五四五	一六・六	一三・〇四	一三・〇三	一三・三六	一三・五六	一八・五五	三三・六四	一七・一三	一七・五九

金澤村	七五•七	八、五三〇	一一•三	一一•三〇	一二•〇三	一一•八八	一二•一六	一五•三三	二二•五六	一五•七八	一七•〇九
矢納村	五九•一	六、二二三	一〇•五	一一•三三	一一•六〇	—	一二•四一	一一•四六	二二•〇三	—	二三•七〇
日野澤村	一五七•三	一二、九四三	八•二	一三•一三	一一•一五	一三•〇九	一二•二四	一五•二六	一九•七〇	一八•六三	二一•三四
吉田町	一三二•四	一二、一一三	九•五	一二•四三	一二•一九	一一•九三	一一•八三	一五•四八	二〇•四六	一五•七六	一五•七七
大田村	一二六•七	一六、〇六二	一三•八	一一•九七	一三•七三	一二•八四	一三•八三	一六•〇〇	二七•八六	一七•二四	一八•八三
尾田蒔村	一四八•八	一一、一六五	七•五	一二•六〇	—	一二•六五	一二•七七	一三•一〇	—	一五•三五	二〇•〇六
長若村	九一•〇	一三、二七八	一四•六	一三•〇七	一一•一五	一三•八九	一二•〇九	一三•七〇	一三•三三	一四•六五	一六•七一
小鹿野町	一四五•二	一八、二七五	一二•六	一一•一三	一二•一〇	一二•七五	一三•五三	一三•五一	一八•〇五	一五•〇六	一九•八五
上吉田村	二三八•二	二四、三四六	一〇•二	一〇•九六	一一•三九	一一•九七	一二•〇九	一五•三三	一七•七四	一五•九一	一七•一三
倉尾村	一八七•六	一五、三五三	八•一	一一•六一	一二•〇一	一三•〇〇	一二•三三	一三•〇八	二三•二〇	一四•四六	一七•九八
三田川村	二二九•六	一六、一一四	七•三	一一•七二	一三•〇九	一二•八九	一二•六〇	一五•五〇	二二•七二	一九•五一	一八•〇二
両神村	三三六•七	一九、二八八	五•九	一一•七二	一二•一一	一一•九三	一三•〇五	一五•二六	三三•〇八	一七•四〇	一七•九五
大瀧村	二〇八•二	六、九八一	三•四	九•七二	一一•六三	一一•五八	一二•八二	一一•五四	二〇•四五	一四•八七	一七•五二
白川村	九七•九	七、五八五	七•七	一〇•六一	一二•〇八	一二•八七	一二•六八	九•八九	二〇•一二	一六•一〇	一八•八九
中川村	一三八•八	二一、九五三	一五•八	一三•六四	一三•一三	一二•八一	一三•六一	一五•九一	二一•九八	一五•九〇	一九•一〇
浦山村	一七•九	一、七〇八	九•五	一二•二三	一〇•五三	—	一二•九九	二八•二六	九•二三	—	一九•三〇
影森村	八三•三	九、〇三八	一〇•八	一二•二三	一一•八五	一二•五三	一二•七八	一七•〇五	一四•五八	一六•四四	一九•二八
大椚村	三五•五	四、一〇八	一一•六	一三•〇七	一二•五三	一一•九七	一一•八六	一七•五三	二七•八二	一五•〇四	一四•六八
槻川村	九五•四	一五、三七六	一六•一	一二•一八	一〇•九八	一三•二六	一一•八六	二〇•八四	一三•四六	一七•二三	一七•三六
大河原村	七六•六	一一、〇八四	一四•五	一三•八一	—	一一•四五	一三•〇九	一二•九七	—	一三•四一	一九•三八
久那村	五四•三	八、七九四	一六•二	一三•一六	一二•一四	一三•一三	一三•〇五	一三•二四	二三•六九	一三•五七	一八•七一
秩父郡合計又ハ平均	三、九〇四•五	四二三、〇九七	一〇•八	一一•九三	一二•一四	一二•三六	一二•五二	一五•八七	二一•一四	一六•四四	一八•〇三

兒玉郡

項目 / 町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晚秋白繭	對一時繰絲量 春白繭	對一時繰絲量 春黃繭	對一時繰絲量 初秋白繭	對一時繰絲量 晚秋白繭
本庄町	反 一九七•三	貫 一二、一七二	貫 六•二	匁 一二•九一	匁 一三•六〇	匁 一一•七五	匁 一二•三〇	匁 一三•九三	匁 二七•一八	匁 一六•四三	匁 一六•一四
藤田村	二四一•五	四三、三九六	一八•〇	一三•五四	一三•九八	一二•八三	一三•〇三	一八•五三	二九•七〇	一七•五五	一七•七八
仁手村	六四•〇	二六、六九八	四一•七	一三•一二	一三•六〇	一三•四三	一三•一七	一六•二一	二七•〇〇	二〇•五八	一九•九五
旭村	一五六•〇	三二、二七四	二〇•七	一三•五〇	一三•五六	一二•二八	一三•〇一	一九•六三	二七•七六	一五•二四	一六•八七
北泉村	一九〇•〇	二九、〇六五	二〇•六	一四•〇〇	一三•六六	一三•七二	一二•八八	一六•八三	三〇•〇三	一五•二七	一七•一七
東兒玉村	一九七•〇	二七、三〇七	一三•九	一三•二一	一三•四四	一二•九五	一三•〇九	一五•七八	二四•八一	一三•五三	一八•八三
共和村	一九六•四	三六、四七八	一八•六	一四•四九	一三•〇四	一二•六六	一三•二七	一九•六二	二六•三三	一四•四九	二一•八九
兒玉町	一五五•三	一一、八八〇	七•六	一三•五七	一三•六三	一三•八〇	—	二〇•三三	二九•一四	一八•七九	—
金屋村	一六五•一	二七、〇六八	一三•五	一二•八八	一三•九二	一三•三六	一三•二五	一七•三八	二九•〇三	二六•一三	一八•〇六
青柳村	一四五•一	二三、九六七	一六•五	一三•五三	一三•三六	一二•五八	一三•〇三	一七•五三	三一•一八	一五•五五	二一•二八

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晚秋白繭	對一時繰絲量 春白繭	對一時繰絲量 春黃繭	對一時繰絲量 初秋白繭	對一時繰絲量 晚秋白繭
若泉村	二二七・三	二一、八六三	九・六	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・一三	一三・七〇	二一・一四	二七・二四	一八・八八	二〇・一三
本泉村	七五・七	一四、〇七一	一八・六	一三・八一	一三・七〇	一三・六一	一三・六六	一八・二一	二七・〇九	一八・五三	一七・四三
神保原村	一〇四・八	一八、七五三	一七・九	一三・七六	一三・九四	—	一三・五二	二〇・二〇	三一・七二	—	一九・七一
賀美村	二二〇・五	二〇、九二三	九・五	一三・九七	一三・九五	一三・三八	一三・四四	一八・九六	二七・七三	一五・〇三	一八・六一
七本木村	二二八・九	二五、八二五	一一・三	一三・五三	一三・五四	一三・二九	一三・六六	一七・九二	二八・八六	一七・一三	二一・六七
長幡村	一八三・九	二五、一五〇	一三・七	一三・〇六	一三・五一	一二・六四	一三・三〇	一八・三三	二五・八六	一八・一二	一九・一三
丹莊村	二七一・六	七三、八五五	二六・八	一四・四〇	一四・〇六	一三・一〇	一三・九六	一八・三六	三一・三六	一四・六七	一八・六九
秋平村	一二五・三	一八、四八五	一四・八	一三・四八	一三・七〇	一二・八三	一三・一二	一九・六二	二七・五四	一七・七三	一九・一二
松久村	一九五・七	三三、五七九	一七・二	一三・六三	一三・五七	一三・二〇	一三・三四	一九・六五	二九・九五	一七・三五	一七・五一
大澤村	一五七・一	二四、〇五五	一五・三	一二・八八	一三・一三	一二・六一	一二・八一	一八・二九	二八・六七	一六・六八	一九・五八
兒玉郡合計又ハ平均	三、三九四・五	五五五、八五四	一六・四	一三・四二	一三・四六	一二・八三	一三・三〇	一八・三〇	二八・一〇	一六・六二	一八・七九

大里郡

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晚秋白繭	對一時繰絲量 春白繭	對一時繰絲量 春黃繭	對一時繰絲量 初秋白繭	對一時繰絲量 晚秋白繭
熊谷市	四三〇・五丁	四四、一一〇貫	一〇・五貫	一三・一三匁	一三・七七匁	一三・〇一匁	一三・八五匁	一七・七九匁	二八・三六匁	一五・〇三匁	一四・四七匁
佐谷田村	五七・二	一三、六五七	二三・九	一四・三八	—	一三・六三	一三・五五	二〇・七四	—	一七・五八	一七・八〇
久下村	一二七・七	二一、三〇一	一六・七	一三・四八	一三・八三	一二・三五	一三・〇二	一九・二四	二八・四六	一七・〇〇	一五・五二

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晚秋白繭	對一時繰絲量 春白繭	對一時繰絲量 春黃繭	對一時繰絲量 初秋白繭	對一時繰絲量 晚秋白繭
大麻生村	一八九・五	二九、一八八	一五・四	一二・四九	—	一二・九六	一二・七六	一八・一五	—	一八・七二	一三・九七
吉見村	一一四・六	一八、四〇〇	一六・一	一三・一八	一三・五四	一二・三八	一二・一五	一九・〇一	二六・〇八	一三・七四	一二・七六
御正村	一六一・五	三三、九八九	二一・〇	一三・二七	一二・四六	一二・八五	一一・六七	一八・六六	一六・七七	一六・三〇	一五・二八
市田村	二〇三・五	四五、八〇〇	二二・六	一三・一三	一二・七五	一二・八六	一三・〇三	一七・三三	二九・六八	一二・〇六	一四・七九
吉岡村	一三一・〇	二〇、八九二	一五・九	一三・一一	一二・四六	一二・七六	一二・五三	一七・三一	三一・七四	一五・九四	一四・五九
男沼村	一五八・〇	四六、七四五	二九・六	一三・二七	一三・九八	一二・六七	一三・〇六	一七・三四	二八・一五	一三・八八	一四・八四
太田村	一四一・六	一九、五六二	一三・八	一三・六八	—	一二・七九	一三・〇二	一九・三五	—	一七・一二	一五・二六
明戸村	一四一・〇	三九、七三五	二八・二	一三・九七	一四・一七	一二・八九	一二・八九	一六・三三	二六・三三	二〇・二九	一五・三三
幡羅村	一九八・〇	三九、一三四	一九・八	一二・九四	一三・八六	一四・四七	一三・〇七	一六・〇三	二七・七三	一六・五九	一五・二五
別府村	九八・二	二二、四〇一	二二・八	一三・五一	—	一二・六八	一三・四九	一九・三三	—	一三・二〇	一七・七七
三尻村	一六三・五	三一、〇一三	一九・一	一三・六〇	—	一三・八四	一二・七四	一七・五九	—	一七・三〇	一六・〇七
玉井村	一五七・九	三〇、七〇三	一九・四	一三・三七	—	一三・五一	一二・三五	一七・三七	—	一五・三四	一三・三一
奈良村	一四八・一	二六、一六四	一七・七	一三・〇三	一二・八八	一二・三六	一二・三八	一八・〇一	二五・〇三	一二・九三	一三・七七
長井村	一六六・九	二四、六五〇	一四・八	一三・〇九	一四・二一	一二・五九	一三・一一	一九・九〇	三六・二七	一四・〇〇	一五・七六
秦村	一〇四・一	一九、五七八	一八・八	一三・三五	一四・六五	一二・八五	—	一八・二二	四〇・〇八	一三・七一	—
妻沼町	一〇五・三	二四、九〇五	二三・七	一三・〇九	一三・四七	一二・五七	一三・〇五	一八・三五	三三・六三	一三・〇三	一六・八四
深谷町	六三・四	一〇、一五四	一六・〇	一二・五八	—	一三・八一	一三・二九	一八・五八	—	一六・九一	一四・七八
大寄村	一三五・九	三三、四六三	二四・六	—	一四・三〇	一二・九一	一三・四二	—	二六・一八	一四・八三	一三・八六
新會村	一六三・二	三八、二四七	二三・四	一三・九九	一三・七六	一三・〇四	一二・四七	一四・六三	二八・五七	一三・〇四	一三・三三

町村名	桑園反別	總收繭額	反當收繭額	對生繭百匁生絲量 春白繭	對生繭百匁生絲量 春黃繭	對生繭百匁生絲量 初秋白繭	對生繭百匁生絲量 晚秋白繭	對一時間繰絲量 春白繭	對一時間繰絲量 春黃繭	對一時間繰絲量 初秋白繭	對一時間繰絲量 晚秋白繭
中瀨村	八八・三	二三、二二一	二六・三	一四・四四	一二・〇二	一二・九五	一二・四四	二四・九八	二八・二二	一六・三三	一三・六三
八基村	二四九・四	三九、一九〇	一五・七	一三・六〇	一三・八五	一二・八八	一二・八五	二二・五七	二六・四二	一六・六七	一五・五四
榛澤村	一八九・二	二七、九四三	一四・八	一三・九三	一三・七七	一二・四六	一三・一五	一九・六九	三四・五〇	一六・二四	一三・五一
本鄉村	一五四・六	二二、六七一	一四・七	一三・八二	一三・一二	一二・九四	一三・四二	一八・七七	二九・九二	一五・七八	一八・〇五
岡部村	二六三・〇	四六、九〇七	一七・八	一三・四九	一三・九九	一二・七三	一二・八四	一七・九六	二七・三九	一五・九九	一四・三三
用土村	一二八・五	二七、八二〇	二一・六	一二・九四	一三・九五	一二・四〇	一二・二七	一九・四六	二三・九三	一四・七〇	一二・八三
櫻澤村	六〇・八	一八、七五三	三〇・八	一二・七七	一三・一六	一三・一一	—	二〇・〇二	二八・二四	一九・九九	—
寄居町	一二三・六	一八、九八五	一五・四	一三・五四	—	一二・八〇	—	一九・四四	—	二〇・三五	—
花園村	四二六・七	五七、三五五	一三・四	一三・三七	一二・六三	一二・九一	一二・六九	一六・九〇	二四・二三	一六・九五	一三・九四
武川村	二四八・五	二七、一〇五	一〇・九	一三・五二	—	一三・三三	一二・六六	一九・三三	—	一七・五二	一六・四八
藤澤村	五五五・八	九七、六四五	一七・六	一二・九九	一二・八一	一三・五九	一二・八〇	一七・四九	二五・八四	一六・六五	一四・〇〇
男衾村	一九七・四	三四、八二八	一七・六	一二・九五	一二・八二	一二・六七	一二・八六	一八・五七	三〇・二四	一六・六三	一五・八四
小原村	一二三・四	一七、五五九	一四・三	一二・四七	一二・九五	一三・〇五	一三・〇四	一五・二七	二四・九一	一四・一六	一四・七一
本畠村	一七一・七	二七、二九五	一五・九	一二・八四	一三・一〇	一二・五九	一二・〇一	一七・七〇	二四・〇九	一六・二五	一三・九四
鉢形村	七四・〇	一八、二六四	二四・七	一三・四一	一三・八一	一二・八二	一三・四六	二二・九一	二五・九五	一九・八九	一六・三六
折原村	一〇九・五	二〇、九三〇	一九・一	一二・七三	—	一二・四一	一二・八五	一六・一一	—	一五・三六	二一・九二
大里郡熊谷市合計又ハ平均	六、五二二・〇	一、一七九、二四八	一八・一	一三・二七	一三・四八	一二・七三	一三・四六	一八・〇五	二六・九三	一五・八五	一四・六四

北埼玉郡

町村名	桑園反別（丁）	總收繭額（貫）	反當收繭額（貫）	對生繭百匁生絲量 春白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 春黃繭（匁）	對生繭百匁生絲量 初秋白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 晚秋白繭（匁）	對一時間繰絲量 春白繭（匁）	對一時間繰絲量 春黃繭（匁）	對一時間繰絲量 初秋白繭（匁）	對一時間繰絲量 晚秋白繭（匁）
忍町	一七・九	二、二八三	一二・八	一三・四三	一三・六一	一三・〇四	一二・八二	二〇・八五	二〇・一六	一七・一五	一八・〇九
羽生町	三〇・七	四、二九六	一四・〇	一三・二七	一二・五五	—	一三・一五	二〇・六一	三四・〇〇	—	一五・四〇
加須町	二七・八	五、一六二	一八・六	一五・一四	一三・一八	一二・五六	—	二〇・七一	二八・八七	一三・八〇	—
騎西町	四九・〇	四、〇〇一	八・二	一三・八七	一三・四三	一二・九四	一三・一六	二〇・三〇	二二・五五	一四・九〇	一七・九一
中條村	七六・二	一七、八二〇	二三・四	一三・二四	一三・二三	一二・八二	一三・三〇	二二・二七	三一・四〇	一七・六七	二〇・四九
南河原村	七四・五	一六、八八一	二二・七	一三・六〇	一三・〇五	一二・六三	一二・二九	二一・三八	二四・五三	一七・五一	一八・四七
北河原村	四五・五	七、七一三	一七・〇	一三・一八	一二・九七	一三・二六	一二・三三	一八・三四	二五・七九	一九・〇三	一六・〇〇
星河村	六〇・〇	八、九九〇	一五・〇	一三・四六	一三・〇五	—	一二・八五	二五・五七	二六・八四	—	二〇・九九
星宮村	五九・〇	七、一〇三	一二・〇	一三・三三	一三・一五	一二・六〇	一三・三〇	二三・六一	二六・一三	一三・二九	一四・七七
持田村	四二・六	八、四三七	一九・八	一四・二三	一二・六三	一二・七七	一三・六八	二四・七〇	二〇・七六	一七・四七	一九・八六
太井村	五三・六	九、四七三	一七・七	一二・九五	一三・七〇	一二・六九	一二・三七	一九・一七	二八・八〇	一七・七八	一六・七九
下忍村	一一八・六	二一、一三六	一七・八	一三・三八	一三・三六	一二・九六	一三・三五	二一・〇一	三三・〇一	一七・〇九	一六・七九
長野村	三一・〇	一一、三七〇	三六・七	一三・一九	一三・一七	一三・七九	一二・二五	二〇・九五	二七・五四	一六・〇九	一七・六二
荒木村	三二・八	一〇、〇六二	三〇・七	一三・一三	一三・三四	一二・七二	一二・三七	二〇・三五	二六・八三	一五・六〇	一七・八七
須加村	五六・五	一二、五〇二	二二・一	一二・八五	一三・三五	一二・一四	一三・〇五	一五・八四	二八・一九	一三・七四	一八・八〇

新郷村	七七・七	一〇、三二四	一三・一	一三・二四	一二・八八	一二・六八	一三・四二	一五・三六	二八・〇三	一四・五一	二〇・〇九
太田村	一二二・五	一三、一三三	二〇・七	一三・八四	一三・四四	一二・九三	一三・二六	二三・八八	二八・一二	一六・七一	一七・五〇
埼玉村	一八〇・四	三六・二五三	二〇・一	一三・三六	一三・三三	一二・九〇	一三・八三	一八・八六	三〇・七七	一七・五四	一八・二四
屈巣村	一一三・五	二九・二八	二五・七	一四・四四	一三・八〇	一三・〇六	一三・二一	二〇・二三	二六・四一	一六・七一	一七・四四
廣田村	一二四・一	二〇・三五二	一七・八	一四・二七	一三・六五	一二・四七	一三・九九	一八・三〇	三〇・九六	一三・五九	二五・九五
須影村	八四・七	一九・七三〇	二三・三	一四・〇〇	一三・一〇	一二・四六	一二・七〇	二一・六三	二六・三四	一三・二八	一八・六八
岩瀬村	七五・九	一三・五七一	一七・九	一二・七〇	一三・一〇	一四・一九	一三・七〇	一七・〇六	二五・九五	一六・三一	一六・三五
川俣村	五五・〇	一〇・二四三	一八・六	一三・〇七	一三・一三	一二・九〇	一三・六六	一九・二四	二九・一〇	一六・五五	一七・八三
井泉村	九六・六	一八・一二一	一八・八	一三・二五	一二・八二	一二・九六	一二・四三	一九・〇三	二六・五八	一六・六七	一八・三三
中島村	二六・八	五・〇三三	一八・七	一三・一〇	一二・七一	—	一三・三四	一四・三〇	二七・一四	—	一五・九四
手子林村	九〇・五	一九、四七九	二二・五	一三・七一	一三・一三	一二・六一	一三・九四	一八・八八	二七・〇四	一五・三三	一六・八二
志多見村	九五・〇	二〇、九一五	二三・〇	一三・三五	一三・二〇	一二・八六	一二・八七	二三・〇三	二六・七〇	一四・七八	一七・〇九
田ケ谷村	九六・三	一八、三五四	一九・一	一三・五一	一三・二〇	一二・三四	一二・八七	一九・八七	二八・三二	一三・八六	一八・四〇
共和村	七五・四	一六、三五八	二二・七	一四・〇四	一三・六二	一二・七三	一二・八二	一六・三五	二三・〇六	一五・四四	一八・三五
笠原村	一〇三・〇	二三、〇一三	二三・三	一三・〇九	一三・七六	一二・六三	一三・五三	一八・一六	二九・三九	一五・六四	一八・八〇
種足村	一二九・二	一五、九六三	二二・四	一三・二八	一三・六七	一二・九二	一二・九〇	一九・八四	二二・六五	一六・三九	一六・九六
高柳村	四三・四	一二、二六九	二八・三	一四・一〇	一二・九三	一二・〇一	一二・九六	二四・〇七	二七・〇四	一五・二三	一八・七四
礼羽村	六七・七	一二、三四九	一八・二	一三・〇二	一三・〇九	一二・七五	一三・六一	一七・九七	三〇・三七	一六・五三	一七・〇五
不動岡町	八一・二	一五、五三五	一九・一	一三・四七	一二・五〇	一二・四八	一二・八〇	一七・三九	二五・〇一	一四・三九	一七・三九

樋遣川村	一三〇・七	二七、七三一	二一・二	一三・四四	一四・一〇	一二・二六	一三・一八	一九・八四	三一・三五	一四・〇六	一八・七九
三田ケ谷村	一二四・六	一三、四五八	一八・〇	一三・六五	一四・〇三	一三・二〇	一三・二九	一八・八〇	二六・五七	一六・三一	一八・八三
村君村	五七・三	一三、四二八	二一・七	一三・五七	一三・一九	—	一三・一四	一九・二八	二六・四四	—	一七・九六
大越村	八八・九	二〇、一一五	三一・六	一三・〇三	—	一三・九四	一二・九二	一九・二六	—	一六・三〇	二〇・一七
利島村	一一八・〇	一八、四五一	二四・一	一三・四〇	—	一三・二五	一二・八七	一七・三四	—	一一・三〇	一七・三五
川邊村	八四・八	一五、〇八〇	一七・八	一三・七八	一三・三七	—	一三・五二	一八・八九	三一・三〇	—	一八・五八
東村	二六・〇	七、三四六	二八・三	一三・二九	—	一三・一九	一四・一一	二〇・一八	—	一六・三一	二一・二二
原道村	七〇・二	七、六九五	二一・〇	一三・二四	一三・一三	一二・九七	一三・三〇	二〇・四七	二五・一二	一六・一五	一九・七九
元和村	七五・八	一九・三八九	二五・六	一三・七九	—	一二・六六	一三・二六	二〇・二四	—	一五・五四	一八・三六
豐野村	一〇四・六	一五・二四九	一四・六	一三・六三	一三・二四	一二・九六	一二・八一	二〇・〇〇	二七・〇六	一四・五〇	一九・四八
三俣村	九八・六	一九、一一三	一九・五	一三・三六	一三・五三	一二・九六	一三・四四	一九・五五	三三・六〇	一四・三五	二〇・七五
大桑村	八八・九	一七、七五九	二〇・〇	一三・二三	一三・五一	一二・五一	一三・一一	一八・三五	二八・八九	一三・五七	一八・二四
水深村	一二四・二	一三、三七六	二〇・五	一三・六〇	一三・三九	一三・三三	一二・八〇	一八・四七	二七・八八	一四・九七	一八・六〇
鴻茎村	八一・四	一二、四七三	一五・三	一三・三六	一三・四二	一二・六八	一三・一六	一九・〇五	三三・八六	一五・九三	一七・七一
北埼玉郡合計又ハ平均	三、七九五・六	七三六、一四九	一九・四	一三・四八	一三・三三	一二・七〇	一二・七九	一九・七三	二八・二七	一六・三六	一七・六七

南埼玉郡

町村名	桑園反別（丁）	總收繭額（貫）	反當收繭額（貫）	對生繭百匁生絲量 春白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 春黄繭（匁）	對生繭百匁生絲量 初秋白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭（匁）	一時間繰絲量 春白繭（匁）	一時間繰絲量 春黄繭（匁）	一時間繰絲量 初秋白繭（匁）	一時間繰絲量 晩秋白繭（匁）
岩槻町	一三・〇	二七八	二・一	—	—	—	—	—	—	—	—
豊春村	二四・〇	一、六六七	六・九	一三・九八	一四・三六	一三・四〇	一四・〇三	二〇・九九	三三・一三	一九・二五	二〇・七九
内牧村	三五・六	四、八七三	一三・七	一三・三三	一四・一五	一三・四七	一三・七〇	一九・二六	二八・四〇	一九・五七	一五・一三
粕壁町	一〇・四	二、一一三	二〇・五	一四・〇四	—	一三・四七	—	二一・八二	—	一四・三一	—
川通村	九・〇	七五八	八・四	—	—	—	—	—	—	—	—
武里村	一三・五	二、一一九	一七・〇	一四・二七	一三・九五	—	一三・六〇	一八・三八	二九・五〇	—	一八・九〇
櫻井村	一三・四	四、四八〇	三三・四	一四・二三	一三・九三	一三・四七	一三・〇四	一三・三七	三六・三五	二三・〇七	一九・三六
新方村	七・五	二、二三九	二九・九	—	一四・〇〇	—	—	—	二七・二六	—	—
大袋村	一・五	一九二	一二・八	—	—	—	—	—	—	—	—
荻島村	一・四	三三九	一七・一	—	—	—	—	—	—	—	—
柏崎村	三・九	八二〇	二一・〇	—	—	—	一三・五三	—	—	—	一九・三三
和土村	〇・八	二六九	三三・六	—	—	—	—	—	—	—	—
新和村	〇・五	一二六	三三・二	—	—	—	—	—	—	—	—
蒲生村	〇・一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大相模村	〇・三	三一	一五・五	—	—	—	—	—	—	—	—
大澤町	〇・二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
慈恩寺村	二七・一	三、一一九	一一・七	一三・八六	一三・九四	—	一三・六三	一九・〇四	二七・〇一	—	一九・一七

町村名	桑園反別（丁）	總收繭額（貫）	反當收繭額（貫）	對生繭百匁生絲量 春白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 春黄繭（匁）	對生繭百匁生絲量 初秋白繭（匁）	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭（匁）	一時間繰絲量 春白繭（匁）	一時間繰絲量 春黄繭（匁）	一時間繰絲量 初秋白繭（匁）	一時間繰絲量 晩秋白繭（匁）
日勝村	一〇六・四	一四、一六八	一三・三	一三・一八	一三・九五	一一・九七	一三・四二	二一・二五	二六・四五	一六・〇四	二二・二〇
須賀村	七八・五	一四、一五五	一八・〇	一四・一四	一八・八八	一二・九〇	一三・二六	二一・八〇	二七・五一	一八・五六	一八・三一
百間村	五八・七	一二、八三九	二一・九	一二・五五	一三・五五	一二・四六	一三・八五	一七・六二	二七・九一	一七・四五	二〇・六一
太田村	七一・〇	一四、四四四	二〇・三	一三・五四	一三・九一	一三・三三	一三・四[illegible]	二一・七八	三四・六九	一九・〇九	二三・六四
久喜町	二四・一	三、二四八	一三・五	一三・八三	—	—	一四・一〇	一八・六八	—	—	一八・二六
鷲宮町	九三・六	一八、九二〇	二〇・二	一三・七九	一四・二三	一二・六六	一三・〇六	一九・三三	三三・五九	一六・九〇	一八・四三
清久村	五一・〇	一二、四四五	二四・四	一三・五三	一三・六八	一二・九三	一四・三三	二三・〇一	二九・一二	一六・五五	二四・五七
江面村	一三三・七	二五、七〇四	一九・三	一三・四〇	一三・八一	一三・二八	一二・七一	一九・九三	二六・七九	一九・五三	二〇・〇七
河合村	五九・六	一一、六六三	一九・六	一四・〇七	一三・六九	一三・一二	一四・三三	二三・〇二	三八・二五	二三・四三	二三・一三
黒濱村	七〇・二	九、二八二	一三・二	一三・〇八	一四・一四	一二・八五	一三・八五	二一・八五	二三・八三	二〇・二六	二〇・九七
蓮田町	八二・六	一六、〇五九	一九・四	一三・七五	一四・三〇	—	一三・八三	二四・〇〇	二三・三五	—	二三・一九
平野村	一三二・八	二八、四八三	二二・二	一三・六三	一三・九三	一三・七六	一三・三三	一八・九七	二八・七四	二三・七九	一九・三七
栢間村	八五・四	二〇、八三四	二二・七	一三・八八	一四・五二	一二・八四	一三・八一	一六・九七	二八・六六	一九・〇三	二〇・七三
小林村	九一・二	二〇、六三五	二二・六	一四・六三	一三・七五	一二・八四	一三・六四	二二・七四	二五・三〇	一九・七八	一九・九五
菖蒲町	六一・一	一五、五九九	二五・五	一三・一八	一四・一〇	一三・五一	一三・一八	一七・〇〇	二八・八二	一八・二一	二〇・三七
三箇村	八〇・七	一五、四一〇	一九・一	一三・一四	一四・一二	一二・八三	一三・七一	二三・九〇	三〇・一五	二三・四三	二三・五四
篠津村	一〇三・六	一五、一〇六	一四・六	—	一四・一二	一二・八三	一三・五八	—	二九・七八	一八・六九	二三・三八
大山村	六二・二	一六、〇四二	二五・八	—	一三・七七	—	一三・一九	—	二七・三三	—	一九・七〇

町村名 ＼ 項目	桑口反別 (丁)	總收繭額 (貫)	反當收繭額 (貫)	對生繭百匁生絲量 春白繭 (匁)	對生繭百匁生絲量 春黄繭 (匁)	對生繭百匁生絲量 初秋白繭 (匁)	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭 (匁)	對一時間絲量 春白繭 (匁)	對一時間絲量 春黄繭 (匁)	對一時間絲量 初秋白繭 (匁)	對一時間絲量 晩秋白繭 (匁)
南埼玉郡合計又ハ平均	一、五九七・二	二九八、四一七	一八・七	一三・六二	一三・九九	一三・八二	一三・四八	二〇・三六	二八・一七	一九・三三	二〇・二九

北葛飾郡

町村名 ＼ 項目	桑口反別 (丁)	總收繭額 (貫)	反當收繭額 (貫)	對生繭百匁生絲量 春白繭 (匁)	對生繭百匁生絲量 春黄繭 (匁)	對生繭百匁生絲量 初秋白繭 (匁)	對生繭百匁生絲量 晩秋白繭 (匁)	對一時間絲量 春白繭 (匁)	對一時間絲量 春黄繭 (匁)	對一時間絲量 初秋白繭 (匁)	對一時間絲量 晩秋白繭 (匁)
栗橋町	二四・六	二、七六二	一一・二	一三・七〇	—	—	—	二三・五二	—	—	—
靜村	一一〇・六	二四、三八三	二二・〇	一三・六八	一四・二六	一三・四〇	一二・九六	二一・五〇	二五・五四	一六・一四	一六・九一
豐田村	八四・四	一七、二一九	二〇・四	一二・八六	一三・三三	一三・二六	一二・九一	二二・七六	二九・九六	一三・九四	一六・一六
櫻田村	一一八・二	二四、〇四五	二〇・三	一三・一三	一三・六一	一三・四七	一三・〇七	二〇・八一	二五・五五	一七・五六	一六・一六
行幸村	六九・七	一六、三三三	二三・四	一三・一二	一四・一五	一三・一三	一三・二〇	一九・〇四	三〇・四二	一八・五四	二〇・八四
幸手町	三三・八	四、二二六	一二・五	一三・〇九	—	一一・三三	一三・〇六	二一・〇〇	—	九・一三	一一・〇三
上高野村	二三・七	四、八八四	二〇・六	一二・七四	一一・五八	—	一三・一三	一七・四九	一五・一三	—	一八・二七
高野村	四八・四	九、九八二	二〇・六	一三・〇四	一四・〇〇	一二・七二	一三・二七	一八・四五	二六・三四	一三・八七	一一・四八
權現堂川村	八一・八	一八、八二六	二三・〇	一三・六〇	一三・一八	一二・九五	一三・四六	一七・九二	二六・〇五	一六・二七	一七・八八
吉田村	九六・五	一六、二七七	一六・九	一三・五四	—	一三・〇九	一三・三三	二一・一五	—	一六・九八	一九・七〇
八代村	五六・六	五、六五三	一〇・〇	一三・二三	—	一三・二四	一二・六二	二一・〇六	—	一二・三八	一六・五八
田宮村	五三・〇	一一、五〇一	二一・七	一三・二六	一二・九一	一二・九九	一三・五六	二一・〇七	二五・三八	一五・五七	一三・七五
杉戸町	二六・七	五、〇四八	一八・九	一三・三七	—	一二・三六	—	一九・四六	—	一六・三三	—
堤郷村	三五・四	六、六〇二	一八・六	一二・九七	—	—	一三・二〇	一五・六八	—	—	二二・二一
幸松村	一九・二	二、七一一	一四・一	一三・〇七	—	一三・六五	一三・八四	一八・七七	—	一七・六三	一七・三五
豐野村	二二・六	六、三九三	二八・三	一三・七八	一四・二三	—	一三・八七	一八・二三	二七・一〇	—	一八・九一
松伏領村	六・二	一、七四四	二八・一	一四・六五	一四・五六	—	—	二三・六七	三三・八四	—	—
旭村	〇・九	九五	一〇・六	—	—	—	—	—	—	—	—
三輪野江村	〇・五	二三五	四七・〇	—	—	—	—	—	—	—	—
豐岡村	二六・四	四、五七二	一七・三	一三・〇三	—	一三・七〇	一四・一九	二一・九七	—	一六・八三	一九・四九
櫻井村	五七・七	一一、三三五	一九・六	一三・二七	—	一三・三四	一三・三七	二〇・六〇	—	二二・二〇	一六・一一
寶珠花村	八・四	一、一五六	一三・八	一二・八六	—	—	—	二一・〇三	—	—	—
富多村	三八・三	三、六三一	九・五	一二・六二	一四・〇三	—	一二・九三	一八・四九	三三・三	—	一六・二二
南櫻井村	一九・二	七、七三〇	四〇・三	一二・一八	—	一三・七四	一三・五三	一七・六二	—	一三・一七	一六・六三
川邊村	一〇・一	二、七三一	二七・〇	一三・四八	—	一三・六三	—	一八・八四	—	一七・四二	—
金杉村	〇・四	六七	一六・八	—	—	—	—	—	—	—	—
北葛飾郡合計又ハ平均	一、〇七三・三	二一〇、六三九	一九・六	一三・一三	一三・八三	一三・〇九	一三・二七	一九・九八	二七・二八	一六・三一	一七・〇三
埼玉縣合計又ハ平均	三二、九〇四・〇	五、四九九、〇五二	一六・七	一三・一五	一三・三九	一二・六九	一二・七九	一七・八三	二七・六三	一六・三〇	一六・九四

（六）最近十五ケ年間繭檢定成績（白繭）

年次	生繭百匁ノ糸量 春	生繭百匁ノ糸量 初秋	生繭百匁ノ糸量 晩秋	對一時間繰糸量 春	對一時間繰糸量 初秋	對一時間繰糸量 晩秋
大正十一年	一二・四匁	八・八匁	九・六匁	一二・二匁	六・五匁	九・〇匁
同十二年	一一・三	九・五	九・三	一三・〇	六・九	七・二
同十三年	一〇・〇	九・七	九・六	一一・一	九・三	一三・七
同十四年	一〇・〇	—	一一・〇	一一・三	—	一一・三
同十五年	一〇・〇	八・九	九・二	一三・三	七・五	一〇・〇
昭和二年	一〇・〇	九・三	九・二	一三・二	八・三	一一・三
同三年	一〇・〇	九・〇	一〇・〇	一三・二	七・六	一一・一
同四年	一〇・〇	九・二	九・四	一五・〇	九・二	一五・三
同五年	一一・三	九・一	九・八	一五・七	九・〇	一五・〇
同六年	一一・四	一〇・一	一一・二	一七・六	一一・三	一七・六
同七年	一一・七	一〇・七	一一・七	一三・九	九・一	一二・八
同八年	一二・七	一一・二	一一・七	一四・六	九・一	一五・六
同九年	一三・三	一一・三	一一・六	二〇・一	一一・三	一五・二
同十年	一三・八	一一・二	一一・八	一九・九	一〇・六	一五・五
同十一年	一三・四	一二・七	一二・八	一七・四	一二・九	一四・九

（イ）春蠶飼育法の變遷

本縣の春蠶は明治初年頃は專ら天然育なりしが木村九藏一度び溫暖育を案出して以來汎く其の方法行はれ、其の後明治三十七、八年頃に至り當業者の覺醒と當局の奬勵とに依り次第に學說を基礎とせる折衷育行はるゝに至れり。然るに輓近諸物價の昂騰及勞力の拂底は斯業の經營に少なからざる困難を來し、且つ交雜種の普及と相俟つて飼育法の革新急を遡へたり。乃ち縣は此趨勢に鑑み剉桑全芽育及全芽條桑育を奬勵したりしに頗る機宜に適したる方法なるを以て急速に普及し、今や從來の飼育法は此方法又は之に類似の方法に一變し、壯蠶期に於ては屋外條桑育を行ふもの多數に達したりしが適々昭和十年末より擡頭したる繭質改善運動の徹底により屋外飼育は漸次減少の傾向を示すに至れり。

春蠶飼育法別養蠶戶數の變遷

年次	剉桑育 戶數	剉桑育 計ニ對スル割合	剉芽育 戶數	剉芽育 計ニ對スル割合	全芽育 戶數	全芽育 計ニ對スル割合	剉桑全芽育 戶數	剉桑全芽育 計ニ對スル割合	條桑育 戶數	條桑育 計ニ對スル割合	計 戶數	計 割合	實數
大正十三年	二〇、七〇二戶	二一・二%	一三、三九六戶	一三・七%	五、五三四戶	五・七%	二六、四四三戶	二七・一%	三一、四四六戶	三二・三%	九七、五三〇戶	一〇〇・〇%	九〇、一〇三戶
同十四年	一四、三五五	一四・六	一三、九二七	一四・一	五、〇二三	五・一	二三、七一五	二四・一	四一、四〇七	四二・一	九八、四二七	一〇〇・〇	九一、四一八
昭和元年	一一、三七二	一一・〇	七、八七八	七・六	五、八二二	五・六	二六、一二八	二五・二	五二、三三四	五〇・六	一〇三、五三三	一〇〇・〇	九一、二八一
同二年	九、一五六	八・八	九、三六三	九・〇	二、八三二	二・七	一三、九二七	一三・四	六九、八九六	六七・一	一〇四、一七三	一〇〇・〇	九二、八〇〇

同三年	六、一〇一	六・一	四、五八三	四・六	二、八九四	二・九	一〇、〇五七	一〇・〇	七六、八〇九	七六・四	一〇〇、四四四	一〇〇・〇	九三、六一八
同四年	三、一五〇	三・一	三、六二七	三・六	二、七九二	二・八	七、三九三	七・三	八三、七八〇	八三・二	一〇〇、七四二	一〇〇・〇	九四、一八四
同五年	二、四三四	二・四	三、五三五	三・六	一、四七一	一・五	六、〇五八	六・一	八五、五〇二	八六・四	九九、〇〇〇	一〇〇・〇	九三、九七三
同六年	一、三五九	一・三	一、九七六	二・〇	一、一四一	一・二	三、四二四	三・五	八九、〇九一	九二・〇	九六、八九一	一〇〇・〇	九四、一一〇
同七年	一、七〇三	一・八	一、四〇三	一・五	一、二四五	一・三	二、五八〇	二・八	八六、四六一	九二・六	九三、三九二	一〇〇・〇	九三、三九二
同八年	一、四二三	一・五	一、四一三	一・五	一、三三四	一・三	二、一六六	二・三	八七、九五六	九三・四	九四、一七一	一〇〇・〇	九四、一七一
同九年	一、六〇七	一・二	一、一三五	一・二	一、一三五	一・二	二、三六四	二・五	八八、三三一	九三・四	九四、五六二	一〇〇・〇	九四、五六二
同十年	一、〇三五	一・一	一、三〇一	一・三	八七六	〇・九	二、〇九二	二・二	九〇、三四八	九四・五	九五、五五二	一〇〇・〇	九三、五〇六
同十一年	三六三	〇・三	六八四	〇・七	四六五	〇・五	二、五二四	二・七	八九、三五〇	九五・八	九三、二八六	一〇〇・〇	九二、三五一

(ロ)夏秋蠶の沿革並飼育法の變遷

本縣夏蠶の起原は明かならざるも徳川時代よりその飼育行はれたるもの〻如く、明治初年頃より次第に普及を見るに至れり。

秋蠶は明治初年大里郡八基村の人尾高惇忠の熱心なる鼓吹により普及の端緒開かれて以來夏蠶に比し農閑利用上有利なるにより之を厭倒し今日の普及を見るに至れり。飼育法は從前は專ら普通育に據りしが近時春蠶に於けると同様の事情に依り各種の飼育方法行はれ、自然夏秋蠶に期ける稚蠶用葉の不足を告ぐるに至り、縣は之等の趨勢に鑑み夏秋期稚蠶專用桑園の特設を促がし、之に手術を施して稚蠶用全芽を得る方法を案出して秋蠶全芽育を奬勵し、桑葉の經濟を圖ることを奬勵せり

又一面飼育温濕度の適否は夏秋蠶作柄の豊凶に至大の關係あるに鑑み、從來の普通飼育法は漸次減少し温濕度の調節に便なる適濕育並之に類似の密閉育等の急速なる普及發達を見、夏秋蠶作柄等も著しく安定するに至れり。

(四) 繭處理

(沿革)

明治初年迄の繭取引は總て養蠶家の自宅に於て行はれたりしが、明治六年富岡製絲場の委託に依り本庄町にて繭買入をなす、是れ本庄繭取引市場の起原なり。當時は一般に桝取引なりしも其の方法上弊害尠なからざりしを以て、明治十九年に繭驗桝取締規則を發布せり。爾來取引數量の増加するに從ひ容量取引にては弊害あり且つ不便なりし爲め明治二十二、三年頃より漸次秤量取引行はる〻に至り、其の後全く桝取引の跡を絶ちたり。而して本庄町に於ける生繭取引高は一時全國中首位を占むるの盛況なりしも、交通の發達に伴ひ各地に製絲工場の建設を見、生繭取引場所も各地に設けらる〻に至り漸次その數量を減じたり。大正三年本庄町に於ては株式會社本庄繭市場を設け大規模の取扱場及乾繭機を備へて業務を開始し、寄居町に於ても之に倣ひ大正四年繭絲市場を設置するに至れり。又深谷町附近に於ては富國館、開國館の二大製絲場を中心とし、澁澤治太郎等の發起に依り、西武蠶業改良組合を設けて繭質の改良を圖ると共に大正五年より正量取引試みられ、又石川組製絲場を始め其の他の製絲工場に於ても正量取引に依り購繭せしもの尠からず。

而して政府は繭賣買取引制度に遺憾の點頗る多く殊に繭の賣買は主として生繭取引なるが故に、繭は其の收穫後短時日の間に賣買を行ふの餘義なき爲め繭の品質に相當する價格の決定を困難ならしめ、且つ繭質を損傷し特に繭價に著しき變動を生ずるものなるに依り、養蠶製絲の基礎を安固ならしむるには從來の生繭取引制度を改善し乾繭の取引に移らしむるに在りとし之が目的達成の爲め大正十四年度より共同繭倉庫並共同乾繭裝置の建設に對し助成するに至れり。本縣は既にそれに先達ち大正十年縣令を以て乾繭場設置奬勵規程を設け補助金を交付し居りしが、政府の施設と相俟ち比企、大里、入間、北埼玉、北葛飾の各郡に夫夫乾繭販賣利用組合の設立を見、更に昭和三年には南埼玉、兒玉の二郡に同樣の乾繭販賣利用組合の設立を見たり。而して縣は右組合の機能を發揮せしめ繭取引の改善を行ふ爲め、大正十五年以降各組合に縣技術官を夫々一人宛駐在せしめその指導奬勵の任に當らしめ以て今日に至れり。その取扱高は實に百二十八萬八千六百二十五貫（昭和十一年）の多きに達す。

而して一方生繭取引に就ては繭取引の公正と圓滑を期するため、昭和八年六月縣令を以て繭市場取締規則を制定し免許制度となし、尙同月生繭賣買竝に繭特約取引に關する取締規則を定め、殊に特約取引に就ては新に許可制度となし弊害の矯正に資し併せて之れが健實なる發達を期せんとせり更に昭和十一年十二月產繭處理統制法の施行により特約取引は認可制度となりしを以て之に基き適正なる引をなさしめつゝあり。

（現　況）

昭和十一年に於ける本縣繭處理の狀況を見るに產繭額約五百五十萬貫中上繭約四百八十五萬五千貫にして、其の二十七％餘が乾繭販賣、二％餘が組合製絲供繭、三十三％餘が特約取引、約十七％が市場仲買に屬し、其の他は自家製絲又は種繭供用その他に依るものなるも、乾繭及特約取引は漸次增加の傾向にあり。

今過去四ケ年に於ける縣下の繭處理狀況を表示すれば左の如し。

（イ）上繭處理狀況　（單位貫）

年次	春夏秋別	生繭販賣	乾繭販賣	組合製絲供繭又ハ持寄製絲	委託製絲	自家製絲	種繭供用	其ノ他	計
昭和八年	春蠶繭	一、七八二、一六八	六五五、〇四一	一八五、四一四	四六、五八六	三九、六一八	四九、六三六	—	二、七五八、四六三
	夏秋蠶繭	一、五六九、三八六	六二四、二八八	一三九、四六九	一、七五六	二五、〇三四	二二、四七七	四一、六三四	二、四一四、〇四四
	合計	三、三五一、五五四	一、二七九、三二九	三二四、八八三	四八、三四二	六四、六五二	七二、一一三	四一、六三四	五、一七二、五〇七
同九年	春蠶繭	一、六九三、一四三	九二五、四九一	二二一、四四七	二、四六六	三三、一九二	八一、九一〇	一、九二一	二、八五九、五七〇
	夏秋蠶繭	一、二三九、八三〇	六三六、九三三	四五、一〇三	—	一七、〇八六	三一、四八四	一、〇八五	一、九七一、五二一
	合計	二、九三二、九七三	一、五六二、四二四	二六六、五五〇	二、四六六	五〇、二七八	一一三、三九四	三、〇〇六	四、八三一、〇九一
同十年	春蠶繭	二、〇八一、八三八	五七三、九八九	八五、四三九	一、三〇〇	一七、八〇二	四一、〇四〇	二一一	二、八〇一、六一九
	夏秋蠶繭	一、三四九、三七二	四五一、七五三	三二、七八四	—	五、七〇〇	一四、九〇〇	一二〇	一、八五四、五二八
	合計	三、四三一、二一〇	一、〇二五、七四二	一一八、二二三	一、三〇〇	二三、五〇二	五五、九四〇	三三一	四、六五六、一四七

年次	種別								
同十一年	春蠶繭	一、八三三、〇九六	六六四、〇五六	七一、五六九	—	一七、五三二	四三、六四四	一二五	二、六二九、〇二一
	夏秋蠶繭	一、四九八、八四三	六六一、四四三	四二、三〇八	—	七、六四〇	一六、〇一一	二〇五	二、二二六、四五〇
	合計	三、三三一、九三九	一、三二五、四九九	一一三、八七七	—	二五、一六二	五八、六五五	三三〇	四、八五五、四六一

(ロ)生繭販賣狀況　(單位貫)

年次	春蠶夏秋蠶別	總量	個人、共同販賣別 個人	個人、共同販賣別 共同	販賣場所別 養蠶家ノ居宅	販賣場所別 製絲工場又ハ其ノ出張所	販賣場所別 繭問屋又ハ繭買者ノ店舖	販賣場所別 繭市場	販賣場所別 其ノ他	檢定取引其ノ他別 檢定取引 道府縣ノ檢定	檢定取引其ノ他別 檢定取引 其ノ他ノ檢定	檢定取引其ノ他別 檢定取引 計	檢定取引其ノ他別 其ノ他	特約取引其ノ他別 特約取引	特約取引其ノ他別 其ノ他
昭和八年	春蠶繭	一、七八二、一六八	五四八、一七五	一、二三三、九九三	二八四、〇三三	九一七、五一六	四三五、九〇五	四五、〇五八	九九、六五六	一六三、四〇一	一七三、九八二	三三七、三八三	一、四四四、七八五	七二三、八六六	一、〇五八、三〇二
	夏秋蠶繭	一、五六九、三八六	四七三、六六〇	一、〇九五、七二六	二三〇、三五〇	八三三、八九二	三九七、五四二	三九、一八五	六九、四一七	一四三、九四二	一二一、九五九	二六五、九〇一	一、三〇三、四八五	七一四、四四五	八五四、九四一
	合計	三、三五一、五五四	一、〇二一、八三五	二、三二九、七一九	五一四、三八三	一、七五〇、四〇八	八三三、四四七	八四、二四三	一六九、〇七三	三〇七、三四三	二九五、九四一	六〇三、二八四	二、七四八、二七〇	一、四三八、三一一	一、九一三、二四三
同九年	春蠶繭	一、六九三、一四三	四九二、〇五三	一、二〇一、〇九〇	二三八、九五八	九四〇、二二二	二九四、五三五	九三、一一〇	一二六、三一八	二一七、七八六	三七、八八五	二五五、六七一	一、四三七、四七二	七二〇、五八八	九七二、五五五
	夏秋蠶繭	一、二三九、八三一	三三七、七二六	九〇二、一〇五	一五三、七五九	六七五、六七一	二四四、四七六	七二、〇一三	九三、九〇三	九九、五三三	二二、三七六	一二一、九〇九	一、一一七、九二二	四四六、一五一	七九三、六八〇
	合計	二、九三二、九七四	八二九、七七九	二、一〇三、一九五	三九二、七一七	一、六一五、八九三	五三九、〇一一	一六五、一二三	二二〇、二二一	三一七、三一九	六〇、二六一	三七七、五八〇	二、五五五、三九四	一、一六六、七三九	一、七六六、二三五
同十年	春蠶繭	二、〇八一、八三八	六八〇、九九四	一、四〇〇、八四四	三六八、〇二三	一、三五二、三二九	三九六、九七三	六四、六一四	—	三、九〇〇	一三二、六七九	一三六、五七九	一、九四五、二五九	八五〇、七三六	一、二三一、一〇二
	夏秋蠶繭	一、三四九、二七三	四〇〇、六四二	九四八、六三二	二〇八、八八一	八五〇、六三三	二三四、二二八	五五、五四〇	—	二、六〇〇	八九、三三〇	九一、九三〇	一、二五七、三四二	五九一、七四五	七五七、五二七
	合計	三、四三一、一一〇	一、〇八一、六三五	二、三四九、四七五	五七六、九〇三	二、二〇三、八五二	六三一、二〇一	一二〇、一五四	—	六、五〇〇	二二二、〇〇九	二二八、五〇九	三、二〇二、六〇一	一、四四二、四八一	一、九八八、六二九
同十一年	春蠶繭	一、八三三、〇九六	四九六、九二七	一、三三六、一六九	一五九、六三五	一、二二四、三三五	四一四、七〇八	四四、四二八	—	二八、二六四	一〇三、〇〇〇	一三一、二六四	一、七〇一、八三二	八〇四、一一三	一、〇二八、九八三
	夏秋蠶繭	一、四九八、八四三	四二七、〇六八	一、〇七一、七七五	一四六、七三三	九九六、五二一	三一五、〇一六	四〇、五七三	—	一八、三〇九	一〇三、五〇〇	一二一、八〇九	一、三七七、〇三四	八〇二、〇九六	六九六、七四七
	合計	三、三三一、九三九	九二三、九九五	二、四〇七、九四四	三〇六、三六八	二、二二〇、八五六	七二九、七二四	八五、〇〇一	—	四六、五七三	二〇六、五〇〇	二五三、〇七三	三、〇七八、八六六	一、六〇六、二〇九	一、七二五、七三〇

(五)製　絲

（沿　革）

本縣の製絲業は安政年間海外輸出の途啓けてより漸次進境に向ひ、明治九年始めて器械製絲工場の設立以來一時勃興したるも、當時は資金の缺乏と不熟練の結果多くは經營意の如くならず期年ならずして一旦衰退せり。然れども明治二十年頃に至り再び少數の工場起り明治三十年頃に至りては

更に多數の工場設立せられ、爾來年と共に發達し一時器械製絲工場百十餘を算するに至りしが其の後多少減少せり。而して製絲業態の內容を看るに座繰製絲は漸減し、之に反し器械製絲は甚しく增加し全國中第五位を占むる狀況なり。

今年次別産額を示めせば左表の如し。

種別／年次別	器械製絲 所數	器械製絲 生絲産額	座繰製絲 所數	座繰製絲 生絲産額	生絲産額合計
明治十六年	？	一、〇〇五貫	―	三四、三七一貫	三五、三七六貫
同　二十年	一八	七、八七一	―	二八、五四七	三六、四一八
同　二十五年	一四	一四、七七七	―	三四、一九四	四八、九七一
同　三十年	二三	八、六六九	二一、三九三	五一、二二七	五九、八九六
同　三十五年	三七	二一、八七二	二一、一九八	六一、二三四	八三、一〇六
同　四十年	三九	八一、〇三八	二一、七五七	五七、八四一	一三八、八七九
大正元年	五一	一三三、七五九	二一、一二八	四八、〇〇九	一八一、七六八
同　五年	八〇	二一三、二〇六	一六、六一二	三一、二七〇	二四四、四七六
同　十年	九七	二六三、八八三	九、二八五	一四、三六六	二七八、二四九
昭和元年	九五	五五三、六五三	四、八七三	九、八一四	五六三、四六七
同　五年	一〇一	四八〇、四〇八	四、〇六九	二三、七二五	五〇四、一三三
同　九年	一一一	四八七、〇八〇	三、二二九	一五、〇〇九	五〇二、〇八九
同　十年	九七	五五六、九八三	二、九〇二	一二、一七六	五六九、一五八

（現　況）

（イ）營業製絲

明治九年高麗郡（今の入間郡）上廣瀨村清水宗德、下村泰作等の發起に依り同村に六十釜の暢業社と稱する器械製絲工場設立せられ、又北埼玉郡成田村に三田清三郎他數名の發起に依り埼玉製絲會社と稱する器械製絲工場設立せらる。是れ本縣に於ける器械製絲工場の嚆矢なり。而して之等は數年ならずして事業を中止し、其の後一張一弛時に盛衰ありしと雖も明治十年頃より漸次發展し、殊に最近に至りては急速の發展を爲せり。今最近の發達情勢を工場數及釜數に付き示せば左の如し。

項目	大正元年	同　四年	同　七年	同　十年	同十三年	昭和二年	同　五年	同　八年	同　十年	同十二年
工場數	五二	七五	九七	九七	九一	八九	一〇一	八七	八三	七七
釜數	一〇、一〇三	一三、九三一	一六、五〇六	一九、〇六六	一八、三三〇	一六、五三四	一六、七〇五	一五、八六六	一五、三六五	一三、五五二

（但し昭和十二年は一月蠶絲課調査）

（ロ）産業組合製絲

座繰製絲は明治初年の頃已に縣下一般に行はれ、明治十年頃より各地に生絲揚返所を設置し、明治十八年秩父郡兩神村に改仲社設立せられてより組合製絲は漸次其の數を增し、明治三十三、四年

頃より碓氷社、甘樂社の支部揚返所數十箇所の設置を見るに至り益々發達して、明治三十八年には兒玉郡本庄町に甘樂社の分工場を設置し、同社事業の一半を取扱ふこと丶なりたる爲め、本縣組合製絲も日に月に發展するに至れり。而して座繰製絲は其の品質雜駁なるのみならず需要者に於ても器械生絲を歡迎するに至り、且つ座繰製絲は生產費高價なるを以て漸次器械製絲に改むるの傾向を生じ、明治四十三年碓氷社藤澤組率先して器械製絲工場を建設して以來急速の勢を以て器械製絲工場の設置を見るに至り、組合組織の座繰製絲は今や全く其の跡を絕つに至れり。

今最近に於ける消長の情勢を左に示さん。(但し昭和十二年は一月蠶絲課調查)

項目	大正元年	同 四年	同 七年	同 十年	同十三年	昭和二年	同 五年	同 八年	同 十年	同十二年
工場數	一三	三一	三六	三九	四〇	四七	三九	三六	三四	二五
釜數	六八四	一、八一四	三、五二八	三、七一〇	三、二九六	二、六三五	二、六五六	二、五九八	二、四七四	一、七七八

而して組合製絲は群馬縣に事務所を有する碓氷、甘樂の兩社に所屬したるも二系統に所屬するは種々の弊害を生ずるのみならず他縣の聯合會に所屬するは不利不便尠なからざるを以つて、大正七年五月兩社より分離脫退して新に有限責任生絲販賣利用組合聯合會埼玉社を組織し其の事務所を大里郡熊谷町に設置するに至れり。而して聯合會埼玉社は昭和八年保證責任生絲販賣購買組合聯合會埼玉社と組織變更を爲し今日に至る。

（一）製絲工場數及釜數（昭和十年）

郡市別	器械製絲 戸數	器械製絲 釜數	座繰製絲 戸數	座繰製絲 釜數	玉絲製絲 戸數	玉絲製絲 釜數	計 戸數	計 釜數
北足立・浦和	一〇	二、一六二	—	—	—	—	一〇	二、一六二
入間・川越	一九	一、六六八	八九〇	九八〇	一六	一七	九二五	二、六六五
比企	一	七四	三四二	三六八	九	一六	三五二	四五八
秩父	一六	一、〇〇四	一、四三六	一、五二八	一五六	二一三	一、六〇八	二、七四五
兒玉	二〇	二、八九八	三六	五五	—	—	五六	二、九五三
大里・熊谷	二七	三、五五一	一八七	一九〇	四六八	四八二	六八二	四、二二三
北埼玉	二	七三六	二	二六	—	—	一三	七六二
南埼玉	—	—	—	—	—	—	—	—
北葛飾	二	九四	—	—	—	—	二	九四
計	九七	一二、一八七	二、九〇二	三、一四七	六四九	七二八	三、六四八	一六、〇六二

（二）蠶絲類及眞綿生産額（昭和十年）

郡市別	生絲 器械	生絲 座繰	生絲 計	玉絲	屑物	眞綿
北足立・浦和	一二、一五六貫	—	一二、一五六貫	—貫	六五、六八六貫	—貫
入間・川越	八四、四六一	三、七三六	八八、一九七	三一	二一、四五三	一三
比企	一、七九五	一、七一二	三、五〇七	四〇六	九九〇	四七
秩父	八、三七〇	五、一〇五	一三、四七五	四、五八〇	四、三八三	一
兒玉	一三三、五八〇	七九三	一三四、三七三	—	二七、五七一	一三
大里・熊谷	一八三、九九五	七六一	一八四、七五六	二、〇一八	三九、四四七	二〇七
北埼玉	二六、八六九	六九	二六、九三八	—	九、五〇七	—
南埼玉	—	—	—	—	—	三
北葛飾	六、七五六	—	六、七五六	—	一、九〇七	—
計	五五六、九八二	一二、一七六	五六九、一五八	七、〇三五	一七〇、九四四	三八三

（三）規模別製絲工場數及釜數（器械製絲）昭和十二年一月蠶絲課調査

種別＼郡市別	項目	北足立（浦和）	入間（川越）	比企	秩父	兒玉	大里（熊谷）	北埼玉	南埼玉	北葛飾	計
一〇釜未滿	工場數	—	三	—	—	一	一	—	—	一	六
	釜數	—	二〇	—	—	九	九	—	—	九	四七
一〇釜以上五〇釜未滿	〃	二	五	—	二	六	八	—	—	—	二三
	〃	三六	八四	—	八〇	一三二	二三三	—	—	—	五八五
五〇〃一〇〇〃	〃	—	三	一	一三	六	八	—	—	一	三二
	〃	—	二一五	七四	七八三	四四九	五一〇	—	—	九二	二、一二三
一〇〇〃一五〇〃	〃	一	三	—	三	五	三	一	—	—	一六
	〃	一〇〇	三七三	—	三三六	五六九	三四四	一三六	—	—	一、八五八
一五〇〃二〇〇〃	〃	一	一	—	—	一	一	—	—	—	四
	〃	一七二	一五〇	—	—	一八二	一八六	—	—	—	六九〇
二〇〇〃三〇〇〃	〃	二	—	—	—	—	二	—	—	—	四
	〃	四三〇	—	—	—	—	四四二	—	—	—	八七二
三〇〇〃四〇〇〃	〃	一	一	—	—	二	—	—	—	—	四
	〃	三五〇	三三〇	—	—	七〇〇	—	—	—	—	一、三八〇
四〇〇〃五〇〇〃	〃	一	一	—	—	二	一	—	—	—	五
	〃	四八〇	四〇〇	—	—	九四四	三四二	—	—	—	二、二五六

種別	北足立（浦和）	入間（川越）	比企	秩父	兒玉	大里（熊谷）	北埼玉	南埼玉	北葛飾	計
五〇〇 六〇〇 工場數	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一
〃 釜數	—	—	—	—	五四四	—	—	—	—	五四四
六〇〇 七〇〇 工場數	—	一	—	—	一	一	一	—	—	四
〃 釜數	—	六四二	—	—	六五〇	六六八	六一五	—	—	二、五七五
七〇〇 八〇〇 工場數	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
〃 釜數	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八〇〇 九〇〇 工場數	一	—	—	—	—	二	—	—	—	三
〃 釜數	八〇〇	—	—	—	—	一、六〇〇	—	—	—	二、四〇〇
合計 工場數	九	一八	一	一八	二五	二七	二	—	二	一〇二
〃 釜數	二、三八八	二、二一四	七四	一、一九九	四、一七九	四、四二四	七五一	—	一〇一	一五、三三〇

（四）組織別工場數及釜數（器械製絲）昭和十二年一月蠶絲課調査

種別 項目	郡市別	北足立（浦和）	入間（川越）	比企	秩父	兒玉	大里（熊谷）	北埼玉	南埼玉	北葛飾	計
個人	工場數	三	一四	一	一	一〇	一三	—	—	一	四三
	釜數	二六八	七七四	七四	三四	一、四五二	八〇〇	—	—	九一	三、四一一
株式	〃	二	三	—	—	三	六	一	—	—	一五
	〃	九七二	一、三七二	—	—	一、四八八	二、七三六	六一五	—	—	七、一八三
合資	〃	一	一	—	—	六	五	一	—	—	一四
	〃	二一八	六八	—	—	六一八	七一四	一三六	—	—	一、七五四
合名	〃	三	—	—	—	—	—	—	—	一	四
	〃	九三〇	—	—	—	—	—	—	—	九二	一、〇二二
共同	〃	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一
	〃	—	—	—	—	一八二	—	—	—	—	一八二
產業組合	〃	—	—	—	一七	五	三	—	—	—	二五
	〃	—	—	—	一、一六五	四三九	一七四	—	—	—	一、七七八
合計	〃	九	一八	一	一八	二五	二七	二	—	二	一〇二
	〃	二、三八八	二、二一四	七四	一、一九九	四、一七九	四、四二四	七五一	—	一〇一	一五、三三〇

（五）製絲狀況概要（器械製絲）蠶絲課調査

年次	種別	使用釜數	作業日數	消費原料（乾量）春	夏秋	計
昭和八年	營業製絲	一一、九三二	平均 二八五日	七八〇、五八五貫	七六一、八一五貫	一、五四二、四〇〇貫
	組合製絲	一、五〇二	一八五	三八、一三二	三〇、二九七	六八、四二九
同 九年	營業製絲	一一、三三〇	二九一	九五一、七九一	六七五、三四九	一、六二七、一四〇
	組合製絲	一、一八四	一五六	四九、三一五	一三、四九〇	六二、八〇五
同 十年	營業製絲	一一、二九七	二六八	九一九、〇七九	三二〇、九四六	一、五三七、二〇六
	組合製絲	八三六	一二二	二三、七三三	八、九二二	三二、六五五

項目						
製造生絲 春	二六三、六五三貫	一二、三七〇	三一八、九七六	一六、二〇一	三二一、五二八	八、二八九
製造生絲 夏秋	二四一、五二七貫	九、七三九	二〇九、五二八	四、一九九	一九八、四八一	二、八二〇
製造生絲 計	五〇五、一八〇貫	二二、一〇九	五二八、五〇四	二〇、四〇〇	五二〇、〇〇九	一一、一〇九
一日一釜當繰絲量	平均 一四七匁	七八	一五三	九八	一五四	九八
輸出生絲數量	三五六、〇二四貫	一八、四七四	四二〇、一九六	一八、一七五	四一九、五八二	八、〇二三
地遣生絲數量	六二、五六〇貫	二、二四四	七二、九四七	一、七一〇	六八、六八三	二、六三六
繊度別製造生絲 十四中	三〇七、五三七貫	一七、五二八	二四八、二二九	一二、五八六	二三六、〇四九	八、〇五三
繊度別製造生絲 廿一中	一九一、五一二貫	四、五八一	二七六、一五三	七、七四九	二八九、四七四	三、〇五六
繊度別製造生絲 其の他	六、一三一	—	四、一二三	六五	四、四八六	—

（六）生絲百斤當生產費　蠶絲課調査

項目＼年次・種別	昭和八年 營業製絲	昭和八年 組合製絲	同九年 營業製絲	同九年 組合製絲	同十年 營業製絲	同十年 組合製絲
職員俸給手當賞與	円 八・八二	円 一六・七二	円 九・一六	円 一三・八九	円 九・七六	円 一七・二三
職工賃銀手當賞與	五〇・七七	七六・九二	四九・四六	七二・一八	五一・二〇	七五・四七
燃料費	一七・八一	三六・九一	一九・一五	三三・八六	一八・三五	三三・六一
電力電燈費	三・六六	二・六一	三・四三	二・六一	三・七〇	三・四三
賄材料費	一五・七七	二・一四	一六・七五	二・七〇	一七・九三	一・八八
募集委託費	〇・八八	〇・五〇	〇・九三	—	〇・六七	—
倉敷料	一・二五	—	一・二八	—	一・二九	—
通信運搬費	四・九七	三・五五	四・九五	三・六九	五・〇八	三・三三
旅費	二・二七	一・七三	二・三三	一・六三	二・七四	二・〇二
諸稅諸掛	二・二九	二・〇〇	一・四六	二・〇三	一・六九	三・五一
利子	三三・二五	一七・三三	一八・〇六	九・三三	二一・四六	二三・二五
消耗品費	二・一一	三・三五	一・九五	二・七三	二・二三	二・八五
借地料	〇・六九	〇・九九	〇・六六	〇・七五	〇・五八	一・〇〇
從業員福利施設費	三・〇六	一・八四	三・二三	一・九三	三・七七	三・二九
修繕費	四・四九	六・八一	五・六七	六・四五	六・四五	五・九九
雜費	二六・九〇	二一・三八	二八・六八	二三・〇〇	三三・二八	二〇・五六
合計	一六八・九九	一九四・三一	一六七・一四	一七五・七八	一八〇・九九	一八五・四一

三、本邦蠶絲業上に於ける埼玉縣の地位（昭和十一年）

項目	全國合計	本縣	全國ヲ一〇〇トセル本縣ノ指數	順位	備考
耕地面積	六、〇五八、七五三・〇町	一六二、九二九・二	二・七	八	昭和十年
桑園面積	五六六、〇五七・八町	三二、九〇四・〇	五・八	三	

四、蠶絲業の施設

農家戸數	五、六一〇、六〇七戸	一六九、五三四	三・〇	九	昭和十年
養蠶戸數	一、八五六、六六四戸	九六、〇二八	五・二	二	
農家戸數ニ對スル養蠶戸數割合	三三・八%	五七・六	一七〇・四	一	昭和十年
掃立數量	一四五、六三七、八六〇瓦	一一、〇七七、五四三	七・六	一	
繭産額	八二、九〇一、九九六貫	五、四九九、〇五二	六・六	三	
養蠶家一戸當桑園反別	三・〇五反	三・四三	一一二・四	一	
桑園一反歩當收繭額	一四・六四六貫	一六・七一二	一一四・三	一	
養蠶家一戸當收繭額	四四・六三七貫	五七・二六五	一三七・〇	七	
器械製絲工場	二、七三八	九七	三・五	七	昭和十年
同　釜數	二三五、四八八釜	一三・一八七	五・三	五	同
同　生絲産額	一〇、八九〇、三八七貫	五五六、九八二	五・一	五	同
蠶種製造者數	四、三四二人	二六五	六・一	四	同
普通蠶種製造額	二四七・九〇六、一六八瓦	三、〇〇〇、二九六	五・二	五	同

(一) 蠶絲課

縣下蠶絲業の統轄的事務は從來農務課內蠶絲係に於て施行せられたりしが、斯業の進歩發展に伴ひ昭和三年七月農務課より分立して蠶絲課設置せられ、蠶絲業に關する一切の事務統轄並に蠶絲業奬勵事務及蠶絲業各種團體の統制を圖り、縣下蠶絲行政の中樞として現在地方技師一名、地方農林技師六名、屬二名、技手一名、農林技手七名、農林主事補二名を設置す。

(二) 蠶業取締所

明治四十四年蠶絲業法發布せられたるに依り縣は同年十二月同施行手續を定め、翌年一月より之が實施せらるゝに當り、同時に縣廳內に蠶業取締所を、縣下七箇所に支所を設置し一般取締事務を開始せり。其の後蠶種製造業の發達に伴ひ、製造額年と共に增加し來れるを以て、大正九年より出張所九箇所を設置せり。而して大正十三年三月蠶業取締所本所を熊谷町蠶業試驗場內に移し、蠶絲業法の命ずる各種蠶病の豫防、蠶種檢查及桑苗生產の取締及檢查に關する事務を處理するの外、養蠶技術員の免許規則及蠶種、繭賣買業者取締規則の施行に當り之が取締をなし、更に大正十五年郡役所廢止せられて以來奬勵事務も兼ね、蠶業試驗場と共に蠶絲業改良發達に努めつゝありしが、漸次蠶絲業奬勵事務多忙となるに從ひ、且又蠶絲課の分立と共に相互の連絡の必要上、昭和五年再び事務所を縣廳蠶絲課內に移し、職員は之を兼務せしめ一般取締事務並奬勵事務を掌ることゝなり現在に及べり。

而して現在本所の外支所八箇所を常置し、出張所十箇所を臨時開設す。今是等の名稱、位置、管轄區域を記せば次の如し。

名稱	位置	管轄區域	備考
埼玉縣蠶業取締所	浦和市縣廳內	埼玉縣一圓	
同　浦和支所	浦和市	北足立郡、浦和市一圓	
同　川越支所	川越市	入間郡川越市一圓	
同　川越支所飯能出張所	入間郡飯能町	同郡三ケ島村外十八ケ町村	臨時開設
同　川越支所坂戸出張所	入間郡坂戸町	入間郡三芳野村外十一ケ町村	臨時開設
同　松山支所	比企郡松山町	比企郡一圓	
同　松山支所小川出張所	同郡小川町	同郡菅谷村外八ケ町村	同
同　秩父支所	秩父郡秩父町	秩父郡一圓	
同　秩父支所小鹿野出張所	同郡小鹿野町	同郡吉田町外七ケ町村	同
同　秩父支所野上出張所	同郡野上村	同郡野上村外十ケ町村	同
同　秩父支所大瀧出張所	同郡大瀧村	同郡大瀧村、白河村	同
同　本庄支所	兒玉郡本庄町	兒玉郡一圓同	
同　本庄支所兒玉出張所	同郡兒玉町	同郡東兒玉村外七ケ町村	同
同　本庄支所青柳出張所	同郡青柳村	同郡青柳村外二ケ村	同
同　熊谷支所	熊谷市	大里郡、熊谷市一圓	
同　熊谷支所中瀬出張所	大里郡中瀬村	同郡明戸村外十ケ町村	同
同　加須支所	北埼玉郡加須町	北埼玉郡一圓	
同　加須支所羽生出張所	同郡羽生町	同郡南河原村外十六ケ町村	同
同　久喜支所	南埼玉郡久喜町	南埼玉郡一圓及北葛飾郡一圓	

現在蠶業取締所に農林技師四名、農林技手三十六名、農林主事補七名、蠶業取締吏員延千三百三十三名、蠶種檢査吏員延一萬二千九百十二名を採用し取締事務の遺憾なきを期せり。職員所屬狀況を示せば次の如し。

所名	技師又ハ農林技師	技手又ハ農林技手	書記又ハ農林主事補
本所	—	二	一
浦和支所	—	三	一
川越支所	一	五	一
松山支所	—	五	一
秩父支所	一	四	—
本庄支所	—	五	一
熊谷支所	—	四	一
加須支所	一	三	一
久喜支所	一	五	—
計	四	三六	七

（三）蠶業試驗場

大正二年迄は農事試驗場に於て蠶業に關する調査を行ひ來りしも、蠶絲業の發達と共に時代の趨勢は原蠶種製造所の設置を促し、熊谷町に之が設立を見、翌大正三年より原蠶種の製造配付に着手し、大正四年よりは一代雜種の原蠶種配付をなすに至れり。

爾來連年其の規模を擴張すると共に大正六年よりは夏秋蠶種の配付をも開始し、大正七年度に於ては原蠶種の製造配付、試驗調査、其の他蠶絲業奬勵に關する諮問又は協議を遂ぐる爲め、原蠶種製造所協議員會を組織せり。

大正八年よりは製絲に關する試驗調査を爲す目的を以て製絲部を設置し、大正十一年以來規程により繭檢定並鑑定をも行ひつゝあり。而して大正十一年十二月縣告示を以て埼玉縣蠶業試驗場と改稱し、大正十二年四月秩父町に秩父支場を設置し一層配付蠶種の普及を圖り、更に昭和五年四月川越市に川越支場を設立し、主として蠶病及桑に關する試驗調査を爲す事となれり。

而して蠶業試驗場の現在に於ける職員數及設備概要を示せば左の如し。

（イ）職員數　（昭和十二年度）

本場又ハ支場	技師又ハ農林技師	農林技手	書記又ハ農林主事補
本場	三	八	二
秩父支場	—	三	一
川越支場	二	二	一
計	五	一三	四

（ロ）設備　（昭和十一年度）

項目	本場	秩父支場	川越支場	計
一、敷地	四、五八四坪八合二勺	二、三三六坪九合七勺	四、五〇〇坪	一一、四二一坪七合九勺
二、桑園	五町九畝二六歩	三町二反二六歩	一町歩	八町三反二二歩
三、桑園改良指導園	二町七反四畝二三歩	—	—	二町七反四畝二三歩
四、建物	一、三二一、六七七坪	四八〇、三九〇坪	五六一、三三八坪	二、三六三、四〇五坪

尙蠶業試驗場に於て施行しつゝある事業の主なるものを示せば左の如し。

（イ）原蠶種の製造配付

大正三年以來の原蠶種配布數量及昭和十一年度配布品種の組合せを示せば、

年度別	春蠶種（蛾）	夏秋蠶種（蛾）	計
大正三年	八、六五二	—	八、六五二
同六年	三〇、二五二	二、五三八	三二、七九〇
同九年	四七、九二〇	四二、二一〇	九〇、一三〇

同十二年	五五、一一〇	六五、五四一	一二〇、六五一
昭和元年	八〇、一三一	七五、四四五	一五五、五七六
同二年	七六、七二六	七七、六九〇	一五四、四一六
同三年	七六、九八九	七三、六四三	一五〇、六三二
同四年	七三、七七九	八二、四三四	一五六、二一三
同五年	六三、二八一	九二、六一四	一五五、八九五
同六年	六九、九二一	八七、六〇六	一五七、五二七
同七年	八九、〇七〇	七三、五〇〇	一六二、五七〇
同八年	一〇九、九二二	五八、三三一	一六八、二五三
同九年	一四九、一三三	一〇九、〇〇七	二五八、一四〇
同十年	一五一、七九〇	一一七、三〇五	二六九、〇九五
同十一年	一四八、八八〇	一二九、六八〇	二七八、五六〇

春蠶 {國蠶支一〇六號 國蠶歐十八號} {國蠶支十七號 國蠶日八號} {國蠶支十七號 國蠶歐十九號} {國蠶支十七號 國蠶支一〇六號} {國蠶支十六號 國蠶歐十六號}

夏秋蠶 {國蠶日一一一號 國蠶支一〇七號}

(ロ)蠶桑に關する試驗調査

(ハ)蠶絲業に關する講習、講話、實地指導及質疑應答
(ニ)桑園改良指導圃の施設並栽桑講習生の養成
(ホ)依賴鑑定分析
(ヘ)蠶業練習生の養成

(四) 繭檢定所

從來製絲に關する試驗調査及び繭檢定並鑑定は蠶業試驗場製絲部に於て行ひ來りしも僅かに三十釜の設備にては狹隘を告げ、尙産繭處理統制法の施行に伴ひ之が設備改善の要あり、即ち之を機として繭檢定所を獨立し、熊谷市に百釜の規模を以て昭和十一年度に建設を了し、同十二年度より事業開始の運に至れり。

而して繭檢定所の現在に於ける業務並職員數及設備概要を示せば次の如し。

(イ)業　務
(1)繭の檢定及鑑定
(2)製絲試驗
(3)受託製絲
(4)繭檢定並鑑定及製絲に關する講習、講話並質疑應答
(ロ)職員數農林技師一人、農林技手六人、農林主事補二人

(ハ)設　備　概　要

敷地　三千百三十四坪　建物　九百八十坪　釜數　百釜

(五)　蠶　業　敎　育

(イ)縣立農蠶學校

蠶絲業に關する唯一の縣立專門敎育機關として大正九年度始めて川越市に設置せられ、校名を縣立蠶業學校と稱せしも、昭和九年四月内容に於て農學校に於ける科目を織込み校名を現在の名稱に改め農蠶に關する敎育を行ひつゝあり。

(ロ)縣立熊谷農學校

明治三十五年設立せられたるものにして、特に蠶絲業に關する一科目を設け斯業に關する敎育を行ひつゝあり。

(ハ)縣立秩父農林學校

明治二十九年設置せられたる郡立農業學校を大正八年秩父郡立農林學校と改稱し、更に大正十一年縣に移管し現在の名稱に改めたるものにして、養蠶は秩父郡地方生産業中最も重要なるものなるを以て特に蠶絲業に重きを置き敎育しつゝあり。

(ニ)縣立杉戸農業學校

大正十年設置せられたる郡立杉戸農學校を大正十二年縣に移管せられたるものにして特に蠶業に

關する一科目を設け敎育しつゝあり。

(ホ)競進社實業學校

兒玉郡兒玉町にあり、明治十年木村九藏養蠶改良競進組を組織せるに始まり。明治十七年競進社と改め、明治二十九年蠶業講究所を設け、明治三十三年競進社蠶業學校と改稱し、更に大正十四年四月に至り、商科を加へて競進社實業學校と改正し、本邦私立蠶業敎育機關の權威として許さる。

(ヘ)飯能實業學校

入間郡飯能町に在り、須田甚作の經營に係はる。明治三十六年蠶業傳習所を開きたるに始まり、大正七年組織を改め壽田館蠶業學校と稱して大正十三年更に商科を加へて現在の名稱に改めたり。

(ト)蠶　業　試　驗　場

蠶業試驗場に於て大正四年以來蠶業練習生を養成し蠶業に關する技術を修得せしめつゝあり。

(六)　奬　勵　施　設

一、桑園の改良

縣下約三萬三千町歩の桑園改良の任に當らしむる爲め縣に農林技師一名、農林技手一名を設置し蠶業試驗場に農林技師一名、農林技手三名を置き栽桑に關する指導奬勵に當らしめ、尙秩父、川越兩支場に各栽桑專任技手を常置す。

(イ)桑園改良指導圃設置

蠶業試驗場、同秩父支場及縣下六箇所に桑園改良指導圃二町七反四畝二十三歩を設置し、蠶業試驗場に於ける試驗研究成績の實際的普及を圖ると共に各指導圃に於ける生産桑苗の配付を爲し桑園改良の促進を圖りつゝあり。而して之がため蠶業試驗場に專任技術職員一名を設置し、且つ蠶業取締所各支所技術職員一名をして指導圃主任を兼掌せしむ。

（ロ）栽桑講習生の養成

桑園改良指導圃に於て將來養蠶實行組合又は農會に於ける栽桑指導者たるべき者を養成し、桑に關する學理及技術を實際的に修得せしむ。

講習期間は四月より翌年三月に至る一ヶ年なり。

（ハ）荒廢桑園整理改植並混作奬勵

昭和七年度以來荒廢桑園整理改植補助規程を公布し、政府の奬勵助成金を以て繼續施行なし更に昭和九年度以來桑園の彈力性維持を圖り、併せて多角形的利用の實を擧げしむるため政府の奬勵方針に依り桑園混作を奬勵しつゝあり。

（ニ）稚蠶共同桑園設置奬勵

春蠶期に於ける凍害豫防並夏秋蠶期に於ける全芽育成奬勵の目的を以て、昭和六年縣令を以て補助規程を公布し、稚蠶共同桑園の設置を奬勵し蠶作の安定及桑葉の經濟を圖り、併せて養蠶實行組合共同經營の助長に努めつゝありしが、昭和十一年七月繭生産費低減施設補助規則を公布し、從來の補助奬勵事業を繼續することとし右規程は之を廢せり。

（ホ）桑　苗　檢　査

桑苗取引改善の爲め、昭和八年三月縣令を以て桑苗檢査規則を公布し、蠶業取締所職員並臨時檢査員をして蠶絲業法所定の桑苗生産取締と相俟つて桑苗實質の向上に努めつゝあり。

二、養蠶の改良

蠶絲業奬勵の任に當らしむる爲め、縣に技術職員として農林技師一名、農林技手二名事務職員農林主事補二名を設置す。

（イ）養蠶實行組合の表彰

養蠶實行組合にして優秀なる成績を收め、他の模範となすに足るものに對し奬勵金を交付し之を表彰す。

（ロ）蠶實行組合指導員設置補助

昭和九年五月縣令を以て指導員設置補助規程を公布し、養蠶業組合に養蠶實行組合指導員を設置し一年を通じて技術員の設置をなしたるものに對し、その五割以内の補助金を交付して以て縣の指導奬勵方針を直に具體化すると共に、養蠶業の經營改善の實現を期せんとし現在百三十八名設置し居れり。

（ハ）繭質改善指導組合補助

昭和十一年より縣は繭生産費低減施設補助規則を制定し、養蠶實行組合が縣の指定したる繭質改善施設を行ふ場合之に補助金を交付し其の事業の促進を圖りつゝあり。

（ニ）縣養蠶業組合聯合會補助

縣養蠶業組合聯合會に對し組合事業奬勵の爲め補助金を交付す。

（ホ）蠶絲業技術員指導補助

縣下養蠶技術員を以て組織する技術協會に補助金を交付し、技術員の知識の啓發、技術の向上練磨を期すべき施設を實行せしめ蠶業の進展を圖りつゝあり。

（ヘ）依賴鑑定分析

昭和十年度より蠶業試驗場に於て、土壤（酸度）、フォルマリン（蟻酸アルデヒード）、クロール石灰（有効鹽素）、水（硬度、定性分析）に付き當業者の依賴に應じ、各括弧内事項に付鑑定、分析をなしつゝあり。

（ト）蠁蛆豫防驅除施設奬勵

近年蠁蛆の被害增加の傾向にあるを以て、縣は昭和九年以來蠁蛆豫防驅除督勵委員を囑託し蠁蛆豫防驅除督勵の任に當らしめ、現在その員數二千七百を算す。而して養蠶業組合に於て蠁蛆豫防驅除施設をなしたる場合之に對しその費用の全額補助をなし徹底的驅除を圖りつゝあり。

三、繭取引の改良

產繭處理指導の任に當らしむる爲專任職員として縣に農林技師一名を設置す。

（イ）乾繭取引の奬勵

大正十三年以來縣下七箇所に產業組合法に依る乾繭組合設立され、縣は乾繭取引奬勵の任に當らしむる爲め左記乾繭販賣組合に縣技術員を配置す。

入間郡	乾繭販賣利用組合	比企郡	繭販賣利用組合
兒玉郡	乾繭販賣利用組合	大里郡	乾繭販賣購買利用組合
北埼玉郡	乾繭販賣購買利用組合	南埼玉郡	乾繭販賣購買利用組合
北葛飾郡	繭販賣利用組合		

（ロ）產繭處理指導職員設置補助

昭和十一年七月縣令を以て產繭處理改善指導職員設置補助規程を公布し、養蠶業組合聯合會及郡市養蠶業組合にして之が施設をなしたるものに對し補助金を交付し產繭の自主的取引の確保と其の統制の完璧を期すると共に特約取引の公正圓滑その他產繭處理改善指導に當らしめつゝあり。

現在縣養蠶業組合聯合會及各郡市養蠶業組合に各々一名設置す。

（ハ）繭の鑑定

檢定に提出せる產繭に對し切歩鑑定を爲し各自代金分配の標準に資すると共に、併せて優良繭生產の奬勵を爲しつゝあり。

（ニ）繭の檢定

繭の公正取引を期する爲め、本縣に在りては大正十一年以降繭の檢定を實施せるが、昭和七年度より縣告示を以て繭檢定規程を定め、農林省の示せる標準に基き檢定を行ひ檢定取引の徹底を圖りつゝあり。

四、製絲の改良

製絲業の改良を圖るため縣に農林技師一名、農林技手一名を常置し、製絲に關する指導奬勵をなさしむ。

（イ）蠶絲業技術員養成補助

生絲販賣購買組合聯合會埼玉社に對し製絲技術員養成奬勵のため補助金を交付す。

五、其の他

（イ）蠶業奬勵

優良蠶絲團體を表彰し又品評會、共進會等に於て褒狀を授與し蠶絲業の振興を圖りつゝあり。

經費豫算　昭和十二年度

區分	項目		金額
桑園の改良	技術員費		二、九六四圓
	指導桑園費		二、二八八圓
	桑園補助費	稚蠶共同桑園設置奬勵費	七六〇圓
		桑園整理改植及混作助成費	―圓
		其の他	―圓
		小計	七六〇圓
	其の他		二、七六五圓
	計		八、七七七圓
蠶種の改良	蠶種改良助成費	蠶種業組合	―圓
		其の他	―圓
		小計	―圓
	其の他		―圓
	計		―圓
養蠶の改良	技術員費		三、一五〇圓
	技術員補助費		三六、五七六圓
	養蠶團體補助費		三七〇圓
	繭質改善施設費補助		一〇、〇〇〇圓
	稚蠶共同飼育所設置奬勵費		―圓
	其の他		一八、一九一圓
	計		六八、二八七圓
繭取引の改良	乾繭取引奬勵費		七、八七七圓
	産繭處理指導職員費		二、二六七圓
	産繭處理改善施設費補助		七、〇八〇圓
	其の他		五〇〇圓
	計		一七、七二四圓
製絲の改良	技術員費		二、六五三圓
	生絲共同設施組合補助費		―圓
	産業組合製絲組合補助費		三〇〇圓
	其の他		―圓
	計		二、九五三圓
蠶業取締所費			九二、四六二圓
蠶業試驗場費			七四、六三五圓
繭檢定所費			五〇、二〇九圓
生絲檢查所費			―圓
蠶絲業教育費			二五、一五〇圓
其の他			三三〇圓
總計			三四〇、五二七圓

蠶業取締所　昭和十二年

區分	項目		數
支所數			八
出張所數			一〇
所員數	技師		四人
	技手		三六人
	主事補		七人
	取締吏員（延數）		一、三三三人
	檢查吏員（延數）		二、九二二人
	雇		一八人
	業手		延二四、一〇〇人
俸給々料平均	技師年俸		一、四三〇圓
	技手月俸		六二圓
	主事補月俸		五四圓
	取締吏員日給		一、四〇錢
	檢查吏員日給		七〇錢
	雇		月二七圓
	業手日給		四六錢
母蛾檢查功程	原蠶種		二九〇蛾
	歩合檢查		八六二蛾
	再檢查		九六四蛾
檢查吏員一人に對する業手數			一・八人
再檢查豫定蛾數			二〇〇萬蛾
再檢查手數料（一枚當）	平付（厘）		四〇
	散卵（厘）		四〇
蠶種の製造者其の他數	蠶種製造者		三二六人
	生繭取扱業者		四、三五〇人
	蠶種行商者		二五六人
	桑苗製産者		一、〇九五人
蠶種製造豫定蛾數	原蠶種		一〇〇萬蛾
	普通蠶種		四、〇〇〇萬蛾
檢查吏員養成豫定數			五〇人

蠶業試驗場　昭和十二年

項目		數
本場數		一
支場數		二
分場數		一
職員數	技師	五人
	技手	二三人
	主事補	四人
俸給平均額	技師年俸	一、六九八圓
	技手月俸	六三圓
	主事補月俸	五四圓
原蠶種配付豫定蛾數	春蠶	一三〇、〇〇〇蛾
	夏秋蠶	一三〇、〇〇〇蛾
	計	二六〇、〇〇〇蛾
管內蠶種製造者の掃立原蠶種に對する原蠶種配付數量の割合		三五%
配付原蠶種の價格(一蛾當)		四錢 四錢
講習生養成豫定數	男	練習生 三九人 栽桑講習生 二、〇〇〇人
	女	—

繭檢定所　昭和十二年

項目		數
場數		一
釜數		一〇〇
職員數	技師	一
	技手	六
	主事補	二
	雇	二
	業手	延 七三〇
俸給平均額	技師年俸	一、八二〇圓
	技手月俸	六〇圓
	主事補月俸	五〇圓
	雇月俸	三〇圓
	業手日給	五二錢
檢定口數		九、〇六〇
鑑定口數		三六、五〇〇
依託製絲		二九、七三三貫

五、蠶絲業團體

(一) 埼玉縣養蠶業組合聯合會

大正十年三月埼玉縣養蠶組合聯合會として設立され、昭和六年蠶絲業組合法の制定せらるゝや同年十二月埼玉縣養蠶業組合聯合會に組織を改め、系統團體と聯絡し共の共同の目的たる蠶絲業改善發達上各種の施設をなす。事務所を埼玉縣蠶業試驗場內に置く。會員たる郡市養蠶業組合は九にして養蠶實行組合數は現在三千百餘組合なり。今設立以來の本會並に郡市養蠶業組合の經費豫算及養蠶實行組合數を示せば左の如し。

埼玉縣養蠶業組合聯合會經費豫算

	經費豫算
昭和六年	四二八円
昭和七年	二、一三一円 特 一、五〇三、八八
昭和八年	二、九二三円 特 一、四〇一
昭和九年	三、二七三円 特 一、五八三 特(品評會)二〇、六七五
昭和十年	三、三五〇円 特 一、五八一
昭和十一年	五、九一九円 特 一、六〇〇
昭和十二年	六、九三六円 —

各郡市養蠶業組合經費豫算並養蠶實行組合數

		昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
北足立郡・浦和市・川口市	經費豫算	七八四・六〇円	一、四六一・〇〇円	六、四八七・〇〇円	八、二七七・〇〇円	七、六四七・〇〇円
	組合員數	一五九	二三三	二五六	二六一	二九四
入間郡・川越市	同	六六八・〇〇	二、九三〇・〇〇	一六、二八八・〇〇	一三、九五四・〇〇	二〇、三三三・〇〇
	同	二七八	四〇七	四五九	四六〇	五四六
比企郡	同	七五〇・〇〇	二、五〇〇・〇〇	一三、五四二・〇四	一七、〇九六・〇〇	一六、九七九・〇〇
	同	三五五	三〇二	三三〇	三三四	三七〇
秩父郡	同	一、三五八・一七	二、七七四・〇〇	一三、六九〇・〇〇	一八、三〇二・〇〇	一五、〇三六・〇〇
	同	三七一	三〇五	三〇六	三〇七	三一七
兒玉郡	同	九四〇・八〇	四、一七七・〇〇	七、八六〇・〇〇	八、五八四・〇〇	八、四二七・〇〇
	同	一三四	一四三	一四七	一四七	一五三
大里郡・熊谷市	同	二、五九五・〇〇	二、五八五・〇〇	二七、六〇五・〇〇	三八、九七〇・〇〇	三八、二六七・〇〇
	同	四三七	四六五	四八三	四八二	五三九
北埼玉郡	同	一、一二九・〇〇	二、一三三・〇〇	一三、一九六・〇〇	一三、一九六・〇〇	一九、〇三三・〇〇
	同	三五八	四三三	四一五	四四三	五〇〇
南埼玉郡	同	五四八・〇〇	一、三一五・〇〇	八、六〇八・〇〇	九、三三八・〇〇	八、〇九九・〇〇
	同	一三五	二〇三	二一一	二一二	二二〇
北葛飾郡	同	五一〇・〇〇	一、一六四・〇〇	四、八六一・〇〇	六、一五四・〇〇	七、七六四・五七
	同	八三	一六九	一八一	一七八	一九五

（二）埼玉縣蠶種業組合

明治四十三年五月埼玉縣蠶種同業組合聯合會として設立、大正七年五月埼玉縣蠶種同業組合に組織を變更し、更に蠶絲業組合法の制定せらるゝに及び昭和六年十二月埼玉縣蠶種業組合に組織を改め縣下各郡市に八支部を置く。斯業の改善發達及統制を圖るを以て目的とし、組合内には蠶種業研究調査會の設置あり。事業の主なるものは優良原蠶種の増殖配付、研究調査、講習講話會の開催等なり。事務所は埼玉縣蠶業試驗場内にあり。

現在の組合員數は三百六十五名にして最近五ヶ年間に於ける經費豫算並に組合員數を示せば次の如し。

年度	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
經費豫算	四、四一三円	五、一七三円	五、〇一一円	四、九五六円	四、〇一一円
組合員數	四〇〇	三九〇	三八三	三六五	三六五

（三） 埼玉縣製絲業組合

大正二年埼玉縣製絲同業組合として設立、昭和六年蠶絲業組合法の制定と共に同年十二月埼玉縣製絲業組合に組織を改め事務所を蠶業試驗場內に置き製絲業の改良發達及統制を圖るを以て目的とす。事業は優良工男女表彰、講習講話會の開催、印刷物の配付諸調査等なり。最近五ヶ年の組合經費豫算並に組合員數左の如し。

年度	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
經費豫算	六、二一一・八八円 特二〇二・五〇	六、六二〇・八一円 特一、九八六・三六	五、三六五・九〇円	六、三六四・五六円	六、九九三・九〇円
組合員數	八五	八三	八三	八二	八〇

（四） 埼玉縣產業組合製絲組合

昭和六年十一月の設立にして、縣內產業組合製絲の改良發達及統制を圖るを以て目的とせり。事務所は以前熊谷市聯合會埼玉社內に置かれたりしが、昭和八年三月埼玉縣廳內に移せり。現在組合數は二六組合にして設立以降の經費豫算を表示せば左の如し。

年度	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
經費豫算	八七七円	一、三九九円	一、〇〇〇円	一、二〇〇円	一、四〇〇円	一、〇〇三円	二、〇八〇円

（五） 埼玉縣繭絲同業組合

大正八年五月の設立になる。埼玉縣兒玉郡繭絲同業組合を大正十四年五月定款の變更により埼玉縣繭絲同業組合と改稱し、縣下一圓を地區とし繭絲賣買業、繭絲仲立及周旋業、繭絲屑物賣買業者を以て組織し、各郡市に支部を置き、事務所を埼玉縣蠶業試驗場內に置く。蠶絲業各團體と連絡提携し蠶絲業の改善發達と組合員協同一致營業上の弊害を矯正し共利益の增進を圖るを以て目的とす最近五ヶ年の經費豫算並組合員數を示せば左記の如し。

	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
經費豫算	九、九四五円	八、四九二円	八、三三六円	八、二二六円	八、二六〇円
組合員數	四、三六三	四、三四〇	三、八二七	三、七〇〇	三、三一〇

（六） 埼玉縣桑苗同業組合

昭和二年八月の設立にして、桑苗の生產販賣又は其の賣買を業とする者を以て組織し各郡市に九

支部を置き、組合員共同一致互に信義を守り桑苗營業上の弊害を矯正し斯業の改良發達を圖るを以て目的とし、事業として營業品の檢査を行ひたるも、昭和八年檢査を縣に移管せり。組合內に桑苗研究會の設置あり、專ら調査研究を行ひ之れが中心となり組合事業の遂行に當り優良桑苗の安價生產に努めつゝあり。事務所を埼玉縣蠶業試驗場內に置く。最近五ケ年の組合經費豫算並組合員數左の如し。

	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
經費豫算	二,〇二二円	二,二九三円	二,一一三円	二,一六〇円	二,二三九円
組合員數	一,一二七	一,一三〇	一,一〇七	一,〇〇〇	八一〇

（七）埼玉縣養蠶技術協會

大正十年四月埼玉縣養蠶指導協會として設立、大正十五年四月組織を變更し、埼玉縣養蠶技術協會と改稱し、縣內に於ける養蠶指導に當る者又は本縣內に住居し縣外に於て養蠶指導に從事するもの及本會の趣旨に贊成する者を以て會員とせるも、昭和九年四月會員は本縣養蠶技術員免許證を所持せるものを以て組織すと會則を變更し、會員相互の氣脈を通し且學藝と人格の向上に努め蠶絲業の改善發達を圖るを以て目的とせり。業務の概要は講習講話會の開設、蠶絲業に關する功勞者の調査表彰、蠶絲業に關する諸般の調査研究、蠶絲業に關する品評會の開催等なり。最近五ケ年の經費豫算及會員數左の如し。

	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
經費豫算	一,〇二〇円	一,二九〇円	一,一六〇円	一,一四〇円	一,二三五円
組合員	七四九	一,一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	九五〇

（八）埼玉縣蠶種販賣同業組合

大正十年五月縣下蠶種販賣業者を以て組織し、八支部を置き蠶種販賣上の弊害を矯正し、優良蠶種の普及を圖り、營業上の信用を保持し、組合員共同の利益を增進するを以て目的とせり。事務所を埼玉縣蠶業試驗場內に置く。最近五ケ年の經費豫算並に組合員數左の如し。

	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年
經費豫算	七五七円	七五七円	六〇七円	五五八円	五八一円
組合員	五三二	六二八	六二八	五二一	四五六

（九）埼玉縣乾繭組合協會

縣下七乾繭販賣利用組合相互の連絡を圖り、且つ組合經營上の調査並に協定をなすを以て目的とし、昭和七年九月設立せられ事務所を縣廳內蠶絲課に置く。所屬組合の狀況を示せば次の如し。

（昭和十一年三月末現在）

名稱	事務所所在地	組合員數	乾繭機臺數 一晝夜乾繭能力	倉庫數收容能力	設立年月日
有限責任入間郡乾繭販賣利用組合	川越市	五、五一〇人	六臺 八、八〇〇貫	一棟 六、二〇〇石	大正十四年十二月二十八日
同比企郡繭販賣利用組合	比企郡松山町	七、四六四	七臺 一一、八〇〇	一棟 三、五〇〇	同十三年十二月二十五日
同兒玉郡乾繭販賣利用組合	兒玉郡本庄町	六、二〇三	四臺 八、二〇〇	一棟 三、五一〇	昭和三年三月二十八日
同大里郡乾繭販賣購買利用組合	熊谷市	八、〇七〇	六臺 一二、六〇〇	一棟 七、〇〇〇	大正十四年八月十四日
同北埼玉郡乾繭販賣購買利用組合	北埼玉郡加須町	八、六九一	六臺 三〇、〇〇〇	一棟 八、〇〇〇	同十五年十一月十四日
同南埼玉郡乾繭販賣利用組合	南埼玉郡篠津村	五、二七四	五臺 九、五〇〇	一棟 三、五〇〇	昭和三年三月二十八日
同北葛飾郡繭販賣利用組合	北葛飾郡幸手町	一、五四二	一臺 一、五〇〇	一棟 一、〇〇〇	大正十五年五月五日

註、南埼郡乾繭販賣利用組合は昭和十一年九月より購買事業兼營せり。

（十）大日本蠶絲會埼玉支會

明治三十九年九月設置せられたる大日本蠶絲會埼玉委員部は即ち支會の前身にして、明治四十二年二月本會定款の變更に伴ひ之を改めて埼玉支會となす。初め事務所を縣廳內に置きたりしが、大正十三年四月之を埼玉縣蠶業試驗場內に移し更に昭和五年一月再び縣廳內に之を置き今日に及べり而して本會事務の進捗を圖るべく各郡に委員部を設け其事務を執りつゝあり。

由來本會は斯業に關する講習講話及各種の施設をなし、又毎年優良男女工の表彰を行ふ等縣下蠶絲業の發達に資する處尠なからず。

六、本縣名所舊蹟

名稱	所在地	摘要
官幣大社氷川神社	北足立郡大宮町（東北本線大宮驛より東北約十町）	延喜式內名神大社として武藏國の一の宮たり明治元年十月明治天皇行幸御親祭あり勅祭の詔書を下し賜ふ祭神は武運の守護神素盞嗚尊を祀る社殿の後方一帶は所謂「大宮公園」にして境內の廣さ約五萬坪あり

官幣中社 金鑽神社	兒玉郡青柳村（八高線兒玉驛より約一里自動車の便あり）	延喜式內名神大社にして武藏の國の二の宮たり祭神は天照大神素盞嗚尊日本武尊を奉祀す境內古塔あり多寶塔と云ふ天文三年八月晦日阿保彈正金隆の建立する所四百年前の建物にして國寶たり
縣社 三峰神社	秩父郡大瀧村（秩父鐵道三峰口驛より五里半途中自動車の便あり）	伊弉諾伊弉冊二神を祀る境域五十二町四方に亘り社殿の構造客殿の宏壯云はん方なし關東第一の靈場たり
聖天	大里郡妻沼町（高崎線熊谷驛より約二里半自動車の便あり）	大我井の森に在り東西五町南北三町老樹鬱蒼として繁茂し中央に聖天堂あり是れ別格本山歡喜院の別堂にして全部彫刻極彩色を施し其の結構壯麗なる事關東一と稱せらる現今信徒十數萬人を有せり
不動岡不動尊	北埼玉郡不動岡町（東武鐵道本線加須驛より約半里自動車の便あり）	玉嶹山總願寺と號す本尊は智證大師作（空海の作とも云ふ）不動明王にして元京都紫宸殿に安置せられしものなりと境域實に一萬坪に達す櫻花、花菖蒲、菊花等季節に應じて衆目を樂しましむるもの尠なからず
岩殿觀音	比企郡高坂村（東武鐵道東上線高坂驛より約十五町自動車便あり）	岩殿觀音の名夙に世に著はる阪東十番の札所にして養老年間僧逸海の建立せし遺蹟なり
熊谷寺	熊谷市（高崎線熊谷驛より七町）	淨土宗にして本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作多田滿仲の子又丸の念持佛なりきと云ふ地は熊谷直實の城址にして直實發心後元久二年此處に草庵を結び蓮生庵と號す歿後天中年中萬海上人の創立せるもの即ち熊谷寺是なり直實の遺物を藏す其の西北隈に直實の墓あり

喜多院	川越市（東北本線大宮驛より西約四里電車の便あり）	往時勅定に係る關東天臺の本山にして德川三代將軍家光公の誕生せし江戶城內紅葉山の別殿を移して堂宇に建立したるものなり又別に天海僧正の木像を安置す其の他五百羅漢、多寶塔、三位稻荷祀堂あり又寺寶には三代將軍家光公の遺物あり
慈光寺	比企郡平村（東武鐵道東上線小川驛より二里自動車の便あり）	白鳳二年南都興福寺慈訓和尚の開基にして千手觀音を貧る稀有の靈場にして阪東九番の札所とす藏する所の紺地金泥の法華經、大般若經竝梵鐘は何れも國寶に指定せらる
長瀞	秩父郡野上村（秩父鐵道長瀞驛より約二町）	荒川の清流藤谷淵に至り漸く奇岩怪石に遮られ愈々奇景を展く懸岸轟々並立して屛風を立てたるが如く深淵に臨むこと三町餘所謂秩父赤壁の稱あるもの是れなり
象ケ鼻鉢形城址	大里郡寄居町（秩父鐵道寄居驛より七町）	本町西方荒川の奔湍曲流する處に斷崖あり所謂象ケ鼻の奇景なり鮎業の好場所にして船遊の樂盡きず畏くも大正天皇（東宮に在しませし頃）行幸ありて鮎漁の御遊ありし所なり又對岸數町下りて鉢形城址あり北條氏邦の居城にして天正十八年豐臣氏の爲滅さる
熊谷の櫻堤	大里郡（高崎線熊谷驛より約一町）	櫻堤里餘人士の來り賞する者年一年よりも多し
天覽山	入間郡飯能町（武藏野鐵道飯能驛より約五町）	山腹に十六羅漢の石像を安置す里人羅漢山と呼ぶ山頂よりの眺望佳にして遠くは富士の白峰を望むべく筑波の翠黛も一眸の中に在り明治十六年近衞師團の演習に際し明治天皇行幸あらせらる天覽山の稱是より始まれり頂上碑あり行幸の盛事を記す

欅樹の井戸	大里郡八基村（高崎線深谷驛より一里二十町自動車の便あり）	鹿島神社境内に在り欅の周圍三丈六尺枝葉十六間の廣さに繁茂し心空洞にして内に古井戸を有するもの是なり明治三年世界探險家佛人ブリユメー氏來遊し恐くは世界の奇蹟ならんと歎賞せりと
蒲櫻	北足立郡石戸村（高崎線桶川驛より西北約一里半）	東光寺境内に在り其の樹大にして且歷史的價値あるを以て知らる總根元の周圍三丈五尺六寸に達し枝は何れも數丈の長きに及び根際に數基の石碑を貽し成長す其の石碑には自永元年即ち今より六百年前のものあり蒲冠者範賴の植ゆる所なりと傳ふ
牛島の藤（粕壁の藤）	北葛飾郡幸松村（東武鐵道本線粕壁驛より約十五町自動車の便あり）	藤樹の周圍丈餘花房六尺地を掠めんとするの狀頗る美觀を呈す
田島原櫻草自生地	北足立郡土合村（東北本線浦和驛より南西約一里自動車の便あり）	北足立郡土合村荒川堤外原野縣道に沿て一區域を爲す武藏野特有の野草と共に群落を爲し四月中旬紫紅色の花を開く美觀云はん方なし大正九年七月史蹟名稱天然記念物に指定せらる大正十一年五月畏くも天皇陛下（攝政宮に在しませし頃）縣下御遠乘の際臺覽あらせられたり
行幸堤	北葛飾郡行幸村（東北本線久喜驛より一里半自動車の便あり）	即ち權現堂堤にして櫻花の名所として熊谷堤と共に有名にて明治九年明治天皇奥羽御巡幸の砌畏くも鳳駕を駐めさせ給ひしより此の名あり

百穴	比企郡西吉見村（東武鐵道東上線松山驛より約十五町）	穴窟二百餘あり之を遠望すれば宛ら蜂巣の如く寔に奇觀なり即ち上古屍を歛めたる壙穴なりと云ふ百穴と並びて松山城址あり其の絕壁を掘鑿して岩窟ホテルと稱するものを造る着手以來二十有餘の星霜を經たりと云ふ
忍城址	北埼玉郡忍町（秩父鐵道行田驛より七町）	文明年中成田親泰兒玉武藏大椽重行を亡して之に代り後江戸の封内に歸し寛永年中阿部豐後守忠秋封せられ文政六年白河城に移封せらるゝや松平忠堯伊勢より來りて城主となる封十萬石傳はりて維新の新政に至る今猶殘壕存して名城の一たり
高麗王若光の墓	入間郡高麗村（武藏野鐵道飯能驛より約一里自動車の便あり）	靈亀二年高麗人千七百九十人武藏の國に移りて高麗郡を置けりと是れ今の高麗地方なり王若光の墓と稱するは墓石六尺五寸餘誌名壞滅して讀む能はず

祝繭質改善共進會

埼玉縣養蠶業組合聯合會

埼玉縣製絲業組合

埼玉縣蠶種業組合

埼玉縣產業組合製絲組合

埼玉縣桑苗同業組合

埼玉縣蠶種販賣同業組合

埼玉縣繭絲同業組合

埼玉縣養蠶技術協會

埼玉縣乾繭組合協會

祝

大日本蠶糸會埼玉支會主催
蠶業試驗場創立二十五週年
繭檢定所開所記念
繭質改善共進會

昭和十二年四月

入間郡
川越市
養蠶業組合

祝

蠶業試驗場創立二十五週年
繭檢定所開所記念
繭質改善共進會

埼玉縣松山町
比企郡養蠶業組合
電話（松山）四九番

祝

蠶業試驗場創立二十五週年記念

繭檢定所開所

繭質改善共進會

比企郡繭販賣利用組合

電話（松山）七九番

斷然

優良桑苗の生產地

埼玉縣桑苗同業組合

秩父郡支部

事務所 埼玉縣秩父町
（蠶業取締所秩父支所内）

保（ホ）赤（セキ）圓（エン）

かぞの

かんの藥

武州加須町 商號 大和欣治藥局

祝

蠶業試驗場創立二十五周年
繭檢定所開所
記念

繭質改善共進會

埼玉縣蠶業取締所松山支所內

埼玉縣蠶種販賣同業組合比企郡支部

祝

蠶業試驗場創立二十五周年
繭檢定所開所
記念

繭質改善共進會

埼玉縣蠶業取締所松山支所內

埼玉縣繭絲同業組合比企郡支部

祝

蠶業試驗場創立二十五周年
繭檢定所開所
記念

繭質改善共進會

埼玉縣蠶業取締所松山支所內

埼玉縣養蠶技術協會比企郡支會

秩父郡養蠶業組合

事務所　埼玉縣秩父町
蠶業取締所秩父支所內

◎優秀技術員の斡旋派遣

埼玉縣養蠶技術協會秩父郡支會

事務所　埼玉縣秩父町
蠶業取締所秩父支所內

◎組合員三二〇名
◎取引叮寧親切

埼玉縣蠶絲
同業組合

秩父郡支部

事務所　埼玉縣秩父町
蠶業取締所秩父支所內

祝

蠶業試驗場創立二十五周年記念
繭檢定所開所

繭質改善共進會

埼玉縣蠶業取締所松山支所內

埼玉縣桑苗同業組合比企郡支部

祝

大日本蠶糸會第三十二回總會開催
蠶業試驗場創立二十五周年記念
繭檢定所開所記念
繭質改善共進會開催

兒玉郡養蠶業組合

蠶業取締所本庄支所內

祝

蠶業試驗場創立二十五周年記念
繭檢定所開所記念
繭質改善共進會

兒玉郡乾繭販賣利用組合

電話（本庄）四二四番

祝

大日本蠶糸會第三十二回總會開催
蠶業試驗場創立二十五周年記念
繭檢定所開所記念
繭質改善共進會開催

蠶種業組合兒玉郡支部

蠶業取締所本庄支所內

＝祝＝

大日本蠶糸會第三十二回總會開催
蠶業試驗場創立二十五周年記念
繭檢定所開所記念
繭質改善共進會開催

埼玉縣繭糸同業組合兒玉郡支部
本庄町　電話三四〇番

埼玉縣養蠶技術協會兒玉郡支會
本庄町　電話一五三番

埼玉縣蠶種販賣同業組合兒玉郡支部
本庄町　電話一五三番

埼玉縣桑苗同業組合兒玉郡支部
本庄町　電話一五三番

祝

大里郡
熊谷市

養蠶業組合

祝

有限
責任

大里郡乾繭販賣利用組合

熊谷市石原

電話熊谷一五六

祝

蠶業試驗場創立二十五週年
繭檢定所開所記念
繭質改善共進會

北埼玉郡養蠶業組合

北埼玉郡加須町大字加須五九五番地
蠶業取締所加須支所内
電話六四番

祝

蠶業試驗場創立二十五週年並繭檢定所開所記念
繭質改善共進會

有限責任 **北埼玉郡乾繭販賣購買利用組合**

同　蠶種部

本部　加須町（電話加須一七四番）
支部　忍町（電話行田二四〇番）
　　　羽生町（電話羽生二七八番）
　　　騎西町（電話騎西二二番）

養蠶技術協會北埼玉郡支會

事務所 北埼乾繭組合內

電話加須一七四番

埼玉縣 蠶種販賣同業組合 北埼玉郡支部

事務所 蠶業取締所加須支所內

電話加須六四番

祝

蠶業試驗場創立二十五週年

繭檢定所開所

埼玉縣繭絲同業組合北埼玉郡支部

事務所 蠶業取締所加須支所內

電話加須六四番

優良蠶種

五十部恒吉
北武蠶種合資會社
堀口治太郎
大貫喜治
岡田富三郎

田島專一
六川健治
內田菊太郎
野中新次
埜本玉之助

駒宮治作
埼玉蠶種合名會社
齋藤內藏之助
齋藤吉藏
佐藤德右衛門

埼玉縣蠶種業組合北埼玉郡支部

岡田惣藏
角田喜三郎
加藤角右衛門
川邊春之助
横塚源助

矢島健次郎
山口藤平
增田周三郎
北埼玉郡乾繭販賣購買利用組合

昭和蠶種合名會社
關根諒助
瀨島英
杉田太三郎
（いろは順）

祝繭質改善共進會

埼葛蠶絲業組合聯合會（組織團体順序不同）

南埼玉郡乾繭販賣利用組合
北葛飾郡繭販賣利用組合
蠶種業組合南埼玉北葛飾郡支部
南埼玉郡養蠶業組合
北葛飾郡養蠶業組合
繭糸同業組合南埼玉郡支部
繭絲同業組合北葛飾郡支部
蠶種販賣同業組合南埼玉北葛飾郡支部
桑苗同業組合南埼玉郡支部
桑苗同業組合北葛飾郡支部
養蠶技術協會南埼玉北葛飾郡支會

祝繭質改善共進會

南埼玉郡養蠶業組合

北葛飾郡養蠶業組合

祝繭質改善共進會

桑苗同業組合南埼玉郡支部

桑苗同業組合北葛飾郡支部

祝繭質改善共進會

蠶種業組合
南埼玉、北葛飾郡支部

蠶種販賣同業組合
南埼玉、北葛飾郡支部

祝繭質改善共進會

南埼玉郡乾繭販賣利用組合
電話 白岡四番
菖蒲一一九番

北葛飾郡繭販賣利用組合
電話幸手一〇六番

祝繭質改善共進會

繭絲同業組合南埼玉郡支部

繭絲同業組合北葛飾郡支部

祝繭質改善共進會

養蠶技術協會南埼玉北葛飾郡支部

川越市

有限責任入間郡乾繭販賣利用組合

電話川越八〇一番

祝繭質改善共進會

大里郡農會

明治四十二年十一月本郡特産生絹ノ改善進歩ヲ目的トシ武州本場絹織物同業組合ヲ創立シ昭和八年時運ノ趨勢ニ基キ工業組合法ニ準據シ武州本場絹織物工業組合ニ改組シ昭和十一年八月生産品並ニ地方的關係ニヨリ小川絹織物工業組合ト改稱スルニ至リ製品ノ改良ト共ニ産額ノ增大ニ邁進シツヽアリ

埼玉縣比企郡小川町

小川絹織物工業組合

電話小川四四番

當組合主要製品　本玉絹
販　　賣　共同販賣
組合員　五十名
組合結成　昭和八年八月

大里絹織物工業組合

事務所　大里郡深谷町大字深谷一一三番地
電話　二六〇番

萎縮無く伸は止らず程良い桑は先づ一ノ瀬

私ハ室素少ク加里多ク硬度高キヲ目的ニ自ラ鍬ヲ取リ各種多數ツクレ共殊ニ進メル一ノ瀬ハ萎縮知ラズデ伸止ラズ鼠ト異テ枝ハ無ク稚蠶壯蠶萬向デ晩秋蠶ノ時期等ハ全ク比ベル桑ハ無ク此ノ分ニテハ年ヲヘズ世ノ桑畑ノ大半ハ一ノ瀬ニナルノヤラ　一ノ瀬注文ハ小生ヘ

埼玉縣北足立郡川田谷村
各種桑苗生產販賣　**中村光**
口座番號東京一三二九九番

桑苗專門

埼玉縣鴻巣町
人形町（岩槻道入口）
鴻東園　大島憲三
出張所
鴻巣町
武陽實業學校前

優良桑苗

生産
販賣
共同購入歡迎

埼玉縣鴻巣町
大島亮策商店

桑苗
（大）
問屋

桑苗原産地中丸

優良桑苗並桑種子生産販賣

高崎線北本宿驛下車
東へ約八丁　岩槻縣道際

大島農園

埼玉縣北足郡中丸村字宮内
大島春吉
電略（ハル）

埼玉縣蠶業試驗場獎勵

各種優良品種

生産販賣

埼玉縣北足立郡中丸村大字別所
（高崎線北本宿驛下車東ヘ十町）

㊅

内田桑苗部

内田柳之助

電略（ウチ）又ハ（ウ）

祝繭質改善共進會

優良桑苗

生産販賣

埼玉縣入間郡霞ケ關村的場

御菩薩池謙造

紀元二五九七

主ナル品種

儉持桑
一ノ瀬
大島桑
改良鼠返
市平
多胡早生
其他各種販賣

創業五拾週年

年産額桑苗數拾萬本
價格等ノ詳細ハ御照會次第速報申上候

富國園

加藤淺五郎

埼玉縣北足立郡中丸村大字北中丸四六
電略（カ）又ハ（カト）
振替口座東京三三六九〇

祝繭質改善共進會

優良桑苗

生産販賣

埼玉縣入間郡鶴ヶ島高倉
小川浩造

埼玉縣入間郡大家村厚川
高篠市松

埼玉縣入間郡坂戸町淺羽
渡邊淺次郎

祝繭質改善共進會

生産 優良桑苗 販賣

川越市外野田
小澤一作

責任保證・
桑苗各種
生産販賣

各團体御用
町田忠作
埼玉縣入間郡入間村南入曾

生産 優良桑苗 販賣

埼玉縣入間郡入間村水野

宮岡吉五郎

生産 桑苗 販賣

繭質改善ハ桑苗カラ

埼玉縣入間郡入間村南入曾

宮岡平藏

◎優良桑苗は多收穫桑園を生産す

優良

桑苗各種

現代の交雑蠶飼育に最好適良桑品種

埼玉縣入間郡飯能町中山

主任 小島晟行

八高線東飯能驛下車↑

生産販賣

責任保證

◎桑ノ多收穫ハ優良桑苗カラ

優良

桑苗各種

主任 關口武一

埼玉縣入間郡日東村藤倉↑

生産販賣

優良桑苗

自培生産

各團体
養蠶實行組合
御用達

高橋義郎

埼玉縣入間郡堀兼村青柳

○優良なる桑苗は多收穫桑園を生産す

優良
桑苗

現代交雑蠶飼育に最好適良桑品種

埼玉縣入間郡飯能町前田

主任
瀧田伊八郎

八高線東飯能驛前↑

生産販賣

⊙品質の優良

桑苗

⊙價格の低廉

繭質改善ハ桑苗カラ

埼玉縣入間郡藤澤村下藤澤

齋藤伊助

⊙品質の優良

桑苗

⊙價格の低廉

改良鼠返
多胡早生
市平
魯桑
栗本

埼玉縣入間郡霞ヶ關村笠幡

鹽川博

優良桑苗

生産販賣

各團体
養蠶實行組合 御用達

伊藤惣五郎

埼玉縣入間郡入間川町

優良

桑苗

埼玉縣北葛飾郡豊田村小右衛門

渡邊富次

東北本線栗橋驛ヨリ
十五町自動車ノ便アリ

祝

埼玉縣比企郡唐子村

優良
桑苗
生産
販賣

埼玉改農園

園主 小澤福三郎

主任 小澤治良

◎優良桑苗◎

優良なる桑苗は多收穫桑園を作る

埼玉縣兒玉郡丹庄村大字八日市

桑苗専門　**齋藤鍋吉**

【詳細は御一報次第即時回答す】

好機を逸するは勝利者たる能はず

桑苗ハ兒玉郡産！

▼詳細ハ御照會ヲ乞フ▲

生産販賣　**境野柳**

兒玉郡旭村新井

桑苗

生産品種

一ノ瀬
改良鼠返
市平
島ノ内
多胡早生
大島桑
富ノ榮桑
其ノ他

弊館生産販賣の品種は
現代の交雑種飼育に最適なり
整理改植用に合致する

御申越次第價格表送呈

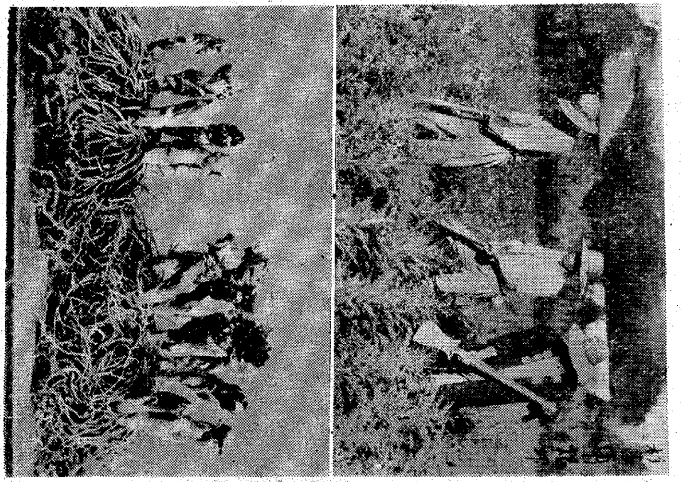
埼玉縣兒玉郡七本木村久保新田

各農會
養蠶實行組合　御用達

高橋勘五郎

營業課目

桑苗各種
山林用種苗一式
埼玉縣特産福壽草
殊ニ當地ハ原産地中ノ中心地



埼玉縣大里郡藤澤村

諸官衙
農會　御用達

飯野種苗園

園主　飯野忠次

振替東京五九三九〇番

弊園順路
高崎線深谷驛ヨリ一里
八高線寄居驛ヨリ二里
乗合自動車便アリ

山林苗木一式
桑苗各種
◎島ノ内生産元祖
庭園樹各種
生産販賣

埼玉縣大里郡小原村大字板井

精良園 **長倉苗木部**

園主 長倉良八

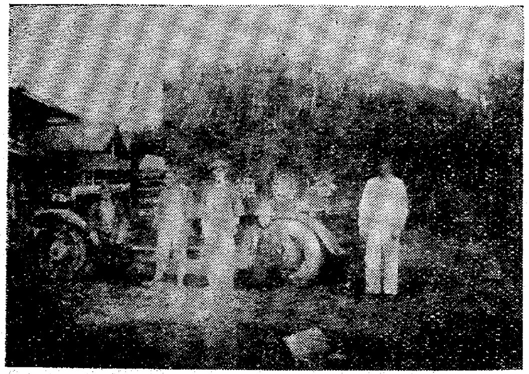
振替東京一〇七、九五九番
電略（ナ）又ハ（ナガ）

祝

桑苗生産並賣買
優良品安價提供

桑苗問屋 **武田寛之助**

埼玉縣大里郡幡羅村



馬場農園の主義

一、御客様に親切本位が當園のモットー
一、改良品種の販賣元
一、確かな品を安價提供
一、荷造り發送敏速に
一、安心出來る馬場の苗木

埼玉縣熊谷市鎌倉町大橋際

優良桑苗
生産販賣 **馬場農園**

園主 馬場又五郎

電略（ハマ）又ハ（マ）

營業案内

大量生産

栽培種目

黑軸鐵砲百合
桑苗山林用苗
埼玉特産福壽草
花卉球根各種

通信販賣

廉價提供

福壽草専門

藤澤農園

園主 村田芳三郎

埼玉縣大里郡藤澤村大谷

順路高崎線深谷驛下車
南一里自動車便アリ

優良苗各種

桑苗生産販賣

農場 埼玉縣大里郡花園村武藏野

富盛園

園主 富田玄四郎

苗木ノ組合共同購入ハ當農園ニ御註文ヲ願マス

埼玉縣大里郡榛澤村

優良桑苗生産販賣 川田德太郎

埼玉縣大里郡榛澤村

優良桑苗生産販賣 武政良作

椎茸生産並種木販賣
優良桑苗生産販賣

大里郡玉井村

森田常吉

桑苗生産並販賣

桑苗問屋

島田幾次郎

埼玉縣大里郡新會村新戒
（深谷驛ヨリ約二十町）

桑苗各種
福壽草
球根各種
生産販賣

埼玉縣大里郡花園村武藏野

誠苗園 **高野博孝**

營業種目

桑苗、山林苗
球根、百合根

埼玉縣大里郡花園村大字武藏野三三九一

吉岡福太郎

埼玉縣北埼玉郡須加村下中條

優良桑苗
生産販賣

栗原農場

農場主

栗原慶之助

電話荒木五番呼出
電略（クリ）又ハ（ケ）

當店ハ年販賣數量約二百萬本
貨物自動車二臺自家用ニテ各位ニ迅速
ニ便ヲ計リ得ルヲ表明ス

鐵道便
東武線羽生驛下車西約一里
秩父線荒木驛下車北約十町

北埼玉郡村農會御用達

桑苗産販賣

北埼玉郡埼玉村大字渡柳

篠原桑苗園

園主 篠原礒右衛門

仝所

植木苗木生産販賣

篠原植物園

園主 篠原林太郎

諸官衙、農會、山林會
各府縣養蠶業組合
養蠶實行組合
製絲所
御用達

優良
桑苗
山苗
果樹苗
提供

桑生産品種
改良鼠返、多胡、大島、一ノ瀬、其他

山苗生産品種
杉、檜、樅、樫、松、其ノ他各種

埼玉縣北埼玉郡田ヶ谷村大字上崎

諸苗木生産販賣

加藤金作
安藤仁兵衛

諸官衙、農會、山林會
各府縣養蠶業組合
養蠶實行組合
御用達

優良
桑苗
山苗
提供

生産桑苗品種
改良鼠返、一ノ瀬、大島、多胡、其ノ他

生産山苗品種
杉、檜、松、樅、樫、其ノ他

埼玉縣北埼玉郡田ヶ谷村大字上崎

桑苗
山苗
生産販賣

加藤石太郎

騎西町西約十五町
多少ニ拘ハラズ御用命ニ應ズ

優良桑苗

提供

一、品種確實
一、活着保證
一、價格低廉

改良鼠返、一ノ瀬、多胡、大島、其ノ他各種

諸官衙、農會、製絲所
各府縣養蠶業組合
養蠶實行組合
御用達

埼玉縣北埼玉郡種足村中種足

新井左内

諸官衙、農會、山林會
各府縣養蠶業組合
養蠶實行組合
御用達

優良 桑苗 山苗 垣根苗 提供

輸出百合根

諸苗木 百合根 生産販賣

栗原一益

埼玉縣北埼玉郡埼玉村埼玉
電略（クリ）又ハ（一）

埼玉縣南埼玉郡栢間村

桑苗生産
桑種子
果樹苗

生産卸商

關口農園桑苗部

園主 關口包明

電略（セキ）又ハ（セ）

御來訪歡迎
高崎線桶川驛下車一里菖蒲自動車途中下車
東北本線久喜驛下車菖蒲行自動車ノ便アリ

生産數量郡下第一

取引ノ確實ヲモツトートシテ親切ニ致シマス

本年度市平、大島桑ノ不足ノ折柄各製絲所及養蠶實行組合ノ御用命ニ滿足ニ納付シ市平ノ取扱本數縣下一位

春向實生苗及原苗ノ御用ハ弊店ヘ御用命ノ程伏而奉願上候

現代交雑蠶種飼育に最好適良桑各種

優良

桑苗生産販賣

埼玉縣北葛飾郡豊田村小右衛門

秋庭茂

東北本線栗橋驛ヨリ十五町（自動車ノ便アリ）

各種桑苗生産販賣

江南園

佐藤文夫

埼玉縣北埼玉郡大越村

蠶種桑苗業

増田商店

増田伊佐

營業所　埼玉縣羽生町大越通リ

優良蠶種製造

蠶盛館

岡村卯三郎

埼玉縣川田谷村

優良

蠶種並桑苗

製造販賣

埼玉縣北足立郡川田谷村五七四一

細田好雄商店

振替口座東京七九二九九番

電略（ホソタ）又ハ（ホ）

優良蠶種製造

各期共國蠶系新品種

蠶種製造販賣所

埼玉縣北足立郡石戸村高尾

社員 金子菊治

仝 石戸村高尾

社員 新井守郎

仝 川田谷村竹ノ内

社員 細田好雄

事務所 北足立郡石戸村高尾八五五ノ二

足立蠶種合名會社

春夏秋蠶種

懇切ノ製造

夏秋蠶種は七月一日より九月中旬に至る間連續製造致します一通のハガキ一本の電報にて掃立は自由に出來ます

着實ノ營業

埼玉縣北足立郡鴻巣町三三六三

清水合名會社

代表者 清水忠治

清水富藏

清水一夫

振替東京一一五、九三〇番

電略（シ）又ハ（シチ）

▲御照會即答▼

◉農蠶具一式◉

優良
蠶種製造

山根良輔

埼玉縣北足立郡大石村畔吉

適地分場生産の
優良蠶種

精蠶館

石川松五郎

埼玉縣入間郡入間川町

優良蠶種

盛壽館

藤倉兼吉

埼玉縣入間郡日東村藤倉

電氣催青裝置完備

健實第一＝優良蠶種

一心館

鹿川文次

入間郡大家村
電話大家零番(呼)

伊豆分場蠶種製造

埼玉縣入間郡勝呂村大字島田

臺米吉

東上線坂戸驛ヨリ北ヘ約十町

優良蠶種

電氣催青冷藏裝置完備

蠶盛館 林蠶種部

林芳次郎

埼玉縣入間郡勝呂村島田三九
電署（八）又ハ（八ヨ）
振替口座東京一三〇九八三番

祝繭質改善共進會

蠶種製造業

高麗川蠶種合名會社

埼玉縣入間郡高麗川村

關根關次郎

大澤金次郎

宮澤英雄

伊藤勝三郎

武藤良重

木下清治

優良蠶種

埼玉縣入間郡飯能町

大功館蠶種合資會社

須田龜藏

祝 繭質改善共進會

昭和十二年四月

蠶種製造

福島勝太郎

埼玉縣入間郡大家村

系統純正優良蠶種

藤壽館

安藤貞三郎

入間郡飯能町

祝 繭質改善 共進會

◎種繭……適地分場生産

武壽館蠶種製造所

館主 安藤喜十郎

埼玉縣入間郡飯能町

◎蠶種……絶對優秀

埼玉縣入間郡霞關村大字的場一、一九七

川越蠶種合名會社

代表社員　鈴木泰平

社員

市川一郎　石川松五郎　大室甚造
大室啓次郎　岡部泰平　田邊四郎
田中吉次郎　中島定平　野村五郎平
新井重平　木崎倉助　水村廣吉

分場地　沖縄縣八重山　千葉縣　本縣山間部

絶對責任
優良蠶種

好蠶館
内野滿輔
入間郡鶴ヶ島村

系統純正……糸量豐富……糸質適良
飼育容易

弊館は親切第一をモットーとして輿論を尊重し力ある優良蠶種の製造に努む

春夏
秋晩秋
蠶種

原蠶種は全部本縣蠶業試驗場配付にて一代限り使用

高場館
高篠俊次
埼玉縣入間郡鶴ヶ島村下新田二三九

責任保證

春秋蠶種製造

入間郡飯能町大字小瀬戸

成能園蠶種製造所　野口歌藏

飯能驛前　野口成能園營業所

蠶種製造

埼玉縣入間郡飯能町

國益蠶種合資會社

保證蠶種の大量生產

埼玉蠶種合名會社

埼玉縣入間郡日東村大袋新田一七七
電話日東零番（呼）

扶桑館蠶種製造所

渡邊爲吉

埼玉縣入間郡奥富村字
下奥富千九百十四番地

適地分場

春蠶種は伊豆產
秋蠶種は山梨產

入間郡勝呂村
大字島田八三二

富國館

館主 岡野信太郎
主任 岡野精一

（東上線坂戸驛ヨリ北方約十町）

分場地　佐渡、千葉、本郡吾野村

適地分場
優良蠶種

大田館蠶種製造所

館主　大畑篤

埼玉縣入間郡大田村

祝繭質改善共進會

石川組養蠶部

石川求助

埼玉縣入間川町
電話入間川七一番

蠶種ノ

御用命ハ

㊍神 蠶種店

埼玉縣比企郡小川町（郵便局前）

神部政之助

祝

蠶業試驗場創立二十五周年

繭檢定所開所

繭質改善共進會

比企郡東吉見村

泰生蠶種合資會社

内野五三郎
金子藤四郎
卯月利三郎
正木金次郎
戸井田忠保
小島次郎
杉山準之助
稲村常吉
川島源之助
須長與三郎
増田浪吉
荒井惣一郎

創業明治二十二年以來共存共榮主義一貫

◆優良蠶種製造

製造分場——靜岡縣下二ヶ所　埼玉縣內四ヶ所、

飼育分場——春は伊豆半島に百二十戶
秋は富士山麓、奧秩父に百五十戶

御視察歡迎!!!

高崎線鴻巣驛ヨリ二里
東上線松山驛ヨリ一里　バスの便あり

埼玉縣比企郡南吉見村大字前河內

合名會社 **興農館本店**

振替東京三七一二一番

代表社員　小高圭作

○諸國優良蠶種
○蠶具類一式
○農蠶計量器

良品　廉賣

埼玉縣北足立郡鴻巣町停車場際

合名會社 **興農館支店**

電話鴻巣三番

館主　小高圭作
支配人　岡安眞治
主任　岡安喜美太郎

祝

笠山蠶種合資會社

埼玉縣比企郡小川町

蠶種製造配給統制ノ先驅

⊙種繭ハ適地分場生産

位置　比企郡平村西平

比企蠶種合資會社

代表社員　内田晴治

振替口座東京三五四六五番

⊙採種ハ家族的絶對念入

電話平局一番

社員（イロハ順）

猪鼻市郎
圓城寺頼太郎
原昌治
戸井田久太郎
小川代吉
小川市右衛門
小島鉞造
吉澤半五郎
瀧瀬忠造
内田晴治
小林戈治

絶對無毒
飼育容易
繭質最優

保證蠶種製造

埼玉縣秩父郡樋口村大字矢那瀨二〇六番地

公養館蠶種製造所

館主 野原春四郎

種繭飼育 順路

⦿春ハ天惠ノ分場地……房總半島

⦿夏秋ハ天惠ノ分場地……奥秩父

本舘ハ秩父線電車波久禮驛
下車五丁乘合自動車ノ便アリ

秩父桑原蠶種製造案内

⦿當所ハ創業以來五拾有餘年ノ經驗ヲ基礎トシテ蠶種ノ製造ニツトム

一、白繭種 歐十九×支十七、歐十八×支一〇六 日八×支一七
二、黃繭種 歐十六×支十六、歐十六×支十四
三、秋蠶種 日一一一號×支一〇七號 又ハ反交
四、晩秋蠶種 日一一一號×支一〇七號 又ハ反交

⦿製造場所ハ秩父連山ノ東端ニ位シ關東平野及熊谷飛行場ノ眺望佳ナリ

埼玉縣秩父郡白鳥村大字金尾七八二

桑原榮三蠶種部

（秩父線波久禮驛ヨリ西南二十五町）

責任蠶種製造

◎品種……國蠶系各種
◉主義……實質本位
◉原蠶飼育……分場專門

埼玉縣秩父郡野上村

村田館蠶種製造所

村田勝藏

電話呼出 野上四三番
振替東京七三〇九九番

順路……秩父電車長瀞驛際

責任蠶種製造

當館のモットー

◎適地分場の設置
◎絶体豊蠶
◎系統確實
◎廉價提供

埼玉縣秩父郡白鳥村
豊蠶館蠶種製造所

井上豊秋

振替口座東京一三〇、〇六二番

蠶種製造

天明年間創業

埼玉縣秩父郡小鹿野町大字下小鹿野一三九

加藤芳三郎

創業明治廿六年

責任蠶種製造

經濟養蠶法實習生
養成並ニ指導員派遣

埼玉縣秩父郡樋口村辻

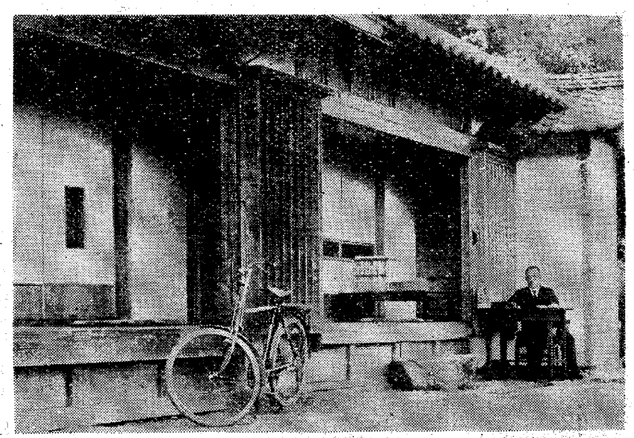
新井蠶業合名會社

社員 新井定三郎
新井惣三郎

電話（野上）三六番
振替東京一一五、三五八番

種繭飼育分場地
八丈島、伊豆、房總、三峯、大瀧、白川

本社ノ位置
秩父電車樋口野上兩驛ヨリ十余町乘合自動車ノ便アリ



吾ガ埼玉ニ輝ク今回ノ記念共進會ヲ機會ニ茲ニ吾等ノ事業廣告ヲ掲載サセテ載キマスコトハ私ノ光榮トスル所デアリマシテ當局ノ共勞ニ對シ心カラ感謝ニ堪ヘナイノデアリマス

當所ハ昭和三年ニ起業致シマシタ最モ年淺キ製造者デアリマス、私ハ業憲トシテ「眞面目ニ元氣ヨク」養蠶家ノ皆サンニ必ズ滿足ノ出來得ル品格ヲ整ヘ尙且製絲ノ原料トシテ適合スル所ノ系統ノ正シキ完全ノ蠶種ヲ製造スル事ガ其本分デアルトシテ自ラ卒先シテ各部門ヲ監督シ主任ヲ督勵シテ業務ニ親ンデ居リマス、幸ニオ蔭樣デ事業ノ順調ニ向ヒツ、アル事ハ全ク指導監督ヲ載キマス、技術官各位ヲ始メ一般養蠶家皆サンノ御厚情ノ賜デアルト厚ク御禮ヲ申シ上ゲマス

どうぞ業蹟ニ就テハ蠶業取締所ニ御照會下サイマシテ埼玉ニ於ケル秩父青年蠶種ノ眞價ヲ味ツテ載ク事ヲ衷心カラオ願ヒ致シマス

埼玉縣秩父郡槻川村

昭和館蠶種製造所 館主 峯岸新藏

埼玉社蠶種合資會社

優秀

蠶種

責任製造者

（イロハ順）

埼玉縣秩父郡中川村上田野一五五三 江田虎彌太

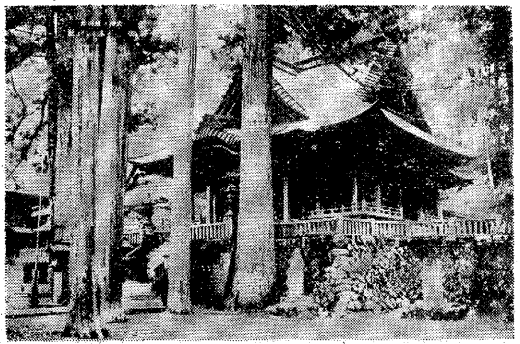
埼玉縣秩父郡日野澤村下日野澤一五五 新井時五郎

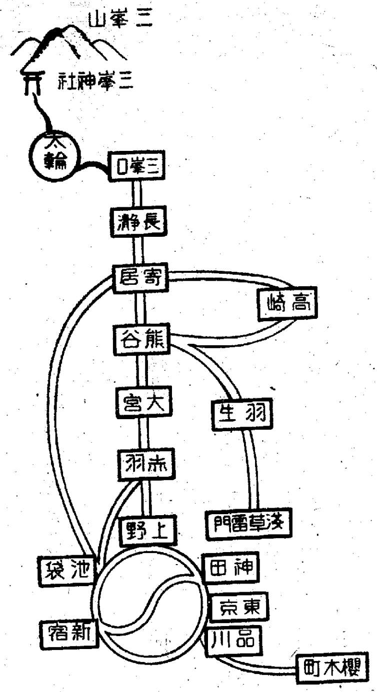
埼玉縣秩父郡樋口村野上下郷二九六二 淺見爲作

埼玉縣秩父郡原谷村大野原一三七 淺見唯一

埼玉縣秩父郡白鳥村岩田四四 雨宮富藏

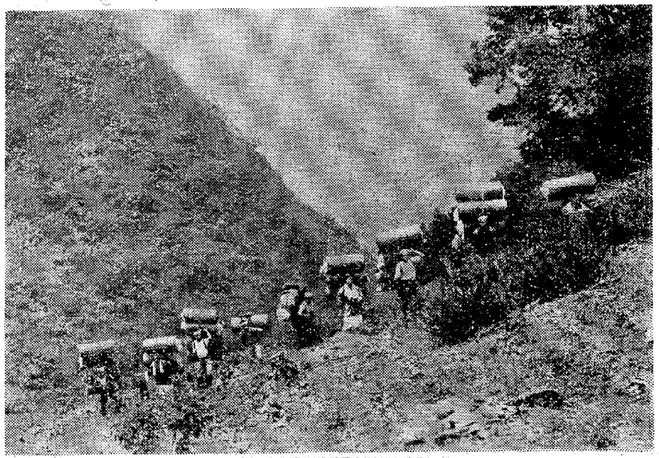
埼玉縣秩父郡中川村上田野一六五七 宮崎義助





三峯神社

埼玉縣秩父郡大瀧



種繭運搬の實況

天惠！分場の理想郷

奥秩父

大瀧村種繭分場組合

事務所　埼玉縣秩父郡大瀧村

種なら！
確實
中秩父

中秩父の種

埼玉縣秩父町

中秩父蠶種合資會社

責任製造者

秩父町一、三一五 井上六兵衛

秩父町一、一四八 荻野清吉

秩父町一、三一〇 加藤増吉

秩父郡大田村 齊藤善治

（イロハ順）

地勢が然らしめる

虫質強健・絶体優秀蠶種

奥秩父蠶種合資會社

奥秩父蠶種合資會社

（イロハ順）

◉責任製造者◉

埼玉縣秩父郡秩父町字大宮一二二〇 加藤定之助

埼玉縣秩父郡大瀧村大字大瀧一三一 倉林四郎次

埼玉縣秩父郡秩父町大字大宮一三〇九 小林武一郎

埼玉縣秩父郡久那村七八 淺賀利作

本秩父蠶種合資會社

優良

蠶種

◆責任製造者◆

（イロハ順）

埼玉縣秩父郡國神村金崎九三二
小林善三郎

埼玉縣秩父郡金澤村一九七三
山口勝次郎

埼玉縣秩父郡國神村金澤九八〇
山下敬重

埼玉縣秩父郡高篠村山田二四七
淺見八作

永遠の勝利は取引先の撰擇にあり
是れ將來の安定を把握する捷徑なり
須く本所を利用して永遠の勝利者たれ

原蠶種普通蠶種取扱

弊店ハ本邦最古ノ蠶種店ナリ

埼玉縣本庄町泉町

吉 齋藤安太郎商店

營目　蠶種一般取扱

電略（キヤ）又ハ（キ）
電話三四四番
振替東京三七三七三番

完備セル營業網ハヨク期待ニ添フ

第三代目店主

本社の誇り

◎冷藏設備は世界に定評ある米國フリック會社式アンモニア間接冷却裝置

⊙裝置完備の電熱催青場

◎人工孵化の施行

株式會社 **本庄蠶種冷藏庫**

電話二四六番

◎優る技術に違算なし

◎優良原蠶種普通蠶種の斡旋

是非共御利用を乞ふ

蠶種製造業

兒玉郡北泉村

適地分場

春秋蠶種

田所勘三郎

(詳細は御照會を乞ふ)

蠶種製造業

兒玉蠶種合資會社

適地分場
春秋蠶種

淺見好雄

埼玉縣兒玉郡兒玉町
電話四十二番
振替口座東京三〇九九番

春夏秋蠶種製造販賣
各養蠶實行組合委託蠶種製造
養蠶技術員養成派遣

埼玉縣兒玉郡藤田村傍示堂

アイデアル舘蠶種製造所

內野太弘

豊作ノ鍵ハ蠶種カラ

春蠶種・海濱
夏秋蠶種・高原　製造　精撰蠶種

信用ト堅實トヲ目標トセル

仁手蠶種合名會社

埼玉縣兒玉郡仁手村

蚕種界ノ權威

國蠶系新品種ノ精鋭

優良蠶種

春蠶種……海濱
夏秋蠶種……高原　ノ天惠ノ地製造

藤田蠶種合資會社

埼玉縣兒玉郡藤田村

古い設立……新しい技術

我が社の誇

◆社員の圓満
◆品種の統制
◆無毒強健

埼玉縣兒玉郡賀美村

勅使河原蠶種合資會社

社員（いろは順）

飯塚豊吉
飯塚市太郎
飯塚粂太郎
塚越惠平
清水敏藏
關口賀惠
關口安太郎

（大正七年創立）

時代の要求する
理想的優良蠶種

埼玉縣兒玉郡賀美村
高崎線神保原驛より北へ三町

萩原蚕業合資會社

社員
代表者 萩原晋平
萩原通平
萩原仁平
萩原全平

（詳細は御照會を乞ふ）

祝

大日本蠶絲會第三十二回總會開會
埼玉縣蠶業試驗場創立二十五周年
埼玉縣繭検定所開所
埼玉縣繭質改善共進會開催
關東蠶種業聯盟開催

適地分場生産
優良蠶種

春蠶種 國蠶歐十六號×同支十六號 國蠶歐十九號×同支十七號
夏秋ノ部 國蠶日一一一號×同支一〇七號

埼玉縣兒玉郡藤田村宮戸

蚕種製造業 五畝館 金井總平

健實たる經營 **神桑館** 斬新なる蠶種

◎豊作は當館蠶種から

蠶作安定＝收益增進＝の鍵は？

春蠶種
黄繭 國蠶歐十六號×國蠶支十六號 其他
白繭 國蠶歐十九號×國蠶支十七號 其他
（千葉分場産）

夏秋 晩秋 蚕種 國蠶日一一一號×國蠶支一〇七號
（宮城分場産）

埼玉縣兒玉郡丹荘村大字小濱

神桑館蚕種製造所

岡野政吉

振替口座東京四八六一六番

◎先づ蠶種の撰定から

適地分場産

優良蚕種

埼玉縣兒玉郡藤田村大字宮戸

兒玉蚕種合資會社

金井國平

蠶種製造所

金井公平

適地分場製造

優良蚕種

埼玉縣兒玉郡旭村

旭蚕種合資會社

社員 鹽原濱吉

金子重平

◎育蠶統一ト繭質大改善促進

一、桑ノ收穫法ハ春期掃立稚蠶用ヨリ順次株中ノ細條ヲ選擇採取其儘給桑ス、故ニ蠶兒ノ生理ト桑ノ樹勢ノ兩要ニ適シ收穫量ヲ增シ萎縮病ヲ防止ス

二、稚蠶室ハ簡易ニ裝置シテ而モ適溫適濕ノ保溫ト換氣ノ合理化ヲナスヲ以テ桑ノ經濟ト飽食ニ叶ヒ健蠶自ラ潑剌トナル

三、蠶兒ノ健康保全ハ勿論飼育勞力大節減ヲナシ給桑朝夕二回ニシテ複雜ノ手數ヲ要セズ遺失蠶少ナキヲ以テ桑園一反步當ノ收繭量ヲ增シ從ツテ生產費ノ低減ヲナス

四、蠶兒ノ經過ハ生理的障害ヲ防止シ三十日以內ニシテ健康ニ助長比較的繭重量多シ

五、秋蠶晚秋期ト雖モ稚蠶用特定桑園ヲ設置シ每期經過日數ヲ長短シ蠶兒ノ發育順調ニシテ頗ル妙功ナリ

六、上蔟良否ハ第一齊一的健蠶ニアル、即チ蠶兒ノ熟度齊一ニ在ル是ヲ蠶兒ノ欲スル感覺ニ依リ自然的上蔟ニ因リ營繭セシムル方法是ナリ若上ゲ過熟ナク繭質繭形ニ及ボス好績推シテ知ルベシ

七、蔟中營ノ營繭迅速ニシテ能ク孤拔ト合致ス從テ解舒良、絲長ヲ著シク增加ス

埼玉縣兒玉郡本庄町四、一三八
育蠶統一高等經濟育普及會
主任　市田浪太郎
電話本庄(三六番)扱

○講習講話又ハ技術員希望ノ節ハ申越ヲ乞フ

蚕種製造業

埼玉縣兒玉郡松久村
瓜田作次郎

絶体保證

優良蚕種製造

埼玉縣秩父郡吉田町大字阿熊三九八
守岩賀甲
振替口座九七八六八

適地分場産

優良蚕種

埼玉縣兒玉郡仁手村上仁手六六

蠶種製造業

鳥羽常八

詳細は御照會を乞ふ

海岸に高原に分場蚕種

優良蚕種

埼玉縣兒玉郡神保原村（高崎線神保原驛）

關東蚕種株式會社

社員

谷川今太郎
須賀三朗
福田半衛
福田國作
金子鷲五郎
竹内直太郎
須田文吉
須田萬作
原稔松
竹内源藏
山口宣治

詳細は御照會を乞ふ

埼玉縣大里郡中瀬村

蠶種製造業

陽明館　石川政四郎

電話（中瀬〇番）

振替東京三五三五二番

天與の地に生れたる力ある蠶種

新しい品種に古い歴史

⊙委託蠶種製造部　⊙營業部
⊙豫約蠶種製造部　⊙庶務部
⊙指定蠶種製造部

（社内を五部に別ち各位の御希望に添ふ樣務めて居ります）

（詳細は庶務部宛御照會を乞ふ）

視察の順路（熊谷市より西へ三里十五丁、高崎線深谷驛より十五丁定期自動車の便あり）

大里蠶種合資會社

埼玉縣大里郡新會村・振替口座東京三二八〇八番

採種場

大里郡新會村大字新戒一、三五八番地ノ二
大里郡大寄村大字内ケ島七二五番地
大里郡新會村大字成塚二二五番地ノ二
大里部新會村大字成塚一三番地
大里郡新會村大字高島五五六番地
大里郡新會村大字新戒一、三八六番地ノ一
大里郡大寄村大字高畑七五番地
大里郡新會村大字新戒三五〇番地

社員

力丸群義
柿澤猛
川田忠三
川田信太郎
村岡庫次郎
劍持薫
木部森次郎

ル組製糸場蚕種部

蠶種採取所

熊谷市大字石原	林志一
大里郡市田村字小泉	小野澤康治
大里郡久下村字久下	齋藤信義
熊谷市大字石原	中山藤三郎
大里郡武川村田中	田中武次郎
大里郡新會村新會	劍持薫

熱と力と誠の結晶蠶種

昭和十二年

春 白繭……歐十九×支十七
　　　　　歐十八×支一〇六
　 黄繭……歐十六×支十六

秋 白繭……日一一一×支一〇七

適地分場
統制蠶種
組合供給

熊谷蠶種合資會社

埼玉縣熊谷市箱田第五〇七番地

電話九〇八番

御注文は下記へ

蠶種製造所

（いろは順）

大里郡別府村	諏訪隆二
大里郡吉岡村	松葉定吉
同　同	小林庸吉
同　男沼村	關根龍吉
同　吉岡村	大谷藤作
同　玉井村	岡部勇藏
同　吉岡村	新井半六

祝

埼玉縣大里郡八基村

共榮蠶種團（いろは順）

蠶種製造業　富田新八郎

仝　荻野英一

仝　吉岡平三郎

仝　吉岡末作

仝　吉岡重三

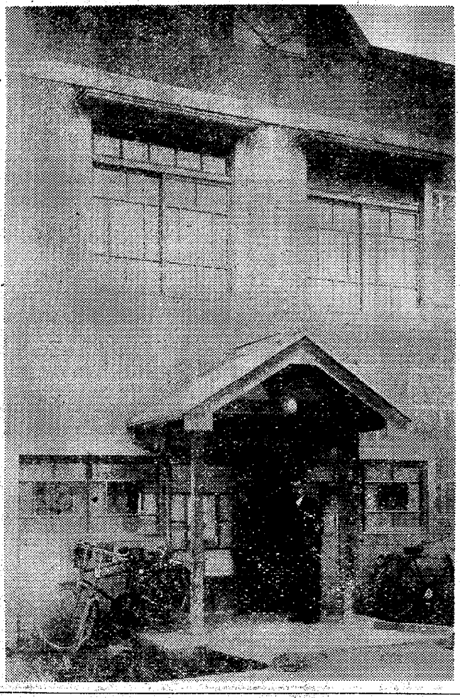
仝　栗田金作

仝　福島五郎

仝　福地仙太

資本金五萬圓

年生産額約百萬瓦



武州蠶種株式會社

埼玉縣熊谷市石原（電話三〇〇番）

製造分場（イロハ順）

熊谷市石原區上石原　石井嘉吉

大里郡御正村字押切　笠原金市

大里郡武川村字田中　田中武次郎

大里郡吉岡村字万吉　中島明

大里郡本畠村字畠山　宇野良平

大里郡花園村字小前田　芝崎鷹次郎

大里郡大麻生村字川原明戸　志村龍藏

栽培種目

大量生産

桑苗各種
造林用苗
黒軸鐵砲百合
鹿ノ子百合
草花球根類
其他各種

埼玉縣大里郡藤澤村大谷

大里農園 **小林貞一郎**

優良

春秋蚕種製造所

小野蠶種合名會社

埼玉縣兒玉郡藤田村大字小和瀬一、六八三

社員
小野文吉
小野民之助
小野作平
小野徳次

埼玉縣北埼玉郡加須町驛前

蠶種製造並
全國優良
蠶種賣買

六川商店

店主 六川健治

電話加須壹壹〇番

蠶種は自然の適地より

視察歡迎
絕對强健

宮戸蠶種合資會社

埼玉縣兒玉郡藤田村宮戸

榎本館
蠶種製造所

埼玉縣北埼玉郡大越村

野中新次

電話 大越 一六番
振替東京 二三二七番

優良蠶種製造

埼玉縣北埼玉郡大越村

山口藤平

山口貞次

山口政一

蚕種製造 精業館

埼玉縣南埼玉郡平野村大字駒崎

塚本毅一

絶對無毒強健
蠶種

天恵適地分場に於て飼育せる種繭にて製造せる普通蠶種
原蠶種澤山製造取揃置き候間多少不拘御用命の程希上候

埼玉縣北葛飾郡櫻井村椿
岩田館
館主 岩田滋郎
電話 寶珠花 一二番
振替東京四二四〇八番
電略（イ）又ハ（イハ）

⊙東武線粕壁驛下車（自動車ノ便アリ）

強健
優良
蠶種製造
石島幸吉

埼玉縣北葛飾豊田村小右工門
東北本線栗橋驛ヨリ十三町

適地分場種繭生産

優良蠶種

埼玉縣葛飾郡高野村

野本勇次郎

日光線幸手驛ヨリ七町

祝共進會

蠶種製造
桑苗販賣
業

埼玉縣幸手町

岡田角十

電話呼幸手六五番
振替口座東京壹壹六五九〇番

天下ニ誇ル日の丸號繭毛羽取機
斯界ヲリードスル親玉號稻扱機
其他動力機販賣

優良
蠶種製造

埼玉縣不動岡町

齋藤内藏之助

顯微鏡
デッキグラス
スライドグラス
沈澱管
ゴム類
販賣

須加理化器械店

熊谷市錦町（明神ウラ）
振替口座東京八八四九八番

合名會社渡邊組

代表社員 渡邊綱吉

創業 明治四十三年三月
資本金 貳百萬圓
釜數 壹千五百釜
本店 埼玉縣北足立郡與野町
九 大宮製絲所
電話大宮（一〇番 一〇〇番 五〇五番）

支店 長野縣諏訪郡長地村
㊈ 製絲所
電話岡谷 二七一三番
電話下諏訪（九番 一五九番）

支店 埼玉縣北足立郡鴻巣町
鴻巣製絲所
電話鴻巣（四一番 一四一番）

原料繭消費高 壹百萬貫
生絲製造高 八千俵
蠶種製造高 壹百五十萬瓦

祝 繭質改善共進會

川越市

石川組製絲所

川越工場

共存共榮

內容充實

丸庄製絲株式會社新家工場

埼玉縣入間郡豊岡町

熊谷

神島製絲場

電話三二〇番

埼玉縣大里郡鉢形村

竹澤製絲所

竹澤喜平

電話寄居一一六番

埼玉縣熊谷市石原七五三

新井製絲所

電話八一六

祝

埼玉縣寄居町

藤野製絲所

電話三七番

祝

東京市京橋區京橋三丁目二番地

片倉製糸紡績株式會社

片倉製糸紡績株式會社大宮製糸所

片倉製糸紡績株式會社東武製糸所

祝

東京市京橋區京橋三丁目二番地

片倉製糸紡績株式會社

片倉製糸紡績株式會社熊谷製糸所

片倉製糸紡績株式會社石原製糸所

創業明治二十三年

埼玉縣營業所　埼玉縣熊谷市石原一、七二二

電話二一一九番

生糸製造所　長野縣岡谷市岡谷五、七〇三

ル組製絲所

林　志　一

電話 三四四一　三四四二　長三四四三　ル工場

三二六一　五工場

埼玉縣熊谷市

林組製絲株式會社

熊谷製絲所

大十合資會社

電話熊谷長 六九番　三二二一番

祝

熊谷市石原

㊀小 松崎製絲所

電話三〇〇番

埼玉縣深谷町

合資會社深谷丸二製絲所

代表社員 淺原美都雄

電話深谷 五五番

埼玉縣深谷町相成町

信州岡谷

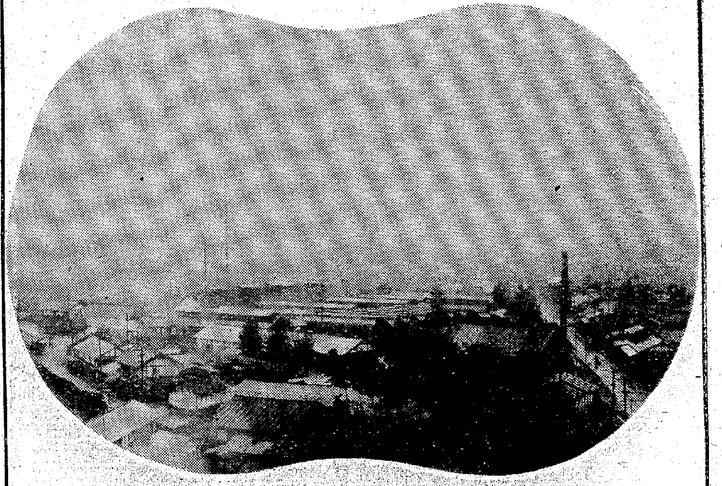
林製絲所深谷出張所

埼玉縣深谷町

Ⓜ

武藤製絲合資會社

電話（五五番
　　五〇番）　電略（ムサ）



共榮製絲株式會社

社長　澁澤治太郎

事務所　埼玉縣大里郡深谷町大字西島　電話六十三番
工場　仝　上　大字東大沼　電話百十七番

祝

糸繭買繼商
國產紙楮問屋

吉 新井商店

新井郡時

埼玉縣比企郡小川町
電話五十九番
電畧(ア)又ハ(エ)

創立昭和七年

繭絲賣買
副產物

一般取引

秩父繭絲市場

所在地 埼玉縣秩父町驛通り

取引確實丁寧

埼玉縣熊谷市

生繭賣買業　木本和吉

電話六一番

繭絲仲繼商　隈倉政之

埼玉縣秩父町

繭糸絹紡原料商

唐崎商店

埼玉縣熊谷市青物町

電話二〇三番

電略（カラ）又ハ（カ）

生絲問屋

深谷郵便局私書函第拾壹號

キ

木村一郎商店

埼玉縣深谷町一〇〇

電話一二五番

木村商店織物工場

深谷町西島三丁目

祝

大日本蠶絲會

埼玉縣大里郡寄居町

株式會社 寄居繭絲商會

乾繭取引市場部

電話寄居四十九番

祝

埼玉縣繭絲同業組合寄居區

區長 大谷錄太郎
電話寄居二十四番

副區長 市川龍作

仝 權田榮次

祝

市日（四、九日）

埼玉縣寄居町

曾根繭絲株式會社
電話寄居四十二番

寄居繭絲取引市場
電話寄居四十二番

繭絲絹紡原料商

埼玉縣大里郡妻沼町

内田市次郎

電話三一番

繭絲絹紡原料商

埼玉縣熊谷市彌生町

(西)

西田竹治

電話九一三番

熊谷市彌生町

繭絲
副產商

神田萬次郎

電話六七壹呼

埼玉縣熊谷市

繭絲
問屋

保

栗原保三商店

電話六〇三番
電略（ク）又ハ（クリ）

日本銀行指定

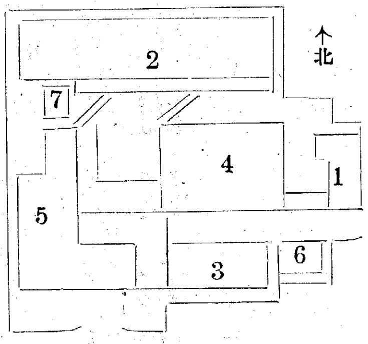
西武農蠶倉庫株式會社

埼玉縣深谷町（電話一四七番）

一般貨物ノ保管
生繭乾燥（アドソール共立式乾繭裝置）
繭糸市場ノ經營
右ニ關聯スル諸營業
農產物ノ委託販賣
代理店
東京海上火災保險株式會社
帝國生命保險株式會社

設備極メテ便利
取扱ヒ頗ル親切
料金安價

當倉庫ノ三大持長



當會社畧圖

1 事務所
2 煉瓦造總三階建倉庫
3 煉瓦造平屋建倉庫
貨物收容能力
干繭一萬二千石
雜貨二千噸
4 生繭取引市場
5 生繭乾燥場
6 物置
7 アドソール機械室

埼玉縣羽生町

花屋號

繭絲
屑物

中田長太郎商店

電話羽生二四七番

繭絲紡績原料商

小倉商店

繭絲紡績原料商

島田福藏商店

祝共進會

熊谷市

諸機械モートル
製造販賣

中屋機械店

電話四三九番

專賣特許實用新案十五件合成!!

⊙躍進日本に!!

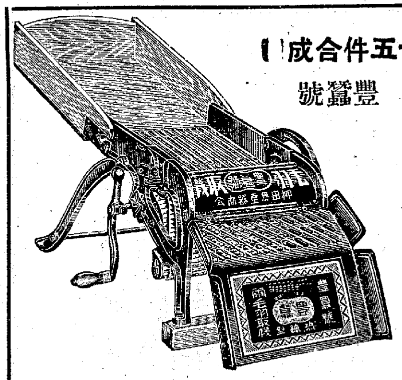
⊙輝く毛羽取機!!

機構

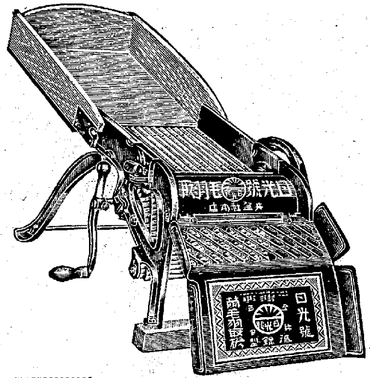
能率

世界に

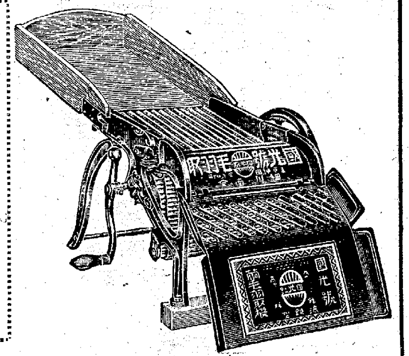
冠たる



豐蠶號



日光號



國光號

豐蠶號發賣元 神奈川縣厚木町 柳田農蠶器商會 電話厚木長四七番

日光號發賣元 群馬縣館林町 共益社本店 電話館林長一五〇

國光號發賣元 東京市神田區三崎町 細川商會 電話九段二七二一番

製作所 三浦一元工場

農林省御奬勵

埼玉縣御指定

專賣特許 日の出式完全製繩機

新案登錄 片山式藺毛羽取機

製造元 片山製作所

埼玉縣川越市

電話川越 八五二番 五二二番

振替東京七〇三七三番

實用新案特許第一一九六三八號落合式換氣裝置付紙帳

◎應用空氣調整裝置

紙帳各種
◎密閉裝置
◎適濕裝置
乾燥、暖室、冷室
養蠶室、アドソール應用上簇室、繭、其他農產物、海產物、乾燥、穀物燻蒸貯藏、濕潤、黴害防止、各工場、病院、各家庭、防寒室圍、各季寢室圍、呼吸器病室圍

防水紙天幕各種　桑、茶、其他霜害豫防覆幕用、壯蠶屋外條桑育用、葉煙草乾燥用、苗床覆(フレーム)用

防濕紙製袋各種　乾繭、其他乾燥物、濕潤、黴害、防止貯藏用

意匠登錄第六五一五一號美術浮出模様紙　壁紙、襖紙、天井又ハ敷紙、其他裝飾用

質物包紙　純和紙　各種

最優等名譽賞金牌　全國紙業博覽會
褒賞　第二回化學工業博覽會
褒賞　山形市全國產業博覽會
一等賞　埼玉縣小川製紙同業組合製紙競技會
有功賞牌　大禮記念國產振興東京博覽會
優賞　大日本蠶糸會昭和共進會
優賞　關東府縣聯合副業共進會
優賞　大日本蠶糸會茨城支會蠶糸品評會
賜感謝狀　朝鮮博覽會

諸紙類製造
各種加工紙蠶具

埼玉縣比企郡竹澤村大字勝呂三三四

商標 ⟨久⟩

落合辰五郎製紙所

振替東京一三一五八五番
電略(ヤマク)又ハ(オチ)

⊙特約販賣希望者募集

祝共進會

優良蠶種ノ散卵撒布器生ル

株式會社
本庄蠶種冷藏庫
小野式散卵撒布器使用實況

小野式散卵撒布器御進!!

近時蠶糸業發達ト共ニ散卵蠶種トナリ催靑容器ニ收用ノ場合ハ從來羽箒ヲ使用セシモ

小野式散卵撒布器ヲ使用スル時ハ五秒時間ニテ至極平均ニ撒布シ得ル最モ理想的器具ナリ

使用法

本器ヲ催靑容器ノ上ニ戴セ漏斗ヘ蠶種ヲ入ル、ヲ以テ足レリ

(小野式散卵撒布器發賣元)
(三菱蠶卵臺紙特約店)

埼玉縣本庄町

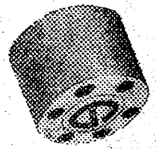
蠶具ト蠶種

黑岩蠶具店

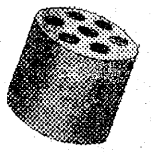
電話 二四六呼
電略(クロ)又ハ(ク)

養蠶用

實用新案特許二〇五四四八號



マルノ印



特徴

無煙無臭　火持長く

急速着火　火力強し

フコクレンタン

富國煉炭

印の商標を必す下向く

御使用を願ひます

たき落して七寸煉炭が直ちに着火いたします

富國燃料株式會社

工場　埼玉縣本庄驛前　電話本庄一一二番

本社　東京市淀橋區角筈一ノ七三四　電話四谷四五九〇番

日の丸號繭毛羽取機

各種動力農具

縣下代理店

小林商會本店

埼玉縣鴻巣町元市町

電話二五〇番

振替東京一三〇三九一番

養蠶具

疊表紙荒物

原田福太郎商店

熊谷市筑波町一ノ角

電話四四三番

振替東京一〇九四八二番

登録商標

三ツ駒

化學ノ力　火力　火持　無煙

無臭　使ツテ安全　養蠶ニ最適

各位ノ推奨

埼玉縣北埼玉郡須加村

三ッ駒煉炭製造販賣所

新槇商店

電話荒木一四

公債　株式　現物　商品　賣買　繭絲　製綿

丸上商會加須支店

鳥海商店

埼玉縣加須町

電話一四五番

クボタ石輕油發動機
富士石油發動機
トバタ石油發動機

縣下代理店

龍虎號ロール籾摺機
チヨダ式動力用脱穀機
岩田式籾摺機
山宮式動力用脱穀機
西島式ヒユガルポンプ

一手特約

埼玉縣北足立郡大宮町櫻木町川越新道

武井機械商店

振替口座東京一二二五一五

千代田生命保險相互會社鴻巢代理店

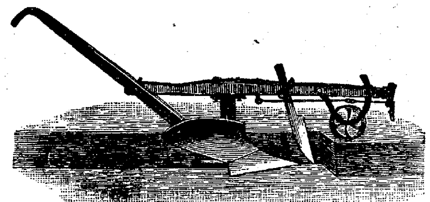
米穀
肥料

三須登商店

高崎線北本宿驛前

吉田犂

反轉機の安定共に絶好輕快にして牽曳抵抗少し主要部鋼鐵にて耐久力あり



埼玉縣上尾町字向山

吉田農具製作所本店

營業概目
吉田犂
及車萬鍬
人力中耕器
芝刈器
澱粉製造器
モグラ捕器
其他
農具器械

自製並ニ各地製産　優良木炭全國販賣問屋

塚原養蠶實行組合長

飯野石松

埼玉縣兒玉郡秋平村塚原

◎養蠶實行組合其他團体の共同購入の節は御一報下され度
特に御相談に應ず可く候

1937年型

農具界ノ花形

自動脫穀機

時代來ル

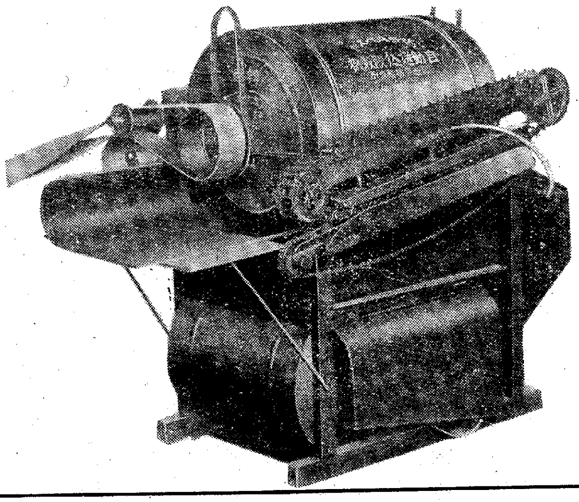
埼玉 群馬 代理店

埼玉縣深谷町

寺田商會

電話三九番呼

ベスト自動脫穀機



日毎日立つ土肥素の効果

行詰れる 今こそ！

目覺よ農村

農業 再檢討の秋

土肥素によつて自力更生

專賣特許 土肥素 肥料製造法

貴方の田畑は

△酸性化してはゐませんか？
△農作物に虫がついてゐませんか？
△麥や蔬菜立枯にかゝりませんか？
△桑の萎縮病に惱んではゐませんか？
△稻は肥え負して倒れてはゐませんか？
△肥料代に困つてはゐませんか？

●くわしい事は下記へお尋ね下さい●

林組製絲株式會社の姉妹會社

賜 宮林署 内匠寮　埼玉縣 群馬縣 長野縣 總發賣元

山一商店

埼玉縣熊谷市　電長 六九 三二二

◉定價表　（約一反歩使用）◉

農作用……1.50……米糠 大豆粕 油粕 魚粕 鷄糞人糞尿等
堆肥用……1.50……堆肥 廐肥 綠肥等
園藝用……2.00……溫室 フレーム 特種果實等
便所用…… 56……便所專用

創立明治十一年

資本金　參百六拾五萬圓
諸準備金　參百五拾八萬余圓
縣下支店　九ヶ所

川越市南町

株式會社　第八十五銀行

電話川越八〇番・四七〇番

取締役頭取　山崎嘉七
常務取締役　淺野拾治
取締役　綾部利右衛門
同　山田房吉
同　新井保次郎
監査役　菅間正作
同　伊藤長三郎

當行の方針

經營の堅實
內容の充實
業務の誠實

諸代理店

日本銀行各地代理店
日本勸業銀行
日本興業銀行
北海道拓殖銀行
川越市金庫

資本金　八百貳拾九萬圓
積立金　貳百五萬圓
總預金　五千五百萬圓

埼玉縣本金庫
日本銀行代理店
東京手形交換所加盟

浦和市

株式會社　武州銀行

電話浦和　三、三二一番　三、三二二番　三、三二三番　三、三二四番

役員

頭取　永田甚之助
副頭取　尾高豊作
常務取締役　柴田愛藏
取締役　繁田武平　監査役　石坂養平
同　大川鐵雄　同　原鐵五郎
同　松本眞平　同　岡田健次郎
同　小林辰藏　同　渡邊湜
同　齋藤善八　同　森田熊吉
同　宮下林平

支店所在地

（埼玉縣內）川口支店、蕨支店、與野支店、大宮支店、岩槻支店、粕壁支店、幸手支店、草加支店、熊谷支店、筑波町出張所、妻沼支店、本庄支店、兒玉支店、川越支店、入間川支店、豊岡支店、松山支店

（東京市）東京支店、京橋支店、日本橋支店、板橋支店、千住支店、池袋出張所

株式會社忍商業銀行

埼玉縣忍町行田

電話行田 三五番 一三五番 一七七番

時計

印章

眼鏡

埼玉縣大宮町

小松堂時計店

電話三二七番

振替東京九〇二三三番

靴ハ鴻巣並木

埼玉縣鴻巣町

並木製靴本店

電話二〇一番

高級品
總ゴム靴
總革靴
運動靴
製造販賣

金盃護謨製造所

小鮒靴店

熊谷市本町三丁目
電話八一九番
振替東京七五五一〇番

熊谷市仲町

洋服
洋品
呉服

株式會社 八木橋呉服店

電話 三十五
　　 三百五十番

熊谷市本町一丁目

茂木紙商店

電話三十三番

祝

小川無盡株式會社

埼玉比企郡小川町

和紙及諸原料
障子紙黄蜀葵
名刺便箋端書
封筒巻紙其他
注文紙一般加工共
細川紙各種

保證責任 小川紙業信用販賣購買利用組合

電話小川七九番
振替東京四二二〇〇番

組合長 横川禎三
專務理事 岩田博
理事 青木石五郎

祝

緋染専問

木村茂三郎

埼玉縣比企郡小川町（電話小川一八）

浦和市驛前

印刷一般

株式會社 星野印刷所

電話浦和二、二〇三番

川越市新田町

各種印刷

株式會社

青山印刷所

電話川越三二一番
振替東京五〇九七三番

活版印刷
洋式帳簿
荷札製造
罫引製本
オフセット印刷

活版印刷から洋式帳簿製造荷札及罫引製本と平版印刷までの綜合印刷工場として具備して居ります弊所へ　印刷物の御用命を…………

プラス帳簿發賣元

今津印刷所

埼玉縣忍町行田
電話行田四五番

浦和市縣廳前

書籍雜誌
各種文房具
諸官署御用
事務用品一切

文華堂本店

電話 浦和 二〇三五番
振替東京 一三五四二番

文化は印刷から！

アラユル印刷の御用命を

雄文閣へ

埼玉縣熊谷市

電話九〇八番
振替東京九二七七四番

蠶糸業關係圖書
一般文房具販賣

杉浦書店

熊谷市本町一丁目
電話熊谷八七二

五家寶本舗 水戸屋

店主 水野朝一

熊谷工場 埼玉縣熊谷市石原
大宮工場 埼玉縣大宮町仲町

電話（熊谷）一二一・三一八
（大宮）六三七

撰替東京四四六一一

添ふて嬉しい初丸髷に
翁羊かん里みやげ

埼玉縣深谷町

深谷名物 翁羊羹本舗

糸屋製菓店

電話一六七番

埼玉縣熊谷市本町一丁目
洋菓パン清華堂商店

陸軍御用 里見膳

電話熊谷三番
振替東京一〇〇一六七番

營業品目

とり印平麥　たい印平麥　二福印平麥
ツル印平麥　挽割麥　武藏搗麥
養鷄養豚牛馬等ノ飼料用各種麥糠類

武藏精米精麥株式會社

社長　松本眞平
常務取締役　清水藤左門

埼玉縣熊谷市錦町
電話二七〇番
發信電略(ム)又ハ(ムサシ)
受信電略(クマガヤムサシ)

粉は七福

本社　東京市麴町區丸ノ内二ノ六(八重洲ビル五階)
電話丸ノ内(23)自四六四〇番 至四六四二番
支店　名古屋市西區鹽町二丁目二番地
電話西　六八一・六八二・九三三・三八五六番

日東製粉株式會社

熊谷工場　熊谷市驛前　(電話熊谷　三九・二三六番)
千葉工場　千葉市新町　(電話千葉一五五・四八八番)
木崎工場　群馬縣木崎驛前　(電話尾島　二二・四一番)
名古屋工場　名古屋市西區鹽町　(電話　西　六八一番)
日東製粉股份有限公司　滿洲國新京住吉町三ノ二

製茶海苔問屋

叶

小此木眞三郎商店

熊谷市本町一丁目

電話二一七番

海産物乾物
和洋酒罐詰　食料品問屋
洋食器

合名會社 長崎屋商店

埼玉縣熊谷市本町一丁目
電話（三〇番（海産部）
　　（五四番（食料品部）

東京店　東京市下谷區入谷町三四八番地
電話根岸（87）一一六二番

寄居店　埼玉縣寄居町本町
電話寄居七三番

關東酒類品評會 名譽賞受領

東京酒類商組合品評會
埼玉縣酒類品評會 優等賞受領

賜御大典饗饌酒之光榮

第三回關東酒類醬油品評會優等賞金牌受領
第四回關東酒類醬油品評會一等賞銀牌受領
第五回關東酒類醬油品評會優等賞金牌受領
第六回全國酒類醬油品評會一等賞銀牌受領
第七回全國酒類醬油品評會一等賞銀牌受領
第七回關東酒類品評會一等優賞板受領
平和記念東京博覽會褒狀受領
第九回關東酒類品評會優等賞受領
埼玉縣清酒品評會優等賞受領

武州比企郡小川町

銘酒**力石**醸造元

細川三太郎

(電話三二番)

名譽賞

銘酒

晴雲正宗

埼玉縣小川町

醸造元

中山德太郎

電話五十五番

酒界の王座全國品評會の逸品

ミカドマツ

全國品評會優等賞受領
關東酒類品評會最高名譽賞受領
東京酒類商組合品評會名譽賞受領
埼玉縣酒類品評會最高知事賞受領

釀造元
埼玉縣比企郡大河村
松岡九平治釀造場
電話小川二九番

第三回
關東酒類醤油品評會優等賞受領
第六回
關東酒類醤油品評會優等賞受領
第八回
關東酒類醤油品評會優等賞受領
關東酒類醤油品評會最高名譽賞受領
全國酒類醤油品評會一等賞受領

關東酒類品評會優等賞

酒界最高標準品

登録商標

優等賞

敷島盛

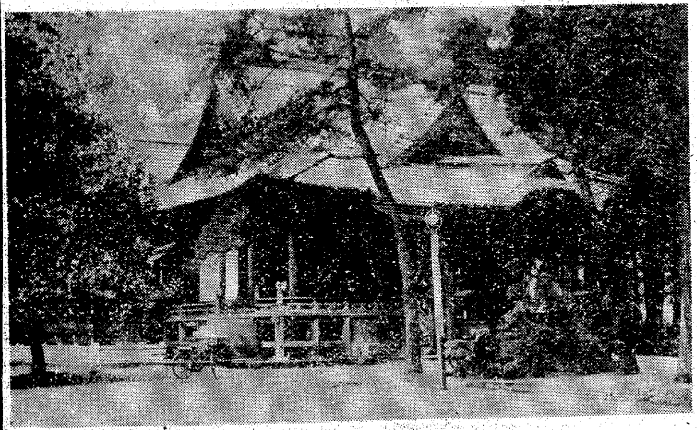
座上春風
億萬年

シキシマザカリ

埼玉縣松山町

小林太一郎釀

養蠶倍盛　商賣繁榮



四海に轟く
開運の神

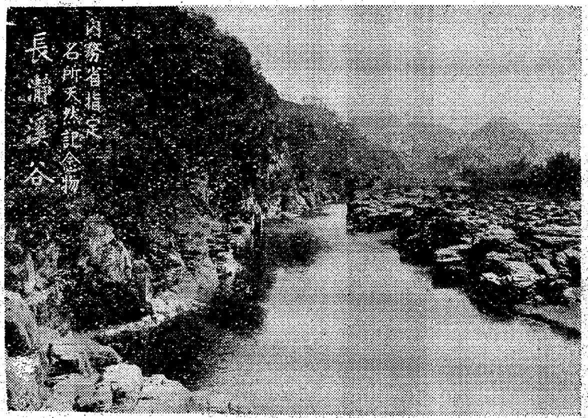
箭弓稲荷神社

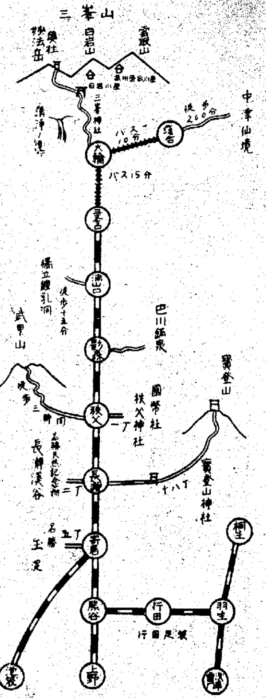
電話松山一〇四番

武州松山町（東上線武州松山驛下車）

◇箭弓稲荷講々員を募る

（詳細は御照會を乞ふ）

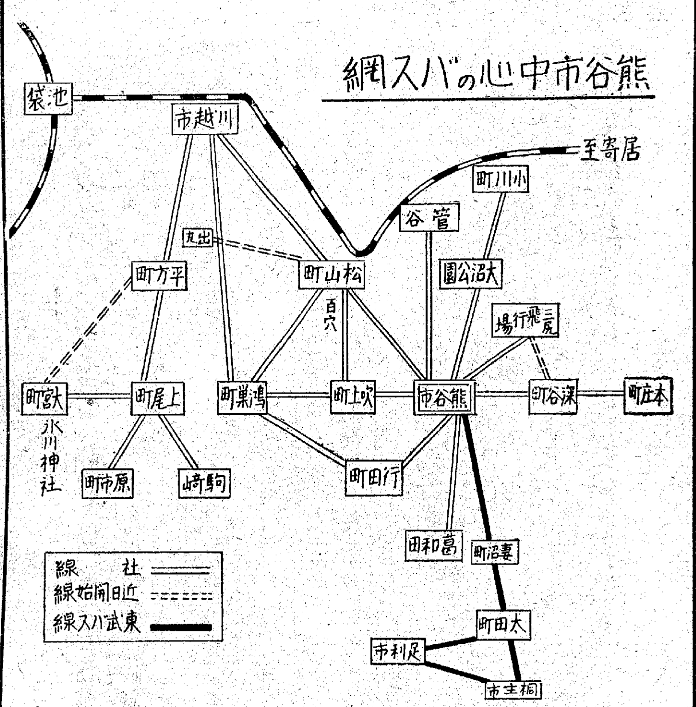




奥秩父と長瀞遊覧

◆内務省指定
★名所天然記念物★
◆長瀞溪谷◆

熊谷市中心のバス網



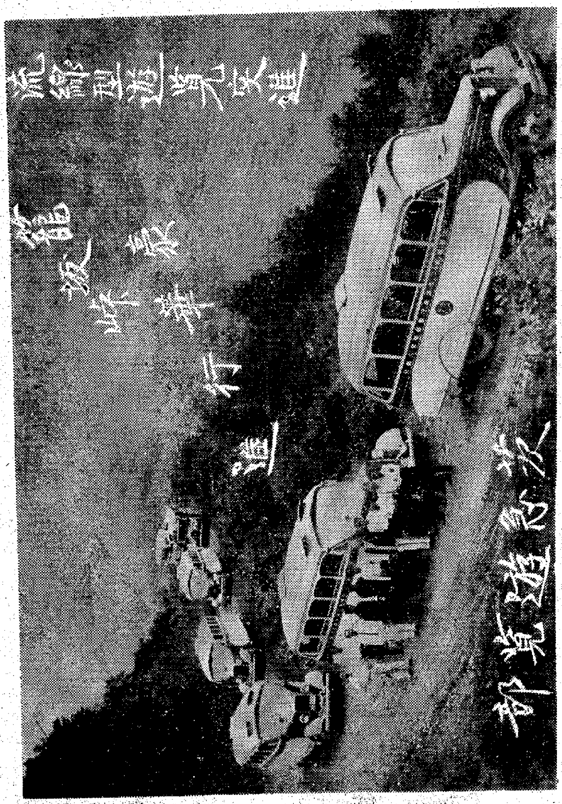
熊谷市

乗合遊覧貸切

埼玉自動車株式會社

電話三四八番四一八番

四季の御遊覽ピクニック又は名所舊蹟御視察には是非當社遊覽車を御利用下さい



大型自動車十六臺ヲ備付

茨城急行自動車株式會社

電話
境 五九
下妻 一一七
杉戸 六七

埼玉縣熊谷市驛前

名物水戸屋五家寶本家

喫茶
食堂

秋山亭本店

料理部 電話熊谷二十八番
辨當部 電話二十八番連接

武州熊谷

祝 共進會

熊谷割烹店案内

【いろは順】

所在	店名	電話
文化町	ホテイ軒	電話四七一
本町	鳥代	電話二七九
本町	川上	電話一六二
驛前	金子庵	電話三五四
文化町	吉川	電話二〇六
石原	田仙	電話一〇〇
辨天町	やなせ	電話一〇八
竹町	八百傳	電話一四六
辨天町	万梅	電話五七七
驛前	松本亭	電話六五六
鎌倉町	桝屋	電話三五一
彌生町	文の家	電話三四九
櫻堤下	新井屋別館	電話九〇二
文化町	あづま	電話七四四
辨天町	清の家	電話一〇三
彌生町	清川	電話五一
石原	京家	電話四二
彌生町	喜泉	電話六三八

花の熊谷

所在	店名	電話
文化町	高砂	
櫻堤下	中島亭	電話二七五
墨江町	中川亭	電話五二四
辨天町	魚かつ	電話七九・五六六
櫻堤下	梅ぞの	電話五四九
本町	小泉	電話一三三
文化町	小柳	電話八四六
泉町	エビス軒	電話三七五
驛前	秋山本店	電話二八
驛前	新井屋本店	電話一三六
辨天町	松泉閣	電話四・一四五
辨天町	廣川	電話一〇七
本町	清氣庵	電話三三九
文化町	鈴木亭	
文化町	浦島	電話六四八

埼玉縣熊谷市驛前

喫茶
食堂

新井屋本店

電話一三六番

熊谷市本町

今井旅館

電話 特長九番
五六三番

熊谷市熊谷寺前

旅館田島屋

電話長十五番

御料理

仕出し

新舘落成大廣門

龜屋

埼玉縣不動岡町

電話加須五六番

川魚御料理

埼玉縣加須町

釜虎商店

電話加須一一七番

熊谷市本町三丁目

第一師團指定旅館
鐵道省指定旅館
遞信省指定旅館
專賣局指定旅館

松坂屋旅館

電話 六十二番
長 六十五番

早く・良く・廉く

高崎市九藏町一〇三（電話三四〇番 振替東京八五五二五）

精眞社印刷所

吉田吉次郎

印刷工場 高崎市末廣町三二四 前橋新道信越線踏切際

早く・良く・廉く

祝

大日本蠶絲會總會
大日本蠶絲會埼玉支會共進會

横濱生糸問屋業組合

蠶種

松本市蠶玉町

片倉製絲紡績株式會社

一代交配蠶種普及團

片倉蠶業試驗所

片倉生命保險株式會社

東京京橋片倉ビル

取締役社長　今井五介

專務取締役　片倉五郎

片倉經營

富國火災海上保險株式會社

東京京橋片倉ビル

取締役社長　山本宗三郎

專務取締役　片倉耕介

鐘淵紡績株式會社新町工場

群馬縣新町

電高崎四五〇番

飯島製絲工場

茨城縣古河町

株式會社 東英社

長野縣諏訪郡湖南村

電話
岡谷 二、五九七番
上諏訪 五五三番
一 五五四番
湖南 一四番

祝共進會

長野縣岡谷市

吉 高木製糸場

電話代表岡谷三四三一番

埼玉縣深谷町

吉 高木製糸場埼玉縣出張所

長野縣諏訪郡川岸村

ヿ二 組製絲所

電話岡谷二〇五三番三〇一三番

電信略號（カネニ）又ハ（カ）

小松小一郎

東京市足立區千住旭町（北千住驛東口前）

ヿ二 組東京支店

電話浅草一七八〇番

宮城縣小牛田驛前

ヿ二 組小牛田支店

電話小牛田三一番

岡谷市
丸興製絲株式會社
電話代表三四五六

長野縣岡谷市小口
㋣笠原組製絲所
電話岡谷(代表)三五三八番

京都府何鹿郡綾部町

郡是製糸株式會社

資本金　壹百五拾萬圓
創業　明治二十八年
總釜數　九百釜

西川製絲株式會社

本社中神工場　東京府北多摩郡昭和村中神
電話　立川一〇三番
昭和六番
八王子工場　八王子市外元八王子村
電話八王子一、三四三番

蠶種製造高壹百萬瓩
農林大臣認可自治檢查施行
分場地伊豆七島健産地
東京府北多摩郡昭和村
電話昭和六番

長野縣東筑摩郡筑摩地村

大 合名會社 青木製絲所

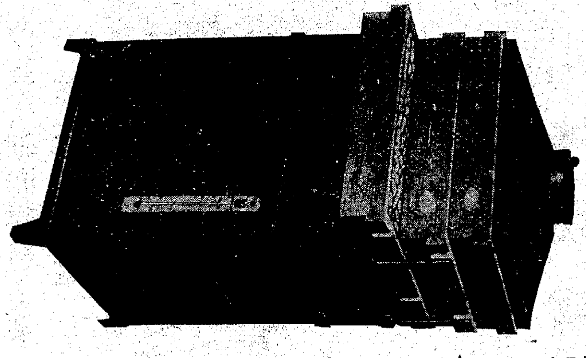
電畧（フサ）又（アヲキ）

電話 長 小野 四 岡谷 二四三五

祝

昭榮製絲株式會社小山工場

栃木縣下都賀郡小山町



護れ蠶繭絶せ蠁蛆

營業品目

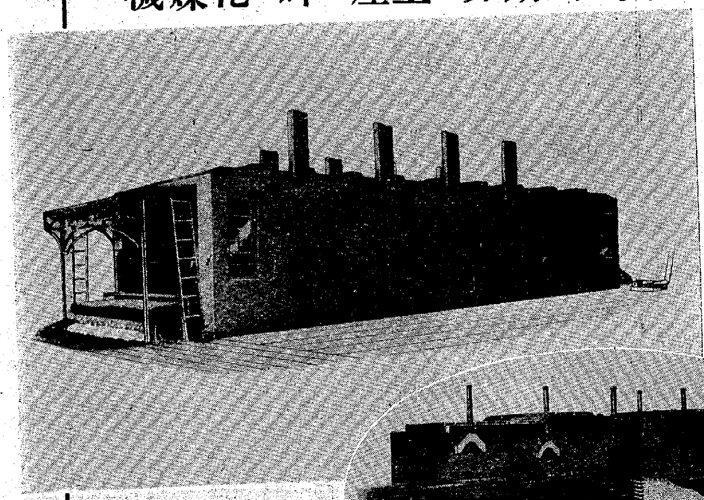
特許大和式自動乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまと式ホイロ
特許大和式自動還元機
特許アイエムコールセンダー
特許サンコー式濾過裝置
特許サンコー式吸熱器
特許サンコー式高壓ボンプ
特許サンコー式スチームトラップ
各種乾燥機設計製作販賣
(品目記入御申越次第型錄贈呈)

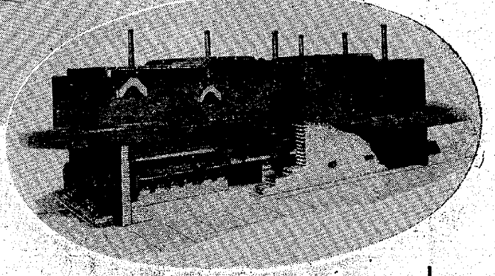
特許やまとホイロ

東京京橋 **大和三光**

乾燥學界の權威小松豊作先生御指導

名實共に斯界の王座に輝く乾燥機





創業 貳拾五年

据付台數參千台

特許 田端式乾燥機
特許 帶川式乾燥機
特許 小松式乾燥機
特許 TB式織維及紡織用乾燥機

東京市瀧野川區上中里町二九八(省線上中里驛向)

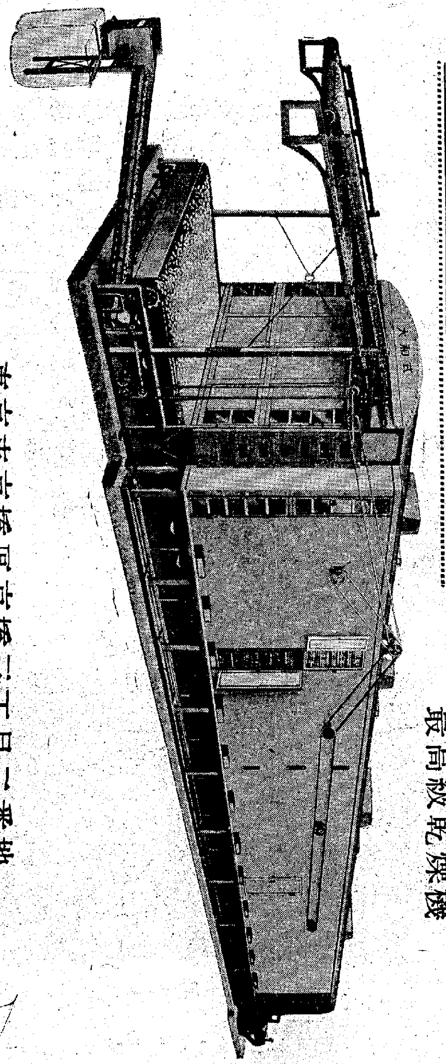
日本乾燥機株式會社

工場 田端鐵工場・池袋金網工場

電話 小石川 九三七番 (王子)二八六二番

特許 大和式自動輸送乾燥機

全國採用臺數第一位
最高級乾燥機



東京市京橋區京橋三丁目二番地
株式會社 大和三光商會
電話 本社 京橋五三〇〇番 五三二〇番
工場 本所 〇三五一番

確立セル多條機ノ生命線

増澤式多條機械
絲條張力ニ依ラザル完全ナル
増澤式自働切斷止裝置
接緒類ヲ生セズ効率完全ナル
増澤式回轉接緒器
高速回轉ニ耐ヘ永久性アル
特殊考案機構

絲歩能率ノ合理的增進ニ

MO型煮繭機

研究部ニ機械科ヲ新設シ更ニ完備シタル一貫セル研究ヲ遂行シテ皆様ノ御引立ヲ御待チイタシテオリマス。

合資會社 增澤商店

本店 岡谷市
支店 東京・名古屋・上海
工場 東京 名古屋、深川・松本・岡谷
研究部 岡谷

製糸機械工事設計請負
大宗式二十條繰糸機
大宗式十條繰糸機
大宗式煮繭機
生糸檢査機一式

前橋市向町百〇五番地

平山製作所

平山宇市

電話一八五番

織田式煮繭機
織田式立繰機發賣
生絲檢査機械

東京市京橋區入船町三ノ五

合資會社 **宇野商店**

電話京橋六四八六番

營業品目

生絲檢査用諸機械

製糸用諸器械

計量機一般

農林省生絲檢査所指定

セリプレーン機及其附屬品

水分檢査乾燥機

綛檢査照明器

一手販賣

横濱 吉野商店

横濱市中區北仲通三ノ三四

電話本局六一一六五

斯界の覇者

特許

織田式立繰製絲機械

織田式煮繭機

⊙絲格絲量及能率の綜合点即ち採算の滿点は獨り本機のみ

⊙最早斯業の改善發展は本機に依るの外なし

製造發賣元

織田商會

東京市小石川區高田豐川町五八番地

電話牛込一五一八番

特許千葉式自動滲透煮繭機

東京市本所區菊川三丁目七番地

合資會社 千葉製作所

電話本所 二二三二番

振替口座東京五四一四二番

片倉米穀肥料株式會社

東京 東京市京橋區片倉ビル營業所

東京市深川區佐賀町營業所

大阪 尼崎市西高洲營業所

大分 大分驛南營業所

鹿兒島 鹿兒島市小川町營業所

京城 京城府大平通營業所

鹽釜 宮城縣鹽釜港營業所

(片)印配合各種桑肥料並に一般各種肥料

農蠶村の更生肥料！

石灰窒素

◎標語三題

（一）大豆粕又は魚肥の如き割高の肥料に依賴せる農業は生産の基礎極めて薄弱である。

（二）現代の深刻化せる農蠶村の困憊は安價にして効能多き合理的肥料の選擇に甦る。

（三）稻に効き麥に適する石灰窒素は桑樹其他の作物にも亦絶對の偉効を認めらる。

▼荷　造……紙袋入正味六貫匁

▼成　分（百分中）……保證窒素……二〇－二二〇〇／有効石灰……六〇－七〇〇／含有炭素……一八－二〇〇

全國石灰窒素共販組合

東京市日本橋區呉服橋三丁目七番地

（東京建物ビル五階）電話日本橋（34）長三、八二〇／三、八二一

蠶病消毒の合理化

クライト

日英米專賣特許

（説明書郵呈）

インフレ來る

諸物價の騰貴！絹絲の騰貴！昇汞、フォルマリンの暴騰に際し蠶室に！蠶具に！一切の蠶病に！唯卓効至廉のクライトを斯くて蠶業界の大福音は來る！

効　力

白　殭　菌－絶滅には－一萬倍液十分間にて

蛾の軟化病菌－絶滅には－三百倍液六十分間にて卅三倍フォルマリン液四時間にて

微粒子病菌－絶滅には－五百倍液十分間にて、千倍液三十分間にて

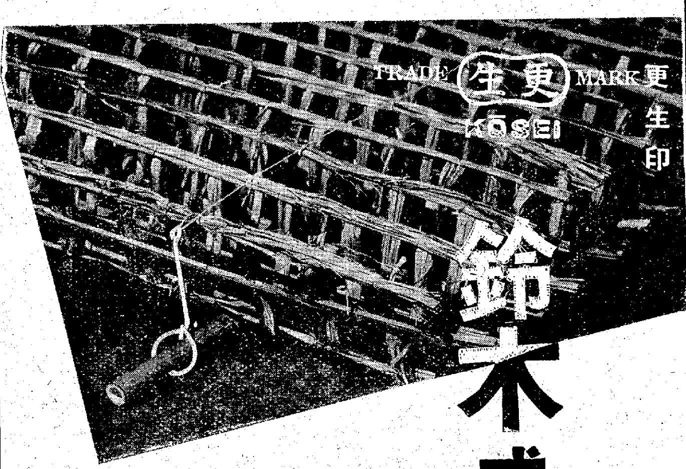
特　長

●蠶兒蛹蛾卵に無害●金屬をいためず●使用法簡易

東京市日本橋區本町三丁目

發賣元　**里村三治商店**

電話日本橋七四四番三七一八番・振替東京二五六五番



鈴木式マブシ整形器

正價（廣島渡し）
一組ニ付（糸共）金貳錢
二百組ニ付二本宛
糸附用間隔器添付

最少の支出で最大の利益を得て頂ける經濟的實用的なカタメです是非多少に拘らず御使用下さい

●價格は他式の三分一半額
●上蔟期に即座に間に合ふ
●古マブシも新品同様となる
●一度取付ければマブシ一代取り外さず共使用出來る

實績の上る迄責任を以て努力致します

製蔟用
特製 更生印 亞鉛引鐵線

從來の針金の缺點を一掃した軟かく粘り强い、メッキの好い然も安い更生印針金で好いマブシを樂々と製造して下さい

各地試驗場、製絲會社の試驗に於て革命的好成績を上げた、普通蔟狀態優良なる、更生印滿田式横繭マブシの製造を開始致しました、詳細御照會下さい

製造發賣元 穐村蠶具商事株式會社
大阪市南區長堀橋筋一丁目
電話 南 三四三三番
南 六〇二二番
出張所 豐橋市吉田町 電五三五八番
蠶具工場 廣島市横川町

實用新案登錄第一九七三三四號

帝國發明協會表彰優等賞
帝國發明協會表彰良等賞
第四回發明博覽會有功章
全國蠶具共進會金牌
受領

專賣特許二種
實用新案五〇二種
發明創業元祖
登錄商標三種

自然上蔟發明器具
池下式マブシカタメ

片倉製糸
郡是製糸
鐘紡製糸
全乾聯
の
所屬特約養蠶組合へ統制的に使用せしめて偉大なる効果を擧げられつゝあり
品質、機構に於て絶對信用ある責任保證品

實用新案登錄 第二一一四四三號 第二一四六一九號 第二一四六二〇號 應用

大日本農機具協會推奨品

池下式製蔟器

製蔟器 藁巻機 一切金拾参圓

●多數注文割引あり
●御申越によりカタログ進呈

製造販賣元

池下式蔟器製作所

本社 愛媛縣宇和島市朝日町 電話 二六五 三〇二
出張所 東京市小石川區大塚仲町四一 電話大塚 四一〇八

本製蔟器の特色

▼從來のマブシ製造器の有する欠点を除き＝二ケ年間愛媛縣蠶業試驗場に於て使用試驗を經た證明附の優良品であります
▼運轉極めて輕く＝力がいらぬ＝十歳の少年七十歳の老年でも一人一台＝面白く練習せずとも直ぐにU字形角目の美しき堅牢なマブシが作れます＝一週間もたてば自然に熟練して＝一日三十枚位作れる様になります
▼原料は藁と細い針金又は木綿糸です
▼原料代は「二十一山」一枚分一錢五厘内外です

適熟蠶自然上蔟・懸垂空間上蔟自由自在

上蔟改良の必須の器具

文化農報社の

マブシカタメ

特許 文農式・池下式・渡邊式・文化波形式・螺旋式其他

誰にでも簡單に製作出來る特長の

新發賣品 **文化製蔟機**

養蠶家各一戸一臺必ず備へられよ

品質優秀 製作法進步 價格低廉

繭質は如何に改善されるか

繭の形が揃ひ＝繭層の厚薄が平均し＝屑繭玉繭が殆ど無くなるから＝精繭量が增加し解舒が非常に良くなつて絲質が優良化し＝繭量に對する生絲が大に多量になる

【說明書進呈】 【特約店募集】

上蔟改良になくてはならぬ尿受紙

專賣特許 **文化上蔟紙發賣**

防乾紙、蠶座紙、掃立紙兼用

發賣元 蔟固メ元祖 株式會社 **文化農報社**

本社 東京市麴町區丸ノ內（興銀ビル） 電話丸ノ內二四三一・二四三二

支社 大阪市東區高麗橋（第一銀ビル） 電話 北濱 六〇六一・六〇六八

獨佛硫酸加里 四八%

獨佛鹽化加里 六〇%

トロナ鹽化加里 六〇%

大日本加里株式會社 農業部

印刷物無代贈呈

東京丸之內帝國生命館

農業部支部

神戸支部	神戸市神戸區明石町明海ビルヂング
仙臺支部	仙臺市東二番町日本動產火災ビルヂング
九州支部	熊本市練兵町早野ビルヂング
北海道支部	札幌市北二條西三丁目帝國生命館
朝鮮支部	京城府南大門通五丁目日華ビルヂング
臺灣支部	高雄市湊町一丁目廿一番地

埼玉縣養蠶業組合聯合會御指定機

實用新案登録一八件應用

日の丸號　登録商標　繭毛羽取機

本機の榮譽

金牌受領茨城縣全國蠶具類共進會
銀牌受領兵庫縣全國農具共進會
農林省蠶業試驗場御買上
石川縣立農事試驗場比較審査第一位入選
有効賞受領第四回全國發明品博覽會

大日本農機具協會指定機日の丸號末廣型

本機の主なる特長

◆他に比類なき三枚ベルトの為め能率他式に倍す
◆本機獨特のベルトと羽口板とに依り絶對に繭口を引出さず
◆最新の品種の繭に最も適當なる機械の構造を有す
◆本機にて取れたる毛羽は一般家庭用に又紡績原料として高價なり

製造發賣元　笠井兄弟商店　電話根岸三四一三番
東京市下谷區坂本町一ノ四

日の本式製蔟機の二大榮譽

優等賞金牌受領　於昭和十年五月八日　帝國發明協會表彰
首席金牌受領　於昭和八年十一月四日　茨城縣主催全國蠶具類共進會

上蔟改善の核心は
日の本マブシの使用に在り

專賣特許
日の本式製蔟機械

各府縣養蠶業組合聯合會並に我國に於ける三大製絲會社たる
片倉製絲株式會社
郡是製絲株式會社
鐘淵紡績株式會社
によりて全國に配給せられた數實に數萬臺に及び完全に使用せられつゝある事は如何に本機が實用的價値百パーセントなるかを雄辯に物語るものである

繭型統一のため全國養蠶家の使用蔟は
今や日の本マブシに依りて統一せられんとす

神奈川縣平塚市
株式會社　日本農蠶機製作所
電話七一番

特許

並木式噴霧器

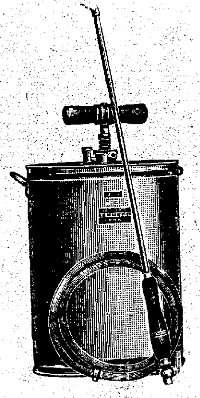
農林省御推奨

大日本農機具協會奨勵機

（店主埼玉縣北足立郡出身）

創業明治四拾四年

噴霧器專門製作



農村の幸福は

一戸に一臺のフンムキより

カタログ呈

製作發賣元

合名會社 並木製作所

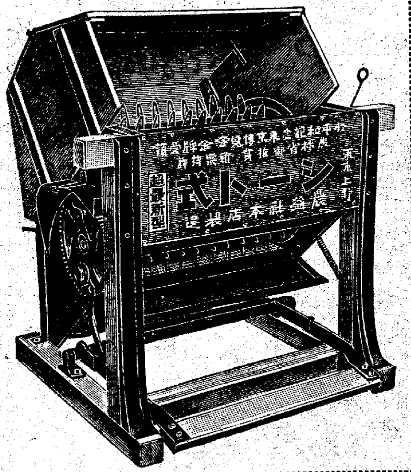
東京市浅草區神吉町十一番地

電話根岸三四三〇番

振替東京六二〇四四番

歴史を誇る優秀農機

シート式稲麥扱機



最新の大改良品

既に定評ある

堅牢と輕快な

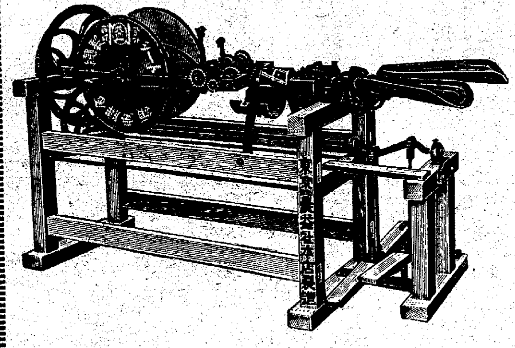
農機の双翼!!!

農家の餘剰勞力を生かす唯一機 シート式製縄機

◆兩踏仕上機

◆輕便仕上機

◆普通型等各種



カタログ進呈

製造發賣元

東京市下谷區車坂町四十六番地

農益社本店

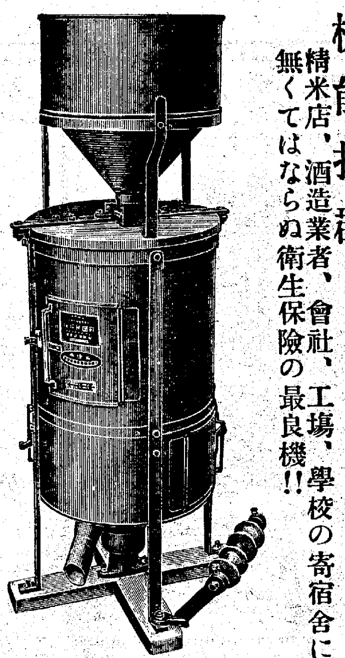
電話下谷一三八五番

振替東京二六四五番

淘がずに炊ける營養米
時代の要望する佐藤式研穀機

機能拔群

精米店、酒造業者、會社、工場、學校の寄宿舍に無くてはならぬ衛生保險の最良機!!



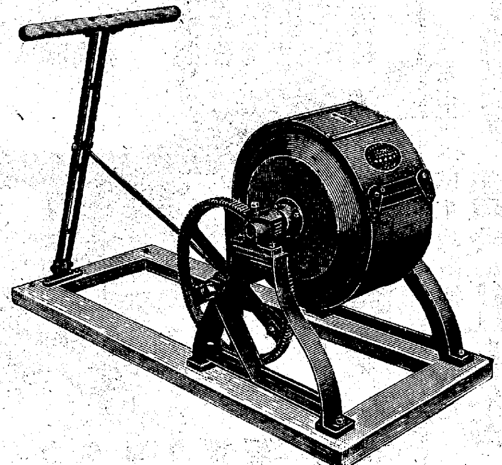
東京市下谷區車坂町四十六番地

發賣元 **農益社本店**

電話下谷一三八五番
振替東京二六四五番

(カタログ進呈)

國家の發明奬勵金を下附された唯一機たるタイム式精米機の御使用を‼手廻用五升機‼僅か二十分間で完全に精白出來ます。



御上京の折御立寄り下されば材料豊富に準備してあります故實驗して詳細御說明申上げます、是非御來店を希望します。

全農家の自力更生を目指す

多年の懸案を解決した
完全無比のシート式籾摺機

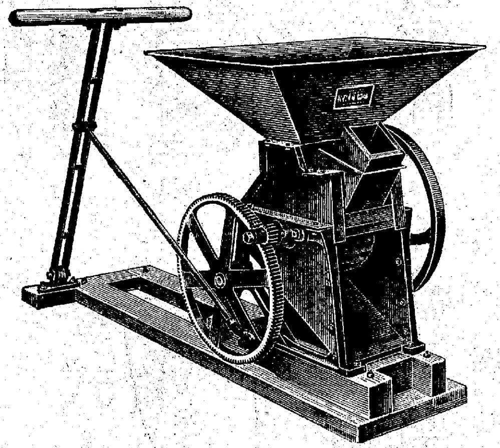
本機の特長

△運轉が輕快で勞力輕減。
△米の本質を究め、米質を損傷せざる唯一の良機。
△構造極めて堅牢、耐久力絶大なること。
△使用場所もとらず持ち運びも容易である。
△消耗費は一俵につき僅かに五六厘に過ぎない。

◎人力用と―動力用唐箕付

◆御上京の折御立寄り下されば材料豊富に準備してありますます故實驗して詳細御說明申上げます。是非御來店を希望致します。

(カタログ進呈)



製造發賣元
農益社本店

東京市下谷區車坂町四十六番地
電話下谷一三八五番 振替東京二六四五番

東京市京橋區寶町一丁目七番地
味の素ビルディング三階

昭和肥料株式會社

電話京橋(56)（自一一三一番(代表)至一一三九番）（自六一七一番(代表)至六一七九番）

鐘淵紡績株式會社結城工場

茨城縣結城町
電話七〇番

農學博士

石田研氏創製

農林省中央試驗場御試驗
各專門學校御試驗
茨城縣蠶絲課御試驗御指定藥

蠶病藥

サンケン

一、當藥は約六種の藥品を化學的に配合し、所有目的に適合せしめたり
一、消毒殺菌力は偉大にして單方藥の如く一方に偏せず、白殭病、ダニは發生せず。出來たチシヤリやダニは直ぐ止る、其他詳細は文獻にあり。
一、當品の散布によりて直に蠶兒の食慾を增加し地に殘葉なく、體强肥大となる。
一、當品の使用により蠶座極めて乾燥をなし、他の石灰、籾糠等散布の要なし。
一、實驗上の結果としては、病氣を撲滅し他方蠶體均齊、收繭增量一割以上の好成績を見る。
一、當品は液體にして、百廿瓦入、稀釋して繭拾貫目量に相當する蠶兒に用ゆ。

東京市下谷區西黑門町四四

東水製藥合資會社支店

昭和十二年三月二十五日印刷
昭和十二四月　一　日發行　【非賣品】
大日本蠶絲會埼玉支會主催
蠶業試驗場創立二十五周年記念繭質改善共進會
繭　檢　定　所　開　所
編輯兼發行人　代表者　太　田　直
高崎市九藏町一〇三番地
印刷人　吉　田　吉　次　郎
高崎市九藏町一〇三番地
印刷所　精　眞　社　印　刷　所

埼玉県立図書館
,31051336